

De-Reference 1401. 19.99

Z 186 J3K3 Atlas Kawase, Kazuma Kokatsujihan no kenkyu

East Asiatic Studies

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

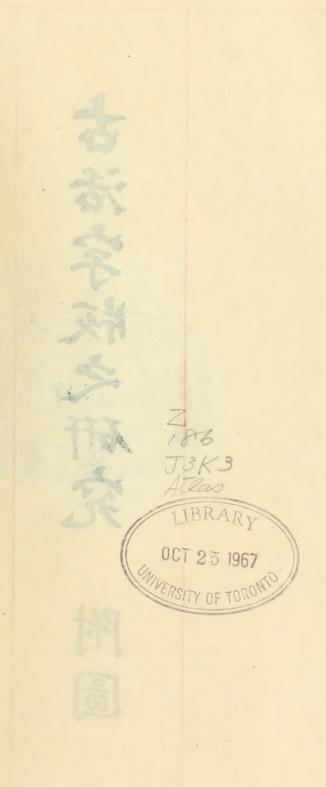
UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY





古活字版之研究

附圖



附圖凡例

L 콥 版 72 が は 卷 本 文 頭 12 0 對 は 古 照 活 12 字 便 す 版 刊 る 行 為 本 12 文 於 H 0 順 る 序 勅 12 版 從 0 0 意 7 義 適 を 思 宜 12 U 編 取 捨 次 そ を 改 加 へ、六 8 T 百 神 典 温 老 た 擇 る h H ~ 本 編 書 紀 纂

神代卷圖書寮尊藏の一本を掲げた。

な ほ 别 系 列 を な す 吉 利 支 丹 版 は 卷 末 12 附 載 L 六 百 0 外 2 L た。

本 附 圖 は 本 文 印 刷 終 了 後 12 印 刷 を 行 0 た 爲 所 收 書 籍 0 所 藏 者 12 變 更 を 見 る 12 至 0 た B 0

本目次の末に附記表示した。

\$

少

<

な

5

から

凡

1

原

0

儘

12

從

0

た。

本

文

0

注

記

3

異

る

别

本

を

收

8

た

\$

0

12

就

5

T

は

别

12

各 頁 圖 版 0 下 部 12 羅 馬 數 字 を 以 T 本 文 參 照 丁 數 を 附 註 L 對 照 12 便 L た から 别 12 卷 末 12 圖 版

書名索引をも附載した。

本 た 附 \$ 圖 0 所 6 收 あ る。 0 昌 貴 版 は、二 重 な る 三 書 0 籍 極 0 8 寫 T 眞 小 數 撮 影 な 3 を 許 例 外 3 n を た 除 3 4 各 全 位 部 12 本 對 書 L 0 篤 爲 < 12 感 新 謝 72 0 12 意 撮 を 影 表 を す 行 る。 0

圖 版 記 名 12 當 り、左 記 括 弧 內 0 略 稱 を 用 U 72 事 を 御 諒 承 戴 4 た 5 な ほ 安 田 文 庫 は 安 田と

略稱した。

圖書寮

附圖凡例

內閣文庫(內閣)

帝國圖書館 (帝國圖)

東京文理科大學(東京文理大)

東洋文庫(東洋)

蓬左文庫 (蓬左)

足利學校遺蹟圖書館(足利)

岩瀬文庫(岩瀬)

京都帝國大學(京大) 神宮文庫(神宮)

陽明文庫 (陽明)

阿波國文庫(阿波) 大谷大學(大谷大)

太宰府神社神庫(太宰府)

大島雅太郎氏青谿書屋(大島) 石井光雄氏積翠文庫(石井)

玉井幸助氏(玉井)

林若吉氏(林)

早稻田大學(早大)

東京帝國大學(東大)

東北帝國大學(東北大)

靜嘉堂文庫(靜嘉堂)

刈谷町立圖書館(刈谷)

叡山文庫 (叡山)

岐阜師範學校(岐阜師)

久原文庫 (久原)

京都府立圖書館 (京都府圖)

東大寺佛教圖書館(東大寺)

九州帝國大學(九大)

故內野五郎三氏皎亭文庫(內野) 丸善株式會社(丸善)

佐々木信綱氏(佐々木) 德富猪一郎氏成簣堂文庫 (成簣堂)

松井簡治氏(松井)

類原退藏氏 (類原)

新村出氏(新村)

吉澤義則氏(吉澤) 鈴鹿三七氏(鈴鹿)

飯島幡司氏 (飯島)

正宗敦夫氏

(正宗)

光藤珠夫氏(光藤)

小山弘房氏(小山)

昭 和

+ 二年

九

月

_ 日

猪熊信男氏 (猪熊)

龜田 次郎氏 (龜田)

杉浦三郎兵衛氏

(杉浦)

故谷村一太郎氏(谷村)

親王院水原堯榮氏(親王院)

故高木利太氏高木文庫(高木)

栗田 元次氏(栗田)

田村專一 郎氏 (田村)

神田 喜 郎氏 (神田)

JII 瀨

馬

識

例

附

圖

凡

===



古活字版之研究附圖目次

附圖所收書日五十音別索引	本文正誤補訂(追 記)	附圖變更訂正表	圖版	圖版目次(第一圖至第六〇七圖)	日 次	附圖凡例	屏	
:				:	•	:		

-12

.Iî.

次

日

-E

 \equiv



古活字版の 研 究 附 圖 目次

古舌字取つ研究帰同日。	一二 元和勅版 皇朝事寶類 遊 刊語 安田文	一一處長動版中庸體記野紙(泰重記紙背) 圖書簽	一〇 慶長動版職原抄 見返卷首 圖書套	九 慶長勅版 孝經 見書巻首 帝國圖書蓮	八 慶長動版 論語・孟子 巻首 ・ 安田文庫藏	七 慶長動版 大學中庸 卷首見返 安田文庫藏	六 慶長動版錦繡 段 公首刊記 東洋文庫	丘 慶長動版 勸學 女 公首刊記 早稻田大學	四 慶長勒版 日本書紀神代卷 題簽 靜嘉堂文庫	三 慶長動版 日本書紀神代卷 見返木起 神宮文庫	二 慶長勅版 日本書紀神代卷刊語 融語 神宮文庫	一 慶長勅版 日本書紀神代卷 卷首 圖書寮尊	
失	城	徐威	空 藏	明被	次·学术	灰嘴朱芒	縦	规	蔵	N.K	滅	版	
		六 	Ii.	.hî.	j'ų	id							
-L:	·四 伏見版 六 韜(慶長五年刊) 巴語 田村專一郎氏藏	一一一 伏見版 三 略(慶長五年刊) 足利學核遺蹟圖書館藏	一二、伏見版三、略〈廣長五年刊〉足利學校遺蹟圖書館藏	二一 伏見版 六 韜 慶長四年刊》《語 阿波國文庫藏	一○ 伏見版 六 衛、慶長四年也 を首:刊品 河波國文庫藏	一九 伏見版 貞觀 政要 医兽河語 安田文庫職	一八 伏見版 孔子家語 川北(異版) 太宰府帥社藏	一七 伏見版 孔子 家語 刊出 京都府立門書館藏	一六 伏見版 孔子家語 各首 問書等尊藏	一五 (學)伏見宮家御板職原抄 巻音減盡 帝國圖書館藏	一四 (學)中臣稅(慶安整版本稿本) 公本 猪熊信男氏藏	一三 元和勅版皇朝事賓類苑 巻首 安田文庫藏	

o o o h h

L

H

三九 市庵版 補註蒙求 卷音	三八 市庵版 補註蒙求(文祿五年刊) 刊	三七法華玄義序(文禄四年刊) 卷首刊	三六天台四教儀集解《交緣四年刊	三五 秀賴版帝鑑問說 挿書前語	三四秀賴版帝鑑圖說卷首	三三 駿河版群書治要 卷首	三二駿河版大藏一覧集會	三一 富泰堂版太平記(慶長八年刊)	三〇 富春堂版太平記(慶長七年刊)	一九 伏見版七 書(異版) 卷首 申語	二八伏見版七書卷首刊語	二七 伏見版東 鑑 日錄本卷首	二六 伏見版 周 易 麥首刊語	二五 伏見版 六 韜(慶長九年刊) 卷首:	
安田文庫藏 二〇	百語 安田文庫藏 一九	可記 安田文庫藏 八八	帝國圖書館藏一八	安田文庫藏一上	安田文庫藏一七	安川文庫蔵一七	製山文庫藏 一六	安田文庫藏一五	成簣堂文庫藏一五	安田文庫藏一四	安田文庫藏一四	東京文理科大學蔵 二三	東洋文庫藏一三	刊畫 高木文庫藏 一二	1
五四 要法寺版 倭漢合連問(順再版)本	五三 要法寺版倭漢合運圖(嘎及五年)各	五二 要法寺版法華傳記(慶長五年刊)	五一書札禮事(慶長十七年刊) 公首司記	五〇古女奉經(慶長七年刊) 《音	四九 古文圣經(慶長七年刊) 刊品	四八職原少(慶長十三年刊 冬首	四七年代紀略附(參考)整版签末	四六市施版醫學正傳刊語	四五市庵版東垣十書祭首末記	四四 甫庵版醫學正傳表紙奏首	四三市庵版十四經發揮《首	四二市虚版醫學正傳序首	四一市庵版十四經發揮「種圖	四〇 市庵版十四經發揮(慶長元年里) 日	
東田元次氏蔵 二六	本 帝國問書館藏 二六	帝國問書館藏二六	高木文庫藏二五	東洋文庫藏二五	高野山寶龜院藏三五	東洋文旗藏二四	安田文庫藏二四	問書信念議二:	安田文庫藏三三	問告任義	安田文庫蔵二二	問書存金蔵三〇	安田文庫蔵ニコ	刊出 安田文庫蔵一の	

Fi. Ŧî. Ti. 六 七 五 要法寺 要 要法 法 -诗 版 版 版 太平 沙 沙 石 石 集(慶長十年 集 記(慶長十年刊) (無刊記別版) 起刊 首公 刊記 京都帝國大學藏 成簣堂文庫藏 成 簣堂文庫藏 ---_ L:

Ŧî. Ti. 九 八 间 il'i 江 江 版 版 文 文 選 選(慶長十二年刊) 原題簽刊記 签首 高木文庙藏 高木文庫藏 カ

六一 文 選(質永二年刊)刊記 安田文庫藏 二九

六〇

直江

版

文

選

答末異

版

安田文庫藏

儿

六二 要法寺版 論 語(整版) 念首·刊記 高木文庫藏 三〇

六三 要法寺版 論 語(凱版) 布活版· 左擊版 安田文庫藏 三〇

六四

大

E

運刊)

您首

寄に欠削減。三一

[:1]

木文庫藏

七七七

形

本

願

1

版

法界次第

公首・

11

成

實堂文庫藏

三六

高木文庫藏三一

七九

元亨釋

版 庸 脯 天台四 金 E 巡門異 運刊異版) 致 版 儀 刊記 您首 集 誰 (慶長十 八年門) 東洋文庫藏 東洋文庫藏 卷首·刊記 - <u>- -</u>

八一

平家物

H

條清和院版俱含論頭

疏

八

rl1

庸

六六

HI

六五

41

届

IE.

運刊)

刊記

六八

要法寺

六七

中

古活字版の研究附岡日次

叡山文庫藏

六儿 上五 七四 七三 七二 七一 1 七六 宗存 本能寺 宗存 本 本 本 B E 能寺 國 國 本 計 版大藏 5 版 付 抄 版 版 版 版 源信 紀 4 法華傳 佛 百 法 能亦前町 抄 目 加 枕雙昏(元和 喻經(五 華 鎌(慶長丁) 胚 (本能寺前町 疏 記 代 版 H 通 (慶長十九年刊)刊記 永三年 を首·刊記 (電永三年刊) 刊記 截 末谷 七年刊) (世長刊) 別人 刊 11 東大寺佛教問書館藏 刊記 東京文理科大學藏 む末 祝山 東洋文庫藏 簣堂文庫藏 祝 安田文庫藏 高木文庫藏 [] 立直藏 一文庫藏 ∵ : Tî. 三四 三四 11 元五 三四

七八寶珠院版教誡新學比丘行護律義(慶長九年刊)

(慶長十年下村生藏刊)を首·刊記 安田文庫藏 三七巻首·刊記 神田喜一郎氏藏 三六

(下村昨房刊)(初版·再版) 成簣堂文庫藏 三八(下村生藏刊) 签八首 東洋文庫藏 三七

卷首·刊記 叡山文庫藏 三八(慶長十六年刊)

九

條清 和1 院版 華嚴 Ti 教 Ti. 一座 長一 上年刊)

八三

東大小佛教圖書館藏

三九

寶藏寺 心蓮院版 版 科 倭 il: E 炒 台前 法 蓮華 卷首 一經(電永 安田文庫藏

三九

八四

八

li.

久原文庫藏 三九

IL

1

篇(異版) 您首 安田文庫藏 三九

八六

心蓮院

版

倭

E

八

Li

炒

心寺

版雲門

国真

禪師廣錄(慶上一八下刊) 安田文庫藝 四〇

高臺寺版禪林類聚(慶長十八年刊) 台末 高木文庫藏 [4]

101

0 =

高野

10

儿

L

八八八

1

九

極尾版脩

華嚴

與旨妄盡還源觀 宣永八年刊 刊記

安田文庫藏

0 =

高野

版

版科主妙法蓮華經(於年刊)引 成實堂文庫藏 [¹]

一 〇 四

高野

天台四 敎 儀 (慶長八年刊) 報山文庫藏 四

<u>_</u>

Ii.

高野

集解要女。宣永二年刊〉卷末 茂國界章(元和 三年刊) 松山文庫藏 叔山文庫藏 M [/C]

0次

元興

3

版

儿

叡山

版

守

九三

叡山

版

九

叡山

版

科

it

九〇

叡山

九四 儿 Ti. 叡山 版授决集(元和四年刊) - :

九六 叡山 叡山 版天台名目類聚鈔(元刊四年刊) 版授决集(元和四年刊界版) 以實堂文庫號

叙山文庫號

PY

["-]

뗏

叙 111 版 7 帖 要 女(置永九年刊 祝山で川城

儿じ

書寫山 快倫版法華經文字聲韻 慶長十八年刊) な首前記 音訓篇集 高木文庫藏

高野 is H 版 版 大日 王澤不渴抄 經問題 (定和十年 (慶長十五年刊) 高野山親王院藏 本な 成實堂文庫等 [75] [74]

高野 版開 版開 心鈔(置永元年刊) 高野山親王院藏 [74] [74] [74]

版古筆拾葉抄 心 月輪秘釋 心鈔(買永四年淨善一) (寛永十 (九年永十) [] E 高野山親王院養 叔山文庙藏 東洋文庫或 pq H. [74] 11 [/1]

版諸等表白鈔 五年刊) [d] 高野山親王院職 M

大展寺版安樂集(慶長十八年川 行事鈔 優長十二年刊 往宗物學院藏 四六

刑記 報山文所職 四六

松山之底

14

0 八 大巖寺版選擇傳弘決疑鈔(慶長十四年刊) 签首·刊記

叔山文庫藏 [12] L

110

新

釵宝林神鼓(慶長八年)

刊合語首

杉浦

郎兵衛氏藏

π.

九

雅

經

本

義(慶長十二年刊)

下卷首·用語

安田文庫藏

∄i. 二

大巖寺版選擇傳弘決疑鈔(慶長 十九年刊) 签首·刊記 安田文庫藏 [70]

0

九

0

三州善宗寺

版阿

彌陀秘直

談鈔元和

七年刊) 念首·刊記

下總法輪寺

版新學行要鈔(元和八年刊)

[-1]

松山文庫藏 M

成 實堂文庫 城 ird

唱導文集(元和六年刊 說經(寬永十五年刊) 叔山文庫藏 נינן 九

東洋文庫藏

ptj

Ju

慶長四年如庵刊) 卷首·刊記 成 質堂文庫藏 fî. =

天海

維摩吉所

_

江

戶

版 版

助

顯

(塵長九年) 刊記首 內野氏陵亭文庫藏 等堂文庫藏 łî. fî.

二九九 三〇

要(十一行本) 卷首 要(上行本) 卷首 成 安川文庫藏 Ξí.

六

延

rij:

最

Fi.

徒

然堂高

命院

抄

75

元享釋書

-1:

延

15

撮

延 ili nij 撮 J. 要(意齊道洛刊) 活 17 附 0 研 完 Fif [] 次

您首·刊記

森潤

I'S

氏藏

Нî,

Ξ

正家

H

蓮

1:

二八

= 素問 新增醫方大成發提

入式運氣論與 印慶 桁段 盖下门穴 [1] ,[1]

醫慶 德皇刊(

刊公正首

'女

人田文庫

減

7î.

=== 和名集並異名製濟記(元和九年梅壽門)

门。此

久原文庫藏

7i

二四四 格致餘論鈔(電水二年梅吉刊) 11 大島雅太郎氏藏

陽明文

心脏藏

孔 Τî

[15]

信 路 岩門 要(慶長十九年紀 1.1 1.5 司。但 成簣堂文庫藏 田元次氏藏

(抽造) 一二六 旅 111) 類本草叙 定 花 4: ·論(寬永五年刊) 公首·刊記 例(文縣五年如庵宗乾刊) 學

難 經 捷 徑 念末·松澤老皇手八 (寬水上四年刊)

天台四 日 運上 教儀 人註 虚談 集註 (慶長五年刊) (慶長六年刊) 空首·刊記 叔山文庫藏

正宗賛(花園 人 莊 蓝造 (題長十三年 枝軒刊) [1] all. ,11 成簣堂女庫藏

労 風 高木文庫蔵 圖片館藏 fi. 六 Hî. li

久原文庫藏

Τì.

li.

11.

机四

Ti.

Ti.

.lî.

成簣堂文庫藏

古活字版の研究附間目次

一四六論語抄(單邊十八行本)卷首	一四五 廿三 問答 卷首	一四四和風安心抄卷首	一四三夢中問答集(小字本第三種)卷首	一四二夢中問答集(小字本第二種) 卷首	一四一夢中問答集(小字本第一種) 卷首	一四0夢中問答集(大字本)卷首	一三九鹽山和泥合水集(寬永三年刊)	一三八元亭釋書(元和三年刊) 卷首·刊記	一三七南浦文集(寬永二年刊)刊記	一三六 黑谷上人語燈錄(寬永三年刊) 刊記	一三五 逼照發揮性靈集(慶長十九年刊)	一三四 無量壽經疏(慶長十九年刊) 念首·刊記	一三三 大乘起信命(慶長十七年刊) 谷	一三二五家正宗養(甲村長兵衛時刊) 杉浦
成簣堂文庫藏 六二	安田文庫藏 六二	大谷大學藏 六二	石井光雄氏蔵 六一	安田文庫蔵 六二	高木文庫藏 六二	靜嘉堂文庫藏 六二	陽明文庫藏 六〇	成簣堂文庫藏 六〇	安田文庫藏 五九	成簣堂文庫蔵 五九	安田文庫藏 五九	製山交庫藏 五八	村一太郎氏蔵 五八	三郎兵衛氏藏。五七
一六一周 易(正運刊)刊記	1六0 二體詩素隱抄(寬永三年刊)	一五九 古女員實抄(元和三年刊) 刊記	一五、四河入海参三首	一五七長恨歌抄行邊上二行本)《首	一五六長恨歌抄後邊上一行本 《首	一五五 蒙求抄 卷首	一五四莊子抄卷首	一五三中庸抄(十三行本)卷首	一五二中庸抄(寬永二年刊)刊記	一五一中庸抄(十六行本) 参首	一五0大學抄、無邊無罪本)答首	一四九大學抄(雙邊十二行本) 今首	一四八 尚書抄(寛永元年刊)刊記	一四七 論 語抄(望是上八行本) 火丁
版		高木文	母居堂文	戊	发用		្រាំ	九州帝國	成置學	久原文庫藏	1/2	电北帝国	た島領太郎	東京文学得大學代

	一七六	一 	一七四四	一七三	 		1七0	一六九	一六八	一六七	一六六	六五	六四	一六三	一六二
	古文	存秋	存秋	龍	航星	春秋	毛	毛	毛	尚	飼	尚	间	周易	周
古活字版の研究	· 孝 經(無刊記本第一種) 您首	經傳集解(慶長中刊(口)種)卷首	經傳集解(慶長中刊(イ)種)卷首	記(第二種本)卷十三首	記(第一種本)卷十三首	·秋經傳集解(歷長十七)卷 足利	詩、第一種本)签首	詩(第二種本(口)版)卷首	詩〈第二種本〈イ〉版〉卷首	書(第四種本) 卷首	書(第三種本) 卷首	書、第二種本)卷首	書(第一種本)卷首	傳義(寬永二年刊)刊記	易(無刊記本) 卷首
附圖日次	安田文庫藏	成簣堂文庫藏	成簣堂文庫藏	高木文庫藏	高木文庫藏	學校道蹟問書館藏	靜嘉堂文庫藏	高木文庫藏	靜嘉堂文庫藏	神宮文庫藏	高木文庫藏	陽明文庫藏	久原文庫藏	久原文庫藏	靜嘉堂文庫藏
	せつ	六九	六九	大九	六九	六八	六八	六八	パス	六	六	六	六	六	六
					, ,		/	/	/\	L	L	Ŀ	-1:	六	六
						-			^	Ľ	Ľ	ť	: ا ا	ブ;	77
	九一	一九〇	一八九	一八八八	一八七	一一八六	一八五	一八四		_	一八八		一七九	六一一七八	
	ı [†] î	0 增	八	一八	一八	- 一 八	一八八	一八	八二八三流		一八		一七九 孝	一大大古	
		0	八九	一八八八	一八七	一八六	一八五	一八四	一八三	一八二	一八一	1八〇	一七九	一七八八	-1:-1:-1:
	一古今韻會學要《無界本》	0 增廣龍龍手鑑	八九 孟 子(第五種本)	一八八 孟 子(第四種本)	一八七 孟 子(第三種本)	一八六 孟 子(下村生藏刊) 卷	一八五 孟 子(正運刊)	一八四 論語(慶長八年以前刊)	一八三 論語(無刊記本第三種)	一八二 論語(無刊記本第二種)	一八一論語(慶長十四年刊(日)種)	一八〇 論語(慶長十四年刊(イ)種)	一七九孝經大義	一七八 古文孝經(無刊記本第三種)	一七七 古文孝經(無刊記本第二種)

79

1

·に した

10% 二 〇 五 101 101 101 1100 九七 九九 九八 九六 九三 九二 ル ナレ Ti [74] ţį fL 11 十九史略 後 坦 儿 古今韻會學要(有界本)不 小 開 史 說女解字篆韻譜 下公首 古今韻會學要(有界本(口 觀 八 FIL Hi 元 5-漢 政 要(元和七年刊) 通 史 集 天 11: 記(無界九行本) 公首 記(無界八行本) 公首 記(傅嵯峨本) 卷首 鏡(慶長十三年刊) 因記 略 寶 紀 說 像 通考(東屬寺版) 公首·司品(擊版) 東洋文庫藏 を首 を首 您一末 遭 を首 下卷插圖·卷首 4 您首 刊記 H 护 13.51 5 成實堂文庫藏 成簣堂文庫藏 東洋文庫藏 東洋文庫藏 久原文庫藏 久原文庫藏 東洋文庫藏 安田文庫蔵 高木文庫藏 高木文庫藏 高木文庫藍 安田文庫藏 同書安等藏 問書你尊藏 -U L. Ti. し九 七八 七八 じ八 Ŀ . L 上六 し六 E: L. Tî, -元 二 () 七 二六 二 五 <u>-</u> --二〇九 二〇八 二一九 二八八 110 ===0 二 一 七 棠陰 祥 流鎮内傳金鳥玉鬼生(學版上) 祥 施 が 隨籍內傳金島玉鬼集(電水六)司 流籍内傳金島玉兎集(四八五) 沂 髪 **晦** 庞先生 沂 祈 冷 邵康節先生心易梅花數(資本 刑 刑 儀 H 刊 赔 增 編 要院(選永元年刊) L 夜話 止 要 兵 1/1. 館 艦 求(九行本(イ)種) ·ji. 防造 他 的 11. 林 文 語錄類要 (寬永二十年刊) (元和中刊) 公首 15 400 煩 Ji 合資 水 祭首 Ne 聚 な音 ~ 首 答首 正位二年 () 回己 11 中您首 公首,同記 11 尼巴 成質量交庫藏 阿波因文庫藏 安田文庫藏 安田文庫蔵 安田文即為 久原文庫藏 東洋文庫號 安田文庫藏 高木文庫藏 安田文庫藏 高木文庫藏 安田文庫藏 安田文庫戦 久原文庫藏 久原文庫藏

八〇

八二

1

~

八一

八一

古活字版の研究附一	三二六老子羅公首	二三五莊子屬齊口義(十行本)卷首	二三四莊子屬齋日義八七行本) 心首 栗	二三三列子屬齊日義 卷首 成	二三二古注千字文(元和:寬永中刊)卷首	二三一古注千字文(元和三年刊)刊記	二三〇 古注千字文(慶長中刊無刊記本) 卷末	二二元 古注千字文(慶長十三年刊)刊記	二二八新編剪燈餘話卷首大島	二二七剪燈新話句解卷首	二二六氏族大全(元和五年刊) 刊記	二二五 韻府群玉(寬永二年刊)刊記 帝	二二四蒙 求(無注本) 卷首 帝	二二三 蒙 求(十四行本) 中卷首	二二二蒙 求(九行本(口)種) 中您首
間 11 -欠	成簣堂文庫蔵 八六	東洋文庫蔵 八六	田元次氏藏 八六	置堂文庫藏 八六	安田文庫藏 八五	安田文庫藏 八五	高木文庫藏 八五	高木文庫藏 八五	雅太郎氏藏 八四	高本文庫藏 八四	安田文庫藏 八四	國圖書館藏八四	國圖書館藏 八三	高木文庫藏 八三	高木文庫蔵 八三
一无	二五一山谷詩集注(紅注本)、助衛門刊) 名	二五0 山谷詩集注(第四種本)巻首	二四九 山谷詩集注(第三種本)卷首	二四八山谷詩集注(八行大字本)卷首	二四七長恨歌傳(吳種本)卷首	二四六長恨歌傅第四種本)卷首	二四五長恨歌傅(第三種本)卷首	二四四長恨歌傅(第二種本)卷首	二四三東坡先生詩卷首	二四二 胡 會訴註 中登首	二四一白 氏文集 公首校語	二四0 昌黎先生文集 卷首	二三九老子腐齋日義(七行本)卷首	二三八老子屬痛日義(八行本)卷首	二三七老子鷹齋日義(九行本)卷首
		東洋文庫载 九〇	久原文庫蔵 九〇	安田文庫流 九〇	高木文庫藏 八九	安田文庫藏 八九	京都府立圖書館裁八九	安田文庫藏八九	高本文庫藏 八八	高木文庫裁 八八	安田文庫藏 八八	成簣堂文庫戰八七	東洋文庫較八七	成簣堂文庫藏八七	帝國圖書館藏八七

二五八八 二. Ti. 二六六 二六元 二六四 工 二 Ji. 二 二大三 二六二 二六二 二六〇 Tî. 76 75 Tî. [1] (号)好 八 13 ı^lı ıl; ιlî 1 iL ì L 慶長九年平假 」成 城 城 ili di 训風 湖 I'Li 文 暗 文 文 文 Hi Thi 义 文 風 眞 眞 眞 眞 聯 聯 聯 抄 近 眞 古日錄所載傳慶長元年曆 嶋]] H TY 解 預 寶 寶 H 領 句(元和四年刊) 彻 句(電水元年刊) 集略 集 公首 後 後 (寬永五年刊) 後 後 俊 ijij 略 公出 7, 註(寬永六年刊) 註 集 集 11: 集 4 集(第五種本) 卷首 肝日 中慶 、第四種本) 公首 (第六種本) 卷首 (慶長十四年刊) 念首 第三種本) 公首 11/1 念首 刊記 刊吧 念首 刊記 11 京都府立圖書館载 刊記 取 片斷 北帝國大學成 靜嘉堂文庫成 靜嘉堂文庫鼓 成簣堂文庫載 安田文庫或 東洋文庫或 東洋文庫藍 安田文庫戲 高木文庫截 陽明文庫藏 安田文庫藏 高木文庫蔵 高 不文庫或 節為堂蔵 九四 九二 九三 10 ルー 九四 九四 九三 九二 プレ こ 九二 1/L JL -JL 儿 二七三 ニハロ 二 --二七八 二七七 二七七 二七六 二七五 二七四 二七二 二七一 二六九 二六八 二六七 ナレ 伊勢物 17 (イ)解 太平 た (Jt 本朝古今銘盡(八行大字本) 卷首·附第四 伏 Th 本朝古今銘盡(慶長十六年刊) 太平記賢愚抄 Y 111 Ц 本朝古今銘盡八小字八行事節 下 势 约 大 傳 华勿 見 常雅 II. :11: 記(慶長丁五年刊) 物 物 15 集(優長十四年以前刊) 公首 紛 語聞 [1]1 H 祖 Diz. 签末 記(第二版 工年刊)上卷末 ill 常 (軽喊本第一) 签首·刊記·插出 思 害(姚 枫 本)谷許 (明眼本第五話本) (慶長十四年刊) 签首,同品 第二八朵去·插品 何十八 抄 慶大十五年刊 11

(種) 台首

安田文庫或

1/L

[.

安田文庫或

IL

L

安田文庫或

九六

刊。但

高木文庫藏

九六

松井佃治氏藏

ルバ

安田文庫或

1

.IL

公衣

安田文庫載

12

安田文庫或

12

L

成簣堂文庫藏

1

帝國圖書僧藏

九八八

東京文理科大學成一二

正宗敦夫氏藏

九九

東洋文庫或

ħ 九

九

大島州太郎氏战

九

.I1.

安田文庫農

12

li

二九五 百 人 一首(《岷峨本第二種本》卷首 東洋文庫	二九四 百人 一首(嵯峨本第一種本) 参并 東洋文庫	二九三 久 世 舞(戲眼本三十六曲本) 卷首 東洋文庫	二九二 久 世 舞(崎峨本三十曲本) 巻首 安田文庫:	二九一 謠本 高 砂(蘇峨本第六種本) 念首 安田文庫	二九0 謠本 高砂(咸興本第八種本) 卷首 安田文庫	二八九 謠 本 高 砂(蘇州本第七種本) 去紙 安田文庫	二八八 謠本高砂(場嶼本第七種本) 巻首 間書客館	二八七 謠 本 高 砂 咸順本第四種本)答首 高本文庫	二八六 謠 本 高 砂(咸顺本第二種本) 卷首 東洋文庫	二八五 謠本高砂、嵯峨本節一種本)表紙、沒首 東洋文庫出	二八四 徒 然 草《嵯峨本第二種本》答首 東洋文庫	二八三 源 氏 小 銳 威喊本〉答首 成餐堂文庫	二八二 撰 集 抄(崎順本) 去紙卷首 安田文庫	二八一方 丈 記(蘇峨本第一種) 公首·屬書八語 東洋文庫
_ ,			<u>~</u>	* ;		-)			ر د	-	州 艾	%	斯····································	成二元
三一〇女訓抄(寬永十六年月) 公首·刊記	三〇九女訓抄(資永上四年刊) 刊出	三0八しつけかた。6首	三〇七武家諸禮集(資永八年刊) 刊記	三〇六 武家諸禮集(電永中刊上三行本) 於首	三〇五武家諸禮集(元和寬永中刊) 卷首	三〇四武家諸禮集(元和中世) 各首	三0三世諺間答答	三〇二公事根源卷首	三〇一職原私抄(置乘四年刊) 田忠	三00 貞永式目抄(十二行本) 卷首	二九九 真水武目抄《上三行本(旦)種〉食首	二九八 貞永式目抄(十三行本(不)年) 参首	二九七 貞水式目抄(慶元中刊(日)科) 会首	二九六 貞永式目抄(元和七年刊) 四記 刈谷
高木文庫藏 10八	阿波國文庫藏二八	安田文庫藏 13人	龜田次郎氏蔵ここ	果川尤治氏藏一二	安田文庫蔵一つ	安田文庫蔵ココ	阿波國文庫藏一会	成簣堂文庫藏一二六	安田文庫藏二六	成簣堂文庫藏 二六	帝國圖書館藏一五	国际党队	商本文庫或一つ五	所法圖書館處 10五
	九五百人一首(岷峨本第二種本)签首 東洋交庫藏一四四 三一0 女訓抄(寬永十六年刊) 卷首刊記	九五 百人 一首(嵯峨本第二種本) 巻首 東洋文庫藏 158 三10女 訓抄(寬永十六年刊) 巻首刊記 高木文庫藏九四 百人 一首(嵯峨本第一種本) 巻首 東洋文庫藏 158 三0九女 訓抄(寬永十四年刊) 刊記 阿波國文庫藏	 九五 百 人 一 首(『順東本第二種本) 巻音 東洋文庫蔵 1° □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	 九五 百 人 一 首(『順東本第三種本) 巻音 東洋文庫蔵 10g 五 百 人 一 首(『順東本第三種本) 巻音 東洋文庫蔵 10g 五 0 九 女 訓 抄(覧永十四年刊) 刊記 河波國文庫蔵 安田文庫蔵 20g 五 0 九 女 訓 抄(覧永十四年刊) 刊記 海田次郎氏蔵 安田文庫蔵 10g 	 九五 百 人 一 首(『県本第二種本) 巻音 東洋文庫蔵 10 三 0 本 訓 抄(覧永十六年刊) 巻音 平田元治氏蔵 カニ 人 世 舞(『県本第二種本) 巻音 東洋文庫蔵 10 三 三 0 本 武 家 諸 禮 集(覧永八年刊) 刊記 短田次郎氏蔵 安田文庫蔵 10 三 0 本 武 家 諸 禮 集(覧永八年刊) 刊記 短田次郎氏蔵 安田文庫蔵 10 本 武 家 諸 禮 集(覧永八年刊) 刊記 毎田次郎氏蔵 安田文庫蔵 10 本 武 家 諸 禮 集(覧永八年刊) 刊記 11 種田次郎氏蔵 安田文庫蔵 10 本 武 家 諸 禮 集(覧永八年刊) 刊記 11 種田次郎氏蔵 安田文庫蔵 10 本 武 家 諸 禮 集(覧永八年刊) 刊記 11 種田次郎氏蔵 11 本 11 本 12 本 12 本 13 本 13 本 14 本 13 本 15 本 16 本 16 本 16 本 16 本 16 本 16 本 16	 九五百人一首(咸順本第三種本)巻首 東洋文庫蔵 10番 三0九 山 抄(寛永十六年刊)巻首 東洋文庫蔵 10番 三0九 山 抄(寛永十六年刊)刊出 毎日次郎氏蔵 安田文庫蔵 10番 三0九 山 抄(寛永十四年刊)刊出 毎日次郎氏蔵 安田文庫蔵 10番 三0九 山 抄(寛永十六年刊) 刊出 毎日次郎氏蔵 安田文庫蔵 20番 山 抄(寛永十六年刊) 日出 	五百人一首(崎県本第二種本) 巻首 東洋文庫蔵 1~2 三0九 女 訓 抄(寛永十六年刊) 巻音 刊記 高木文庫蔵 1~3 三百人 一首(崎県本第二種本) 巻音 東洋文庫蔵 1~3 三0九 女 訓 抄(寛永十四年刊) 刊記 徳田次郎氏蔵 東洋文庫蔵 1~3 三0九 女 訓 抄(寛永十四年刊) 刊記 徳田次郎氏蔵 安田文庫蔵 1~3 三0九 武 家 諸 禮 集(元和・寛永中刊) 刊記 徳田次郎氏蔵 安田文庫蔵 1~3 三0九 武 家 諸 禮 集(元和・寛永中刊) 巻音 安田文庫蔵 安田文庫蔵 安田文庫蔵 1~3 三0九 武 家 諸 禮 集(元和・寛永中刊) 巻音 安田文庫蔵 安田文庫蔵 安田文庫蔵 1~3 三0九 女 訓 抄(寛永十四年刊) 巻音 安田文庫蔵 安田文庫蔵 安田文庫蔵 1~3 三0九 女 訓 抄(寛永十四年刊) 巻音 安田文庫蔵 安田文庫蔵 1~3 三0九 女 訓 抄(寛永十六年刊) 刊記 徳田次郎氏蔵 安田文庫蔵 1~3 三0九 女 訓 抄(寛永十六年刊) 日記 徳田次郎氏蔵 安田文庫蔵 1~3 三0四 武 家 諸 禮 集(元和・刊) 巻音 マ田文庫蔵 安田文庫蔵 1~3 三0万 女 訓 抄(寛永十六年刊) 巻音 マ田文庫蔵 安田文庫蔵 1~3 三0万 女 訓 抄(寛永十六年刊) 巻音 マ田文庫蔵 1~3 本 音 一 本 本 音 砂(崎県本・一 本 本) 巻音 東洋文庫蔵 1~3 本 音 一 本 本 音 砂(崎県本・一 本 本) 巻音 中 一 本 本 音 砂(崎県本・一 本 本) 巻音 東 田 元 治氏蔵 安田文庫蔵 1~3 本 音 一 本 本 音 砂(崎県本・一 本 本) 巻音 東 田 元 治氏蔵 安田文庫蔵 1~3 本 音 一 本 本 音 砂(崎県本・一 本 本) 巻音 東 田 六郎 表 音 中 本 本 音 一 本 音 一 本 音 一 本 音 一 本 本 音 一 本 音 本 音	五百人一首(咸峨本第三種本)巻音 東洋文庫載 10世 三0五 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 安田文庫藏 10世 三0五 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 安田文庫藏 10世 三0五 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 安田文庫藏 (10世 三0五 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 安田文庫藏 10世 三0五 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 安田文庫藏 10世 三0五 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 安田文庫藏 20元 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 20元 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫藏 安田文庫藏 20元 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫義	五百人一首(嵯峨本第二種本)巻首 東洋文庫載 17世 三0二公 事 根 源 巻音 (元和中世)巻音 東田文庫載 17世 三0二公 事 根 源 巻音 (元和中世)巻音 東田文庫載 17世 三0二公 事 根 源 巻音 (元和中世)巻音 安田文庫載 17世 三0二 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫載 17世 三0二 武 家 諸 禮 集(元和中世)巻音 安田文庫載 20世 武 第 20世 武 第 20世 五 2	本 謠 本 高 砂(原興本第二種本) 巻音 東洋文庫戦 1 7 2 三 0 二 以 割 抄(寛永十四年刊) 刊 2 2 四 八 人 一 首(原興本第二種本) 巻音 東洋文庫戦 1 7 2 三 0 二 以 事 根 源 巻音 安田文庫戦 大 部 高 砂(原興本第二種本) 巻音 東洋文庫戦 1 7 2 2 2 2 2 3 4 4 4 (寛永八年刊) 刊 2 2 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	五 高 人 一首(嚴噪本第二種本) 巻音 東洋文庫載 1 0 三 0 九 湖 抄(覧水上2年刊) 刊出 協田次郎氏蔵	四 佳 然 草(咸桃本等二種本) 巻音 東洋文庫載 172 三 0.0 貞永式目抄(十三行本(中刊) 巻音 帝國國書館載四 在	三四 八 一 首(蘇州本第二種本) 巻音 東洋文庫載 172 三 20 山 水式目抄(十三石本(こ)種) 巻音 帝國國書館載 2 源 八 小 鏡 蘇州本第二種本) 巻音 東洋文庫載 172 三 20 山 水式目抄(十三石本(こ)種) 巻音 帝國國書館載 2 源 本 高 砂(蘇州本第二種本) 巻音 東洋文庫載 172 三 20 山 水式目抄(十三石本(こ)種) 巻音 帝國國書館載 2 源 本 高 砂(蘇州本第二種本) 巻音 東洋文庫載 172 三 20 山 水式目抄(十三石本(こ)種) 巻音 安田文庫載 172 三 20 山 水 諸 磯 集(元和東京・中国・) 巻音 安田文庫載 172 三 20 山 ボ 家 諸 磯 集(元和東京・中国) 巻音 安田文庫載 2 2 八 世 輝(蘇州本第二種本) 巻音 安田文庫載 172 三 20 山 武 家 諸 磯 集(元和東京・中国) 巻音 安田文庫載 2 2 八 世 輝(蘇州本第二種本) 巻音 安田文庫載 172 三 20 五 武 家 諸 磯 集(元和東京・中国) 巻音 安田文庫載 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	三源 氏 小鏡 頭un 本部 一種本)参育 東洋文庫號 108 三0九 九 訓 抄(電本十四年月) 20 日之 面

三二五 禁 經(慶長中刊平假名本) 卷末	三二四 禁 經(慶長十二年刊) 签首司語(整理	三二三花の傳書巻首	三二二 值 傳抄(電永十七年刊) 刊記	三二一值傳抄(第四厘本) 卷首	三二〇 仙 傳 抄(第三種本(千)種) 公本藏語	三一九 仙 傳抄(第三種本(口)種) 巻首	三八仙傳抄《第二種本》卷首	三一七 仙 傳抄(第一種本) 卷首	三一六鞠の書会首	三一五 驊騮全書 電永六年刊》签首·同記	三一四めのとのさうし(十一行本)を首	三一三めのとのさうし(九行本)を首	三一二女訓集(十一行本) 卷首	三一女訓集(千行本) 您首	されずりとのです。
高木文庫藏二三	版) 安田文庫蔵 ニュー	久原文庫蔵 二二	高木文庫藏一三二	安田文庫藏一二三	帝國問責館藏一二	久原文庫藏二二	東洋文庫蔵ニニ	栗田元次氏藏 二〇	神宮文庫蔵ニコで	帝國問書館蔵「こっ」	阿波國文庫藏 一元	東洋文庫藏二四九	松井筋治氏藏一元	安田文庫藏 10元	[:
三四0大和物語、慶元中刊十一行本(中)種)	三三九大和物語(復長中川十一) 各首	三三八 伊勢物語關疑抄(無回記本(八)種)	三三七 伊勢物語關疑抄(無司記本(口)種)	三三六 伊勢物語關疑抄 每司記本(子)種) 卷首	三三五伊勢物語關疑抄公上有荷門門公公首	三三四 伊勢物語關疑抄(仁右衛門刊)刊記	三三三 伊勢物語竹開抄(慶長中刊) 存首	三三二 伊勢物語(慶長中川十一行本)	三三一竹取物語(第四種本(中)種)上台首	三三 的取物語(第四種本了)印)下於首	三二九竹取物語(第三種本) 公首	三八竹取物語(第二種本) 会首	三二七竹取物語(第一種本)公首	三六象戲馬法	,
高木文庫藏	大島雅太郎	首成質堂文庫	水雀 安田文庫或	公首 神宮文庫或	安田文庫	安田文庫蔵	成簣堂文庫蔵	安田文庫或	光族珠夫氏藏	神宮文庫或	久原文庫或	成簣堂文庫成	高木文庫及	商本文	

古活字版必研究	三五五源氏小鏡(元和中刊十二行本)公首	三五四源氏物語(本(不)種(口)種) 公首	三五三 源 氏 物 語(元和九年刊本) 卷首·刊記	三五二源氏物語(傳ķ城本) 公首	三五一うつぼ物語(第二種本) 公首	三五〇うつぼ物語(八八種本)な首東大	三四九 うつぼ物語(第一種本(イ)種) 合音	三四八大和物語(寬永十六年刊(中)種)刊	三四七大和物語(電水十六年刊(不)種)刊	三四六大和物語 電水中川十二行本) 卷末	三四五大和物語(元和中門十二) 公首	三四四大和物語(元和中門十二)公首	三四三大和物語(元和中川十二) 公首	三四二大和物語(行本(不)種一) 签首	三四一大和物語(優元中刊十一) 公首
附侧日次	鈴鹿三七氏蔵 三二	久原文庫職 三二	安田文庫蔵 110	安田文庫蔵一二	久原文庫藏 二二	寺佛教岡書館蔵 二元	成簣堂文庫或一元	記 阿波國文庫藏 二元	記成簣堂文庫藏 二元	靜嘉堂文庫藏 二八	松井簡治氏蔵二二八	岐阜師紀學校成一六	久原文庫蔵 二八	高木文庫蔵コニ	安田文庫載震災一七
一九	三七〇寶物集(飛本(口,種一) 念首	三六九寶物集(種本(个)種一) 公首	三六八字治拾遺物語為首	三六七 住 吉 物 語(第三種本) 卷首	三六六 住 古物語(第二種本) 会首	三六五 住 吉物語(第一種本) 炎資	三六四 狹衣物語(質水中衛十三行本)卷首	三六三 疾衣物語(記本(日)種一) 公首	三六二族衣物語(巴和中刊無用) 卷音	三六一狹衣物語(元和九年刊) 金弄刊記	三六0源氏物語紹巴抄 公首	三五九源氏小鏡(管水中刊上二) 公首	三五八源氏小鏡(宿水中刊十三) 台首	三五七源氏小鏡(電水中刊十二) 签首	三五六 源 氏 小 鏡(寬永中刊十三行本) 卷首
	靜嘉堂文庫戒 一五	東京文理科大學載一二	高木文庫戏 二五	安田文庫藏震災一門	安田文庫藏二四	安田文庫蔵一二四	首 一部嘉堂文庫載 1 · 8	松井簡治氏或一二	安田文庫蔵ニニ	品 靜嘉堂文庫或 100	安田文庫蔵二三三	東北帝國大學藏一二	高本文庫藏「三三	高木文庫藏 1三	華 東洋文庫蔵 二二

三八五 徒然 草、宗母指十行本) 念首 安田文庫載一三〇一	三八四 清少納百枕草子(十三所本) 各首 安田文庫載 一三元	三八三 清少納言枕草子(六)治本) 公首 安田文庫藏 15年	三八二 清少納言枕草子(丁三行本) 公首 靜嘉堂文庫殿 三元一	三八一清少納言枕草子(八一)町下) 卷首 帝國問書館載一二七一	三八〇 清少納言枕草子 十行本之公首 内閣文庫載 二八	三七九 清少納官就草子 第三行本(中)行人至高本文原或 一三	三七八 清少納言枕軍子而言本不能)会首 州富文庫般一七	三七七沙石集(三百四年刊)一記 安田文庫載 二七	三七六沙石集(元白三年丁一八五) 京都帝國大學戒一七	三七五撰集抄第三日本(子)量)人等 松井衛治氏戲二六	三七四撰集抄(第二届本) 等 靜嘉堂文庫或 三五	三七三 撰集抄(第一年下) 公首 安田文庫或 二六	三七二寶物集、電水十六年刊) 直北高本文庫載一二本	三七一寶物集宣水中司第一種本人不)種)公子 安田文庫或 三五	では、一般の
四00 平家物語(白有衛門司本) 因此	三九九 平家物語(白衛門司本) 巻首	三九八 年家物語 章假名上行事 人名	三九七増館で	三九六水 鏡 公子	三九五大鏡水	三五四祭 華物語/一	完三十六夜日北人5	三九二方文記(應長中三十行本)公子	三九一徒然草、元和官水中同十一行本。	三元 (徒 然 草、鹿田中田十一行本)、丁丁	三八九徒然草、慶長中二十二行本)至了	三八八 徒 然 草、慶長中田十一行本(中)年)	三八七徒然草(鳥丸本) 水等自語	三八六 徒 然 草、以城本名五八九日本	
安田文庫載一三十	安田文庫戲二	松井油治氏或	安田文庫技工工	安田文庫載二二	安田文庫最上	村川泊代版	安田文庫裁士	安田文庫或一丁一	6. 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	和原法成氏技术。	安田文庫最二二	く 工 安田文庫茂 !!!	安田文庫最一	发門文庫院	

古活字版の研究附間の	四一五 保 元 物語 第三種本) 签首 東洋	四一四保元物語(第三種本)卷首 東洋	四二三保元物語(第一種本) 签首 猪熊信	四二三源平盛衰記、研訓凱散)	四一源平盛衰記(十二行本)卷首 東洋	四10源平盛衰記(十一行本)卷首 松井丽	四〇九 平家物語(十二行平假名本景版) 卷三首 安田	四〇八 平家物語八十二行平假名本) 念三首 安田	四〇七 平家物語(中院本) 卷首·校語 安田	四〇六 平家物語(附西片假名本) 套首 安田	四〇五 平家物語(雙邊十二行片假名本)会首 成簣堂	四0四年家物語(單邊十二行片假名本)卷首 久原	四〇三 平家物語(覺一本)卷首 靜嘉堂	四〇二 平家物語(質永元年刊) 卷首刊記 安田	四0一 平家物語(四旬年) 刊記異數 京都府立問
11 次	任文庫蔵 二次	在文庫截 二六	男氏藏 言	文庫蔵 三	正文庫處 二毛	治氏蔵 言	文庫蔵 三六	文庫或一次	文庫成 三	文庫或 主	文庫成 二五	次庫藏 二五	文庫藏 二二	文庫藏 一二	The state of the s
		, ,			J										
=======================================	四三0保元物語(元祖四年刊) 巻首	四二九平治物語、片川名十一行本)各首	四二八平治物語命八種中的中公首	四二七保元物語(片順名一一行本) 各首	四二六保元物語(第八種本)中各等	四二五平治物語、第七種中)公首	四二四平治物語(第六種本) 公首	四二三保元物語(第七種本) 泰首	四二二保元物語(第六種本) 卷首	四二年治物語、第五種本)公首	四二〇平治物語(帝四種本) 各首	四一九保元物語(第五種本) 各首	四八平治物語(第三種本)刊記	四一七平治物語(第三種本) 卷首	四六平治物語(金三百本) 卷百
	成簽堂文庫最	久原文庫蔵	東洋文庫或	類原母或氏式	杉浦三郎兵衛氏戏	安田文庫藏	光陈珠夫氏或	安川文庫或	光藤珠夫氏乾	高木文庫藏	東洋文庫或	靜嘉堂文庫藏	京都帝國大學成	安川文庫藏	玉井幸助氏藏

灵灵

per est ret ret per

--14

F1 F2 0 C

1	
7	F.
î.	活
1	字:
	枇
,	·
j	闸
	完
	<i>A</i> 1
	(*,4)
	45
į	

四四五義經記(第四種本) 公首 对谷町立岡書館	四四四義經記(第一年本) 参三首 安田文庫	四四三 曾我物語《電水中刊上二行本(口)種) 安田文庫	四四二 曾我物語《寬永中刊十二行本(千)種) 神宮文庫	四四一會我物語(其本異版) 插書 高木文庫	四四〇 曾 我 物 語(十二行種畫本) 签首 大島雅太郎氏	四三九 曾我物語(十二行本) 会首 腳嘉堂文庫	四三八曾我物語(十一行本)卷首 高本文庫	四三七 曾我物語(復盛十行本) 公首 安田文庫	四三六太平記抄音義第一極本)奏首 安田文庫	四三五太平記抄(第一年中) 各首 安田文庫	四三四 太 平 記 (慶安二年日) 巻首 司記 岡書寮尊	四三三太 年記 置成元年刊) 各首 山地 成簣電文庫	四三二太平記(元行三年刊) 卷一本刊記 安田文庫	四三一平治物語(豆和四字已)刊記 成簣堂文庫	
咖啡	心	rdi A	水	H. L.	THE PER SE	1 () () () () () () () () () (14	N.V.	Free Pres	州之 一	W.	:/\ti	M.V.	从二二二二	
四六0 左大將	四五九	四五八百	四五七百	四五六自	压, 无。	四五四	四五三新	四、五二	四五二	Fi.	四四九八	四四八義	四四七	四四六	
家六百番歌合(婦長)答 東京文即科	大將家六百番歌台(平上)《首	人一首抄(已種)卷首	人一首抄((イ)種) 巻首	歡 址(資永十年刊) 卷首	唉和歌集会	古今和歌集(子行本)卷首	古今和歌集年一行下)《江	(葉生)新問本) 水首	夏菜生(同川本)《首	野學品人首	雲御抄る三首	經 记(買永十年刊) 卷首	義經記(第五种本)人首輔書	義經記(第三種本)次首節	

占活字版の研究	四七五連歌至寶抄(第一種本)次首	四七四藻鹽草((口)种) 签首	四七三連歌至實抄(第三頭本) 巻首	四七二 匠材集(第二種本) 念首	四七一匠材集(第一種本(八)種)卷首	四七0 匠材集(第一種本(不)種) 卷首	四六九無言抄(第二種本(口)種)	四六八無言抄(第三種本(不)種) 後首	四六七無言抄(第一種本) 公首	四六六分葉抄卷首	四六五 隨 葉 集 念首	四六四類字名所和歌集(第二種本)為首前	四六三 類字名所和歌集(第三種本) 会首	四六二 勅撰名所和歌抄出 卷首	四六一左大將家六百番歌合(種本) 公首刊
附門不次	安田文庫藏一芸	神宮文庫蔵二芸	久原文庫藏二五五	高木文庫藏一五五	久原文庫藏 一至	東洋文庫藏一至	高木文庫藏一至四	東洋文庫藏一五四	帝國圖書館就二五四	各町立岡吉館蔵 至	內閣文庫藏一五二	記 成簣堂文庫藏一二	安田文庫藏一五二	成簣堂文庫載二五二	刊記 東洋文庫藏 二五一
0.78	四九0花傳書(第二種本(八)種)卷首	四八九花傳書、第二和本(不)種)卷首	四八八花傳書(第一和本(口)和) 在首	四八七花傳書八第一和本(八)和)祭首	四八六四生の歌合を音が振	四八五新撰大筑波集(第四種本) 公首	四八四 新撰大筑波集(第三種本) 各首	四八三新撰大筑波集(第一種本(日)種)	四八二 新撰大筑波集(第一种率(子)種)	四八一新撰大筑波集(第二種本)を育	四八0發何帳(第二種本)	四七九發何帳(第一種本(口)版)	四七八發句帳(第一種本(子)版)	四七和歌題林抄卷首	四七六連歌至寶抄(第二種本) 卷首
	東洋文庫藏一:	安田交庫或二六	安田文庫載一五	安田文庫戲一点	東洋文庫蔵二五	竹冷文庫舊藏 15	竹冷文庫舊載二五	伊藤為之助氏就一五	竹冷文庫舊藏一五	安田文庫藏一系	安田文庫蔵	安田文庫戲一五	安田文庫藏一五	東洋文庫蔵一	安田文庫藏一品

五0三續錦	五0二續錦	五0一錦繡	五00錦繡	四九九錦繡	四九八錦繡	四九七錦納	四九六 口)間	四九六(十)清	四九五本朝	九四	四九三 高	四九二流	四九一方面	
編 段抄 念首	編 段 企首	段抄、星邊十三行本(中)種)卷首	段抄(單邊十三行本(子)種) 巻音	段 抄(寬永六年刊) 签首·刊記	抄(雙邊十四行本)卷首	段公许	の本	抄(慶長中川紅邊上行本)	文 粹(寬永六年刊) 巻首·司北	抄(慶元中刊單邊十二行本)公等	抄(雙邊十行本)卷首	抄公林刊本)	抄(守古刊率)	
東洋文庫藏	高木文庫蔵	東洋文庫蔵	高木文庫藏	東洋文庫蔵	州太郎氏夷	久原文庫蔵	安田文庫藍	安田文庫蔵	安川文庫蔵	蓬左文庫義	安田文庫或	安田文庫蔵	安田文庫或	į
had \\	has *<	t; Pel	्र	1,	1	1	÷	1:	1		4	- -	.*.	
							-							
五八先代舊事本紀会首	五一七日本書紀神代卷(第五種本)各首	五一六日本書紀神代卷(第六種本)巻首	五一五日本書紀(別版)本首	五一四日本書紀(神代卷百印本)卷首	五一三 日本 書紀(慶長十五年刊) 卷音	五一二 日本書紀(慶長十五年刊)刊記	五二 厄言抄卷首	五一〇語 園(買永元年刊)卷首·刊記	五〇九 拾 芥 抄八第二種本〉 各首	五0八拾芥抄(第一種本) 公首	五0七管蠡抄卷首	五0六大和言葉 卷首	五0五聚分溜略 卷首	
	0三續錦繡段抄 含首 東洋文庫藏二次	D三續錦繡段抄 含首 東洋文庫藏 二次 高木文庫藏 二次	0二續錦繡段抄会首 0二續錦繡段抄章邊士三行本(P)種)卷首東洋文庫藏二本 高木文庫藏二本	0 三續錦繡段抄(草邊士三行本(こ)種) 巻首 高木文庫蔵 この (1) 錦繡段抄(草邊士三行本(こ)種) 巻首 東洋文庫蔵 この (2) 編織段抄(草邊士三行本(こ)種) 巻首 南木文庫蔵 この (2) 編織段 (2) 第一次 (3) 第一次 (4) 第一次	 九九錦繡段抄(笠永六年刊) 巻首 南北 東洋文庫蔵 この の 錦繡段抄(笠永六年刊) 巻首 南木文庫蔵 この 高木文庫蔵 こった	九九 錦繡 段 抄(寶永六年刊) 卷首 市本文庫藏 一	九九 錦繡 段 抄(雙邊十四行本) 卷首 大島雅太郎氏藏 九九 錦繡 段 抄(雙邊十四行本) 卷首 司忠 東洋文庫藏 一 0 0 錦繡 段 抄(雙邊十四行本) 卷首 高木文庫藏 一 0 二續 錦繡 段 抄(翼邊十三行本(工)種) 卷首 高木文庫藏 一 高木文庫藏 一 高木文庫藏 一 高木文庫藏 一	九六 錦繡 段 抄(雙邊十四行本) 卷首 大島雅太郎氏蔵 - 九九 錦繡 段 抄(雙邊十四行本) 卷首 大島雅太郎氏蔵 - 九九 錦繡 段 抄(雙邊十四行本) 卷首 南木文庫蔵 - 九九 錦繡 段 抄(雙邊十四行本) 卷首 南木文庫蔵 - 九九 錦繡 段 抄(翼邊十三行本(工)種) 卷首 南木文庫蔵 - 京行文庫蔵 - 京 鎮錦 繍 段 抄(翼邊十三行本(工)種) 卷首 東洋文庫蔵 - 高木文庫蔵 - 高木文庫蔵 - 高木文庫蔵 - 京 鎮錦 繍 段 抄 巻首	九六 (イ) 謠 抄(慶長中刊無差上行本/ 安田文庫載 - 九六 命 繍 段 抄(登邊十四行本) 卷首 大島雅太郎氏蔵 - 九九 錦 繍 段 抄(登邊十四行本) 卷首 大島雅太郎氏蔵 - 九九 錦 繍 段 抄(登邊十四行本) 卷首 大島雅太郎氏蔵 - 九九 錦 繍 段 抄(登邊十四行本) 卷首 京本文庫蔵 - 九九 錦 繍 段 抄(登邊十四行本) 卷首 京本文庫蔵 - 九九 錦 繍 段 抄(登邊十三行本(工)種) 卷首 京本文庫蔵 - 京	九五 本 朝 文 粹(寛永六年刊) 巻音 司忠 安田文庫載 一九六 (イ)謠 抄(慶長中刊無差上行本) 安田文庫載 一九六 錦繡 段 抄(寛永六年刊) 巻音 古木文庫載 一九九 錦繡 段 抄(寛永六年刊) 巻音 南木文庫載 一方二續 錦 繍 段 抄(寛永六年刊) 巻音 南木文庫載 一方二續 錦 繍 段 抄(寛永六年刊) 巻音 南木文庫載 一方二續 錦 繍 段 抄(寛永六年刊) 巻音 南木文庫載 一方本(中)種) 巻音 東洋文庫載 一方本(中)種 第一次 中域 一方本(中)種 一方本(中) 一方本(中)種 一方本(中) 一方本	九五 本 朝 女 粹(電永六年刊) 参育 司忠 安田文庫載 一九六 (イ) 謠 抄(慶長中刊無差上行本) 巻首 高木文庫載 一九六 中)間 の 本 次原変 中刊 (2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	九三 謠 抄(變邊十行本)卷首 安田文庫藏 九四 謠 抄(變邊十行本)卷首 汽车 文田文庫藏 九六 (不)謠 抄(變元中刊)卷首 司忠 安田文庫藏 九六 (不)謠 抄(變是中刊)卷首 司忠 安田文庫藏 一九六 錦繡 段 抄(雙邊十四行本)卷首 大島雅太郎氏藏 一九九 錦繡 段 抄(賈邊十三行本(工)種)卷首 南本文庫藏 一方	九二 謠 抄(雙邊十行本) 巻首 東洋文庫載 一九五 本 朝 女 粹(寛永六年刊) 巻首 市忠 安田文庫載 一九六 (イ)謠 抄(慶元中刊單邊十二行本) 巻首 茂田文庫載 一九六 (4)謠 投(寛永六年刊) 巻首 市忠 安田文庫載 一九六 (4)謠 投(瓊邊十四行本) 巻首 市忠 安田文庫載 一九六 錦 繡 段 抄(瓊邊十四行本) 巻首 市忠 安田文庫載 一九九 錦 繡 段 抄(瓊邊十四行本) 巻首 東洋文庫載 一九九 錦 繡 段 抄(瓊邊十四行本) 巻首 東洋文庫載 一九九 錦 繡 段 抄(瓊邊十四行本) 巻首 東洋文庫載 一次原文庫載 一九九 錦 繡 段 抄(瓊邊十四行本) 巻首 東洋文庫載 一次原文庫載 一次原文庫載 一九九 錦 繡 段 抄(瓊邊十四行本) 巻首 東洋文庫載 一次原文庫載 中文庫載 一次原文庫載 一次原文庫載 一次原文庫載 中文庫載 一次原文庫載 一次原文庫載 一次原文庫載 中文庫載 一次原文庫載 一九六 第 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	九二 謠 抄(守首刊本) 卷首 庆田文庫藏 八九二 謠 抄(雙邊十行本) 卷首 定田文庫藏 八九五 本 朝 文 粹(寬永六年刊) 卷首 司忠 安田文庫藏 八九九 (7)謠 抄(雙邊十百行本) 卷首 司忠 安田文庫藏 八九九 (7)謠 辦 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 司忠 安田文庫藏 八九九 (4) 繡 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 司忠 安田文庫藏 八九九 錦 繡 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 市忠 安田文庫藏 八九九 錦 繡 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 下島州太郎氏藏 八九九 印 翻 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 下島州太郎氏藏 八九九 錦 繡 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 下島州太郎氏藏 八九九 錦 繡 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 下島州太郎氏藏 八次原文庫藏 八次原文庫 錦 編 段 抄(雙邊十百行本) 卷首 市忠 東洋文庫藏 八次原文庫 錦 (1) 卷首 南本文庫藏 八次原本 (1) 卷首 (1) 卷首 南本文庫藏 八次原本 (1) 卷首 (1) 卷章 (1) 卷章 (1) 卷章 (1) 卷章 (1) 卷

古活字版の研究附	五三四四十二の物部(第一種本) 冬首 挿景	五三三四十二の物語(第二種本)の等	五三二花鳥風月(十行本)卷首	五三一花鳥風月(九行本) 巻首錦魚	五月0 淨瑙璃物語 签首孫是 東	五二九應仁記(是邊十二行本) 含首	五二八應仁 記《雙邊十二行本》各首	五二七 明 徳 記(寬永元年刊)刊記	五二六明德記、元和三年刊本) 今首	五二五 明 德 記(慶長十九年刊本) 巻首	五二四 新田左中將義貞軍記 炎首 京	五二三 承 久 記(第三種本) 巻首	五二二 承 久 記(第二種本) 公首	五二一承久記(元和四年刊) 卷首·刊記 谷	五二0保曆間記(第二種本)下公首
日女	久原文庫或 一二	東洋文庫版 己二	帝國問其領藏一七三	高不文庫或 七三	京帝國大學藏一三	久原文庫蔵「七一	岩瀬文庫成一七一	東洋文庫成一七十	成簣堂文庫蔵「モニ	蓬左文庫蔵 140	京都帝国大學成 150	高本文庫蔵 七0	成簣堂文庫蔵 190	村一太郎氏戒一元	安田文庫蔵一完
二元		五四七 昨日は今日の物語(八行本(イ)種) 年		五四六年の本ゑほし折(巻音)日本紀・大	五四五大しよくわん(十二行本)巻首	五四四義經東下り参首	五四三 辨慶物語(五和:電永中目) 下答首	五四二辨慶物語(慶長·元和中刊)下巻首	五四一鴉鷺合戰物語(摩安二年刊)参首自出	五四〇清水物語令首	五三九 鴉鷲 合戰物語(買永中刊) 祭末	五三八 秋 夜 長 物 語(片假名本) 谷首	五三七 秋 夜 長 物 語 平假名本) 於首	五三六釋迦の本地((ロ)種)下答首	五三五釋迦の本地((イ)種)下巻首
	安田文庫藏族失		東洋文庫炭	本紀·大誠冠(長紙)	九州帝國大學蔵	大谷大學成	高木文庫戰	高木文庫藏	2. 靜嘉堂文庫蔵	高木文庫藏	成簣堂交庫就	鈴鹿三七氏藏	高木文庫燕	高木文庫藍	安田文庫或

Jî.	
Liel	
1	
疳	
H	
はか	
1	
1	
H	
V)	
华勿	
illi	
1	
15	
Ü.	
# S	
~_/	
143	
-	
Ú1:	
41: 51:	
1 4	

六一 伊 曾 保 物 語(慶元中刊) 会首	五六0 ぢんてき間答(第五種本)を音高	五九がんてき問答の行む人等軍	五、	五七 げんてき間答第三種本)な首、成簣	五六ぢんてき間答(第一種本)を音	五五根の介を音安	五四竹 齊(行本)公首 櫛嘉	五三 竹 齊八一行本) 公首 成簑	五二昨日は今日の物語(十二行本)と首へ	五一昨日は今日の物語(第四年本) 本首 安	五0昨日は今日の物語(第三年本)下巻音高	四元 昨日は今日の物語(元行本、参音 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	刘 谷町立
党文庫藏 1八二	京本文庫蔵 1八つ	洋文庫成一人。	原文庫或「スコ	堂文庫就 八つ	宮文庫成した	(田文庫蔵一元	党文庫蔵一元	堂文庫或一元	原文庫蔵コギ	田文庫或二六	未文庫或 12人	宮文庫蔵 三六	所で支
五七六信長記(元和八年月) 巻首自記	五七五天正記(常四種本) 答首	五七四天正記(第三種本) 冬首	五七三天正記第二種本)奏首	五七二天正記(第一種本) 於首	五七一一休水鏡(第二種本) 次首	五七0一休水鏡(第一種下)炎首	五六九一休水鏡、第二種本(口)種) 泰黄	五六八一休水鏡(第二種本(不)種)祭首	五六七 伊曾保物語(宣永上六年) 冬年刊	五六六伊曾保物語《電水十六年刊(子)為	五六五 伊曾保物語、寬永中刊)参音	五六四 伊曾保物語(元和中刊第二種本)	五六三伊曾保物語(元和中川第二種本)五

Ti.
-20
1)1
伊會保
41,1
14
中勿
物語
10
111
心 和 中 可 第
46
14.9
15
斯本) 令
13
X
1/1:
111
1
11.
安田文庙西
-

.Iî.	.Tî.	1
75	75	7
 六 四	二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	_
仲	1)t	72二位作品中,是一种"是一种"。
fair-	107	1,
11	11	1
保	保	1
物語(元和中川	物語、心和	斗
Ti	116	
(III)	111	11
亢	几	1
40	111	1
1 1 1	1 1	1
[1]	[1]	
第二八本	中川第二種本)下公首	3
	-	
FT	Į.li	· f
木	.12	
	()	-
	15	
11.	/:	
110	11	
15		
长	17	,
1	11	-
4.1	111	
15-	111	1
11	11	
佐々木信約氏章 二、	1 ×	1
-		

110	.410
*	Ji.
. La	
10	.II.
	1 - 2
11	flh
12	dia.
12.4	fit
(13	保
七	一十二
1-4-12	当勿
177	773
: Fin	Ti
11.1	ili
~	me
六六 伊曾保物語(電水十六年刊(子)哲) 刊記	電水中川) 参首
ic	de
. 1.	rf r
1	17.
ブミ	113
101	
18	7:
11)	
0	11
1	
4 14	
4 TT	
1.9	
11	
	11
11:	10.0
111	11-
111	1.1
1	1.1-
安田文庫蔵	問書樣發成
pli	1, 4
11.17	415;
11	1 6
-	-

75
六七
111
fuit
曾保
110
华勿
111
(世永上六年
八水
1.
租六
"
13
济
冬许·刊记
ij
1.5
310
407
15
tili
成實堂之庫或
15
1

-	六
L	バ
-	
仁	休
K	水
É	龍
13	邻
T ₁	PT.
1:	长
u)	1
たいいる)な	「極本(子)種) 多首
1:	1/3
Y	首
泛	1/2
11	[1]
1	支庫長
di Ne	hii
1: '2	11 2
-	
-	

	2.0	
-13	-15	7
	七〇	ブカ
		-
化	休	11
		1
水	水	7]
	鏡(第一種本) 炎首	
鏡(第三种本) 次首	377	印
16	63	11
	-	
f.Ti	171	1
12	1.	1
()	Ċ	1
1/2	1/2	1
-24-	-1/6	1
L-1	6.1	1
		すけていまして
		-3
		1
280	1.	,
THE	1	- 1
11.	15,5	
東洋文庫及	灰原文庫覧	
1.12	W.	1
11,	9.7	11
16	3 4,	.1

M
illi.
111
儿
た氏成
17
11, 1
1:
1.4

1/2:
111
1
hli
对抗
1
E14

小山弘房氏成一八四

	五九0 前關白秀吉公御檢地帳之日錄 卷首	五八九 大坂物語(第六種本)下卷首	五八八 大坂物語(華五種本)下卷首	五八七大坂物語(第四種本)下卷首	五八六 大坂物語(第三種本)卷首	五八五大坂物語(第二種本)附門	五八四大坂物語(第二種本)卷首	五八三 大坂物語(第一種本) 签首	五八二聚樂物語《首	五八一信長記(第六種本)卷末 東	五八〇信長記《第五種本》会首	五七九 信長記(第四種本) 卷首	五七八信長記(第三種本)巻首	五七七信長記(第二種本) 冬首
帝國圖書館成一	I, I	高木文庫蔵一	成簣堂文庫或一	成簣堂文庫成一	久原文庫藏一	成質堂文庫成一	成簣堂文庫藏一	帝國圖書館藏一	成簣堂文庫截一	京帝國大學戒一	東洋文庫戲一	成簣堂文庫成一	久原文庫藏一	安田文庫載一
プし		7.	八八	ババ	パパ	八七	一八七	八七	八八八八	\(\frac{1}{\times}\)	14	パ	八元	AL.
六0四 吉利支丹版太平記技吉		六D三ぎやどペかどる、優長四年間	六0二 吉利支丹版落葉集(廳底三)	六〇一ドチリイナ・キリシタン	六00 圆光寺藏伏見版本活字	五九九東大寺藏木活字	五九、寬永行幸記(第二種本(口版)	五九七寬永行幸記、第二種本(不)版)	五九六寬永行幸記第一種本	五九五魔劫記公首	五九四戲言養氣集谷木	五九三電永行幸記(員名本) 次首	五九二政要抄公首	五九一朝鮮國御進發之人數帳卷首
凸野氏酸亭文庫藏 二	九善株式食社成一元	削)尿·含首	內野氏破亭文庫藏一元	東洋文庫藏一元		1 40	安田文庫蔵一二	安田交庫蔵一元	正宗郭夫氏藏一二	吉澤茂則氏蔵し	安田文庫藏一元	部落堂文庫藏一八	帝國圖書館藏一八	帝國圖書館藏一人

古活字版の研究附回日次

六0五 吉利支丹版どちりいな·きりしたん(大学作) 古 活 字 脧 0 研 究 附 日 次

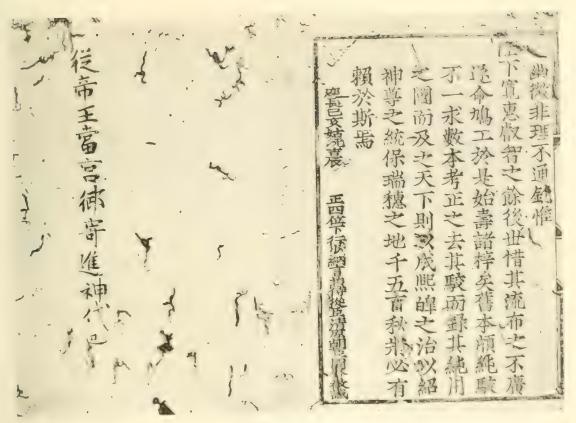
飯島幡司氏藏 一五七

東洋文庫成一次

林若吉氏成一九九

六〇七 吉利支丹版こんてむつす・むん地(慶長上五年刊)

六〇六 古利支丹版サカラメント



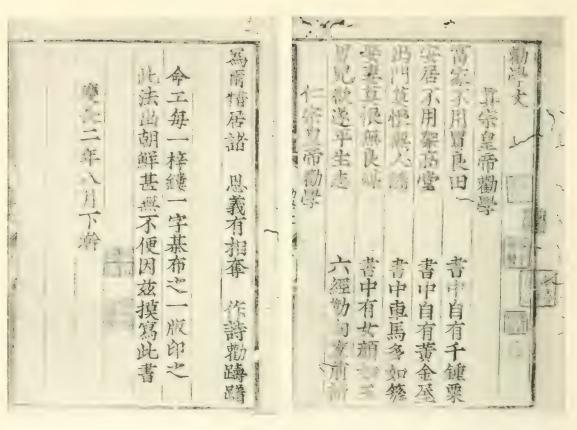




183 (\$\dag{\alpha} \lambda \la

1 1

[] 三



	慶長第二歲在町	西風茅蓋長海	秋滿西湖,三周	京城苏元	好是夜開人不完	柳塘漠二時啼鴉	春月	天文	新州錦繡段
臣僧商禪靈三誌焉	夷則下澣	延 在人帶決者	家二幹意廣調干	盧登用	半庭寒影在李花	一鏡睛飛玉有華	吕中孚	7	

682·180 大星」記述 等等 文學 物 版 物 長 慶 五 170 宿 東 記載 第25 段 緋 篇 版 物 長 慶 六

之門也於今可見古人五學沙 子程子日 大學孔氏 近進書而 事. 亦 第初 句 号 是 唱 1 賴德

道 鮮矣仁曾子 小 前疗 孝信 好 而 3)) 而 177] 门门

奶

犯

1

立

而

丽

而 Jitz. 011 義而 吾 圖 子見深思王 ---31% 卷第 深点、玉弦 士庶 19 王 乎 立 旬 岩 何 -1-少公 北十 弒 以人 百 其 利 利 不 君 京表 石 者 学 心 夫 inj 来

利

示下

交

征 何

利

沙

184 [1] 庙中•學大版 勅長 七 13.

H

11:

: 1:

112 子雅

於者以接近子非者仍言一理之門傳接心法不然熟其又而差

不之下道府替天下之矣理此為乃以

证证 長之能 文 孝經 者何 于 业 出周 合若其無 7= 至 是 乃 臣就 失其 产亚二 柄 张 毎 君 則 F 浙 侠 有 子 間 道 明 愈 居 滅 王 孔 !則 7 义"道 而 息 也 歎 亂德 當 大 自 洙 吾 旣 述 进 河 門古無際 先



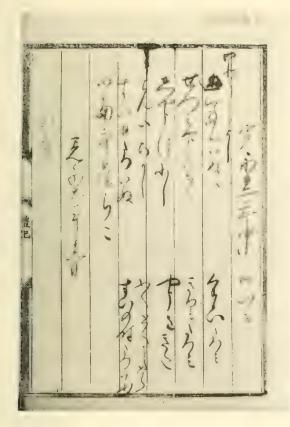


有他 正月,始 五年 始 江 置 短 15 有 1、是公 百官 元 撰革 臣 德 弦游 华 田

Ιî



154 门墙 :: • 这见 經 孝 版 勅 長 慶 **九** 155 第書目 音: • ※ 题 抄 原 職 販 勅 長 慶 〇一





烷 常 元和七年重光作噩六月時 所 逃 惟 汝 萍 深 謝 惭 前南禪臣僧瑞保謹書 共 約 萬 臣 某 3 逐 不 H 訓 時 家 臣 思 敢

香 蓝 無 花 坎 如 生 憑 外 詢 # 臣 率 鳥 塵 從 洲 3 某 事 為 皮 土 膜 海 娃 浅 哉 着 何 裄 無 今 錐 康 以 脸 又 不 末 於 老 2 如 智 與 囬 毛 夫 避 固 懶 変 商畫 刺 故 辞 31 菲 眼 外 外 级 固 史 生 2 桔 别 昏 天 差

宗 雕

太太寧初聖可之誓州太祖新 宫梁剖加日不麻祖 周太丁害城殺衣聖太聖 正命世祖寧故陷一和性祖訓 也彬之人尚至 目 開院仁 洞之加武 江慎 賢躬雏 南無 中禱用 得殺 造於兵 門洛猶修 王戮將佛亦 陽未之 師說平前戒 哥 若 金 殺 日

親行親 召止征 曹以太

體則 由李 煜彬罗原 潘 伐道

門義為經 不戒意腦

之闘

諸姊繕第 宫盘爲 之之如建 伐图陵此戮 制王昌 既者官 右成之晋 日制改

坐始

殿改

A

直

望

謂

宗因

於

營復宣

開一管府

此 如

命

H

太



慶安寺里最李英書第日上部朝臣

1

慶安島成委英學出一部副臣

88

而其名人

吾道之福要 情在莫怠其 於諸家重而發柱者也复 桶 也要人師查順、馬以成就仍 神話取集延喜大等五十余 本之陸一最上善心義制見 被而一百令在父母 三上本元 b 1, 成日 故為今枝 小

> 職原抄 百官

年 美美術行行

解除者系

俊夫海宇官以

這解公者及

意民命三日

及職員為其首其後多有城省又新加 太政大臣職 化五年始置八省百官 子正月始定冠位十二 推古天皇御宁聖德太 文武天皇大寶元年正 等是也奉勅撰律令以官

先是

大臣大連

平

位藤

原

胜

孝德天皇大

子攝政

中家校也宝永山可成好領之永 可為家意名也 務人, 你看仗見言中祭中那

لملد

方京技をからいるけた

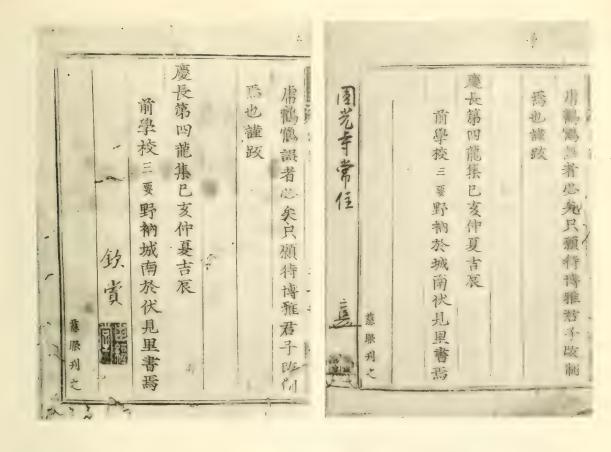
Iss GAM

村, • 村、建安观 极 111 :[1 1, * * 四—

之位

198 (岡周帝) 抄原领的饮食见代 17.50 五—

者也 男女别逢同路而行 路無治不用 明男女别逢男女有别不路無治	各謂	不及故謂之	之魯為為	相磨第一都定人相位則	就 堂王 廣謀 录飲	標題句解孔子家語卷上
治道	從所作之	節長幼	邑市都制	以名者	句解	



;	墓 服 久 依	前龍山見鹿苑承允叟謹恭	慶長五年星輯夷子花朝節	幼君盡至忠者其用太矣哉	明神不忘舊盟為	心則為	昭帝也别又海内弘此書而楊和士	人聪明而治聚不異問勃霍光安劉

貞觀 凌作歷 貞 百 久本 姓、若 觀 初太宗謂侍臣曰 政 也喽 損百姓 君道第一 君 要 有 音 道 身正 卷 腹 飽 第 而 77, 而 章凡 身斃若 影外 奉 山山 其 原子 身 論 安 君二 理 猶 政 天 割 1/17 門性 15 道 T 股 ___ 南山 必 必 以 者 唉 须. 须 也既 服 光 先 JE

211 (府室太)

版吳記刊

同人一

(岡府都京) 2] 語家子孔版見代 七一

文章

文師

文三 将田 史織 布下 同新田

石温亦膨来原非 下回田於渭陽新大專

及三王文 王 田 北波 手史船

之一目然

3.37

之太祖

力部三日東

田率為

田

高

田於消陽

史畸為為心得草風光 港

汉 刑 字 数 --髙 出方

也 吾 5

世 不忘 亂 謂 宇

即

開

34

翦

六

輸

是

文

武

借

沙

維

塘

内

府

家

康

公

是 四 龍 基 巴亥仲夏吉 辰

慶

简 ij" ... 41: HA 13 7.

来

若

德

也

剛

书

賊

也

班

人

-1-

所

功

強

者

作作

人然

之

沂

攻

柔

有

加一

武

剛

有

於

施

弱

有

沙门

類

成

額

得

非、

志

重

滅

日

赤

能

制

剛

弱

能

制

造 石 シー ---略 老之上

治 於 夫 聚 凼 主 將 安 故 20 家 班 7-孙 般 法 略 務 人 同 學英 北 好 ナニ 靡 画 雄 不、 破 成 之 钦 前 心 貨 失 般 禄 人 hil 有 也 悪 雅 合 功 抓 不 倾

212 (波 阿)

is II

世年四長慶 伏 版 見

214 (利足) 首卷 刊年五長慶 鸣三版見伏

(波 阿) ilil.

投行被需米是為以京桑松

本个合批軍

极切出函言

将所互闻也仍全极六弢宝面

質之智聖明之應與我之事

之事将此事者指云古海云仁

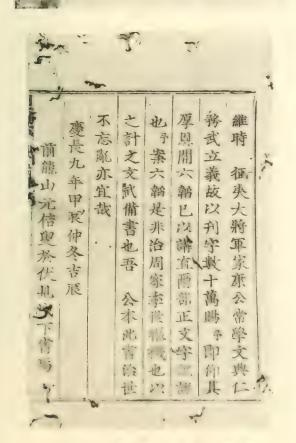
郎中名本

新英哉

[6]

文 統 独臣 -ナ 宜 式 當 7.77 竹丁 誻 長 備 是 2 77 前 考 刊 龍 五 非 212 内 车 也 講 学 府 治 山 庚 吾 周 竹 數 家 元 佶 了 家 (13) --唐 公 本 果於 初 で 萬 2 本 夏 41:-常 E 賜 社 伏 吉 此 -3-學 ·子 書 展 Si 字 邦 即 文 论 部 仰 班 城 in 仁 T 世 ;% -1张 非. 書 不 . 也 厚 務 計 志 7 周 武 : 育记 案 開 立

旗 行 右 ステ 于 ·설. ---公 115 -5 以 账 : . - 21+ 聪 依 1) 流 卷 一儿 -Z2 2 两 177 龍 一 1:13 7: 大 史べ 改 於 112 灰 家 JE 子 任 者 康 -2-且城下等 八 夏 也 命 -1-刻 限 梓 馬 板



一六一日 文 非 作 淮 E 南; 沪 马 非 悉 文 祖 -施 黑 田 前 松竹 史 史 日 及 非 哪 非 = 縮 . 為 田 王 非 布 DE 馬 文 門 1-13 想 E 兆 日 得 田 日 料 田 馬 单 兆 於 公 利 門 致 俠 清 於 沙 是 形 天 1 ; ; Il. 5]-北 特 明 F?. 1]1 ž. 大 -15 部 升, 沿 師 -3-11 17 343 117

(村田) 高川 福 八 同 四二

11

(利足) 韶可 二、五工八 略三 仮見伏 三二

215 (木高)

平台 平线原 精 片 版 见 伙 五二

大 華一於 竹 聖 道 徘 夢 肉 伏 王 沙、 燕 輔 於 軍 内 不 派 憨 需 品 口 初 命 家 年 書 跋 ス 注 康 其. 究 集 能 少 公 後 The 林 校 集 נווו 鈞 易 大 JF. 2 不 面 獲 壁 成 外 命 游 E 坚 寻 th 孟 文 者 差 行 夏 辭 於 玉 平 而 刻 漫 117 間 加 古 :交 易 標 陸 五 禪 其 德 刊文 H 庙市 1-1 志 其 HJ. 則 业 10:10 要 音 於 鮨 弘 3 禪 拍 村

鹿

苑

两

笑

山刀

完

ある。

机正

周 捷卦 低口 三二 县 蓝應汽乾 一見博下 無調 翻今 上 及也 計場 乾乾 注注 亦發 进名 直江 戀名 。企 上。下乾 宇育 作題 龍訓云然 乾 師張 及經 究友 同義 傳 說具 以若 健依 元 製取 朝 无久 草 事 存常 云問 并令 北作 利。 进也. 宇普 及放 非本 斯. 爲法從易 各〇 聖儿 八乾 人弟 也陸 義也 日盈 雞下 初 光 問德 下隻 卦し 謂徑 九 夫电 色岩 潜 月至 至明 王 弼 子由 上此也音 龍 大從 龍 亨旦 勿 注 十也 經歷 遊義 作の異乾 許从 用 也日 在 苦也 王本小卦 田原於 打亦 器名 對票 州小 利。及音矣事

水文新位沿湖淮刊 谷 列·玖米 政 治永三春岛:盛改 T 内 元二對四以 關鍵 车姬 次 省半大 年年 詩卷 ,再 三 11 臣 月 仁 月 第 上七一 月 块 日育 3 林 大 太的 由一十六 四日 院第 日新 月 夜二大公 受 但 近日捶 於 府 長. 選 A TO 伍饭 皇子 同 下勒內一 門旅 四按大男 國 門 御 Bil. 月 年 丰臣 和 母建 女 二 直中元忠发 त्र भ 月随州二熊 3前 ___^ 日 六 上 红翠位 礼 --- 司馬纳 X 即一 BH: 11 :-1 院



=

217 (洋 東) 盖刊 首等 易 周 版 見 伏 六二 220·225 (大理文京東) 首各 本等目 鑑 東 版 見 伏 七二

七 書 序

孫

子

具

于

同

樹

法

尉

統

-J-

- ----

四人

, ,

語

大

1517

七

書

序

多 分 可 西 對 -孫 謂 者 其 家 237 共 子 熱 書 哉 削 家 凡 ST. 7 且 六 馬 取 子 + 雜 四 要 書 百 矣 部 用 種 不 馬 朝 龙 失 惠 者 知 法 廷 L 姓 有 -其 尉 武 _ 名 7 = 幾 統 褜 編 7 而 五 业 子 足 之 家 不 = 漢 科 馬 者 家 其 初 略 惟 王 藏 後 有 绿 六 者 用 者 其 任 曾 七 師 書 宏 不 百 太 書 奚 與 於 論 1. 宗 以汉 馬 十 次 12 問

請一餘 미 龙 謂一省 文 武 太 東 宗 問 並 李 也 靖 前 靖 對 日 先 仁 義 答 灌

命 歸 記 服 七 雖 75 周 於 漢 梓 不 汉 能 講 過 重 忽 膌 JE. 之 亚 矣 =31

彤

威

大

排

重

菜

康

1/2

ソン

文

安

人

汉

武

威

浆

天

下

於

2

鈞

Dist.

护

太

- YE

於

後

75-

十

施 人 跋 集 紫 北 丙 後 陽 午 淵 初 也 室 秋 元 念 信 又 角 書 日 為 馬

> 對 12 歷 方 者 家 洲 其 兵 1.7 可被 書 剂 凡 家 為 取 之 H. 六 青 淮 -PP 安 矢 部 種 用 不 龙 失 唐 朝 者 先 上 处 女生 1 有 = 武 十 名 3.1/2. = 樂 編 7 लों 77 di' 沙 足 家 ." 不 ----家 馬 著 北 -35] 科 312 别文 從 11 州上 标 月 书 者 任 ___) F] 流 北 Till ス 77

江 男 滿 4 大 餘 打! 鲌 成 將 放 叫 者員 慶 部 太 命 歸 軍 YF. 記 to 服 家 文 呼 7 砾 太真 於 -1-雖 市 書 後 周 兼 宗 2 龍 入 於 漢 22 並へ 問 跋 梓 集 不 文 也 李 宏 能 安 其 前 靖 丙 XX 講 陽 午 過 立点 人 後 举十 間 五 忽 初 以 the 军 秋 正 置 武 H 之 元 念 威 先 告 又 市 仁 飛 13 矣 義 ___ 天 書 B 寻 後 7. 馬

(川 次)

29

连

', [I] N-16 110 ヒ版見伏八二

以

3,5

151

11;

218 (111 (1)

1.3 1 1/2 1, 1

權

同九二

15

, . L

すべ

1117

1:

太 平 詑

取. 世 虽佳 持 也外 猫 R 有 所 火火 大 YX 於既 前 威 哥哥 臣 德 14 則 不 葛 th 沙土 慎 4 之 制 一 平 治 走 得 聪 借 库 社 稷 11 垂 超 巣 髙 法 殼 約 其 於死 國 书华 局 敗 德 陽 牧 缺 禄 野 則 折 後 雕 野。 甘 班 一 14 消 藥 硇 七 有 鳳 違 位 品 地面

I.

不新

不

亚

图

カリ

事 莎

共

進

3:-

E

彼

部

不

背

為

二天 出英

達

・セハ 挑

大沙

Ψ. 158

テ ジ.

棉

内右

M 5 ET.

此

任

剂1,

デーニカ

7

, 首知识, 藤平一此關美 3-天星 -0 者一 小肘 本後 EE 游雁人 1 212 朝殿 而 餘 清 平 1 顶 同 抑人 八八朝一朝 酬 生被 君 稳层 天 省於 春秋高り 天 57 神 种 テ 庄十 10 武 泊 1808 头 六つ 臣天 朝他简 # 12 没 -177 - % 122 52 沙江 摸, 相殺総 -1 ジョ 村 将發節追其功 州 1) 武 元 從 指 九 亚 スコー 朝清交 暦 1 - -Fi. 13 是 丰 1.5 7 . 斗车 35 77 计代 男 : dr 債 弘 7-七是 型った 白鐮 1 2) 11: 4-行武江 軍門及院 濫餘 配

11 -

三代

324

征

满

椅

ħ

---腭 17 -1-1/2 美 12 Hi PATE A 7 = 1. 东 10 1

治品 源

到一 到

光陰 1, 平: 海江 長房 37 1.77 3-中天祖 天祖 管持者人 火浴 3+ 衛諸 1 一大部一備之十八年 天 谁一一个家的一块一个家的一大大 付 :10 777 天 119-臣初 臣實明 共 用 地方 1] 1- 91 平 2 200 -/ 特祖并令 计 7 17 15. 7 -学 .' 1 其於 - 12 111

(党赞成)

当答•首序 印年L長慶 記 平 太 版 堂 春 富 ○三

223 (田 安)

首卷●語刊

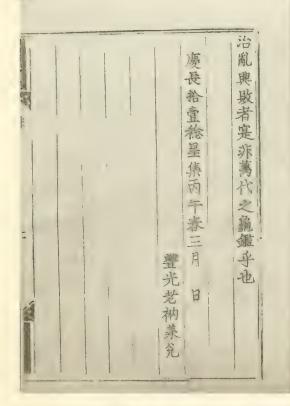
刊年八長慶

同 一三

三品 划十 先王品第 成道品第 示生品第 滅 首標大覺先容併 犖 品第 德優婆塞 五 出家品第四 陳 度生品第六 因 常性品第 地品第二 為衆生 實 謹 編 作 則 八凡

平堂隆 御 召見 上 者 訪落理至衣也 初 鑑 哲 公 登 也 日直 圖 圖 挺 大 倚 說 統 者今元 诗 1 春 变 叙 智資 公偕 公 亦 公首陳 矢精 輸 沙 保 1/2 師 디 白 勸 張 公 佐 左 學 2 此 右 所 侍 簡 3% 鼓 進 流 侍 承 從 儒 臣

幸書治 要卷第 不剪也争 若于 養體 不 元 事 九 利 身 道上 君 五 則體 子 備文 飛 夷之 終 亢 焦也 也言 龍、以龍 龍 下下 H 之統 日 有位德 在 悔录 天 世》 天 叙在 以天 至别 見 君 德大 大 若 厲 子 [] P. 币人 羅不甘上 血 以 盛粉而礼乾之一合 自 恵 在身 お丁至少下月



(四 安) 4. 說圖鑑帝 版賴秀 四三

222 (11) 4

1111



四 上

義之網要 业 草 解 而 何 考數雪 有 - 1 集解 要未 斯 THE 存 惠 馬 11] 説 致 尚 逾 科 先 之 4 未 分節 今 熙寧九 科 琢 旬 之 而 乃成 題 磨 不 文 髙 西 20 曾 便 目 起 年居, 為學者 何 = 3/2 調 妙 卷題 盡散 杜 17% 師 大 怪 所 而 雲西院 集解為 傅寫 还为自 哉 目 鹏? 調, 諸 天 施 四季 13 之, 部 317. 計 布. 四 法 H H 敦 言 111 儒 集品 解 于, 夏 成 釋時

文 不止' 可 同 此 不 Tin 類 不 如 録 妙 F 书 立 也 F 激 但 勒 相,走 季 文、略中、平 廣 文 = 廣 若 自從 紋古 論 + 來諸 下 今 亦 示諸 李 師 之 业 家 說 云 "丰]

台 129 教儀 集解 卷 下

+ 5 文 禄 ध्य 末 暦 + 29 日

7.

本述六箭者敘用 世 甘 软。

進

寄

百

部。

文 大 禄 光 山 四 曆/" 極月二十 297 日一

本 國 寺常住 主 __ 輪 房 B 保 私 記級

.]

漸、

載誰有 自

(同國帝)

刊年四祿文 解集儀教四台天 六三 肥刊• N △

高来丛康, 王般岩

俗願顧玄悟法華剛意不縱得經意來百高座百官稱其讚數彈指喧眾不縱正殿宣揚為主上三禮不縱令

國師不

縱帝者於尊太極殿對和講

不一般

道体聚隱居山谷不縱避世宗玄被殺

光定禁後

法不

縱令盛

發悟彼能, 帝京弘二

得陀羅尼

不經道俗

攜扶奏法

新 刊 徐 狀 元 豧 註蒙求米

羊書町桑 林呼刊勘 **熟鳴一解** 墓未宇由 解 博辨 极小 覧 芋 編 路 入那此南

文禄第五两由





159 (寮書間) 首序 傳正學醫 版庞市 二四 (

(m 安) 首卷 求蒙注補 版施市 九三 (m 安) "是 揮發經四十 版施市 一四 118

包經江

福





分 科 丽儿 精義卷 用 黑 池。 部 下 るな 4] 機 沙 假 文12 厅 11 211 . .)

市 月月 20 12 Wil 有 自日 比 垣 神 120 水。 [c] 此 閉 事 菲 小公 明元 1117 中中 许,兒 机川 節主 を治 1R 至小 当明

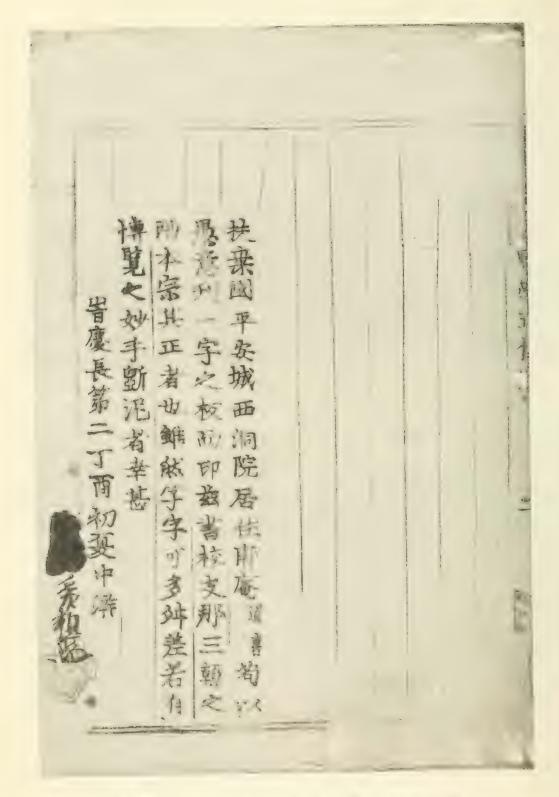
-1-

(常書圖)

等分·孤人 刊字=L度 傅正學醫 版施市 國國

159 (田安)

北木・等ケー 書名三段度 書上垣東 販売市 五四



以今午萬午級「何今上皇帝即位皇豫門十六年旬十六年旬の東京年旬日位皇豫門位東公住在成文府司大臣東公住在成文将軍東公住在成大将軍東公住在成大将軍馬上衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍衛軍軍軍

スイナ川

総くく傷と改 〇佰今上皇市即位異壽尚十六年旬 予京な住内大臣 秀観公住内大臣

八年機家康公住征夷大十二四東山大佛殿於失三年初豊臣襲○七年駐三年初豊臣襲○七年駐慶長軍教朝鮮幸請和慶長元朝大明國遊擊將

百瓣 及太疗化于推官原 、耽政 抄 正方, FL 大 车 月 上 文 始.始 比淡武 置定 华海: 天 其 是公 皇治 位" 聖: 也不 百十 物元 先階 子 减操, 年, 走 正大孝政 臣 新。以 加官 藤連 之位原子大

行 介发 化于五正 有 推 官 原 E 抄 月始 大 文 显定 御 华沙 点大 省百 北 是公 位 聖 後 也不 + 官二階 筝 奉 太 纳 元 华 城 排 走 播 省 律 正 大孝 政 臣 德天 位 大 3% 官 藤 迎礼 乖

開宗明義章第 古世孝經 孔子 狮丘 為有 起 省,姓 也山 第男 間 仲故 **没有** 尼名之日 子子也之 居. 有 而王 為次人 會事侍 至 优先 兄,在 德 作通 取生 菜王 要 **验**稿 父寫 地面 尼字 坐 27. 37 事名 為信 問付 有仲 謂至 汉 左針居尼 副 類以 五尼 右其 品者 要考 着引. 仲德 尼名 静子 有孔 並曾 信子 T! 留高 高引 訓點 有字 道子污汉 也亦 養也 巴手 -}-T) 日 曾通 尼名 東名 道、敬不言

此 長 栺 Six-来 感 演 力学 图 世 行: 其 月 好 三田 志 产 事 4 逐 41 子 出 者 日 多 孝 耳片 果 20 茶草 H 芬 戏 社 傷 的 秋 维 推 清 本 京 档 至江 原 梓 7. 學 李 斯 オデ e ? } -00 31 73. 儿

太政

官

太

政

大臣

大臣方

右

大納

言

横爪

伯

副

推

副

推

祐

史

3-

11

112 一五

札

九四

1

1 3

12

清 丁

少納言

外

部 排大

13

右左

中午

推左

弹

推左右

大

史

方注

中

生

1 122

掌上

右

慶 長 玄 然困 敦 夾 列

(院負債) 語刊 刊年七長慶 經 同 〇五 刊年七十長慶 11. 那些

73

大

浦

村

小

推

北九九

内部

大少

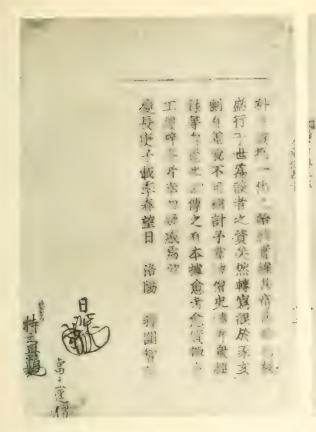
205 (洋 東)

i. Ii

首 卷

206 (木 高)

FU 11



三, 彩, 唐 311 図 寺 养草 417 第三 生 不俗 这 31 热 .3] 久下 爲 氏 五二調 假 72 11/2 117 翻 州 之 j'e 꺠 -}'x 妹 僧隆三 1 13 胡 42 1/7. 11. ; :5. 721

三月末衛佐川大馬	十二四東山大平城大大山大平城南京時東南平 一五城南京時東南平 一五月夜春暮	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	中一年以前,人是是 滿 () 七 九三 下二 內 中 中 前 中) 大下 大 市 國 七 十 天 而 跌水 市 斯 山 代 平 四 四 中 市 前 數 的 片 下 大 市 國 七 十 及	
		三石川		

一一一為事學我打完她此為他你們知必在言
式二甲界於完全五官子向度11十度而了由刑方21年甲
The state of the s
· 大大大 な大 なな なな はな 一大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
文 大大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
为以中位人 人名 大多 大多 大多 大多 大多 大多 大多 大多 大多 大多 大多 大多 大多
大人 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
一一人大 中 二百百五 日大門外上臣 水客具
() () () () () () () () () ()
에 가 또 한 경우의 회 지하기 된 것이
とは 展 一般 の 単 の 単 の 単 の 単 の 単 の 単 の 単 の 単 の 単 の
本原 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
十九八十六五四三二樣四三
1 6 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
ニューニナールで入り上二十二九二四十二三二日

257 (周國帝)

au III

音签 刊年五長慶 記傳華法販寺法

二九

260 (田栗)

末您 版再

同四五

(圖國帝)末念版初刊年五長廖 圖運合漢倭版寺法要 三五

當社 トテウシナハンタノニ下ーケルス大神官魔王。行ムス 此滴國小成以佛法施布之人倫生死又十八十相下川 ノ滴っ露コトノナリケル時事六天ノ魔王ハルカニ見テ ケルヨリテ大神宮御鉾が指入アサクリ船ケル其鉾 レアレタマンテ我三寶ノ名ラモイハン我身二モ近フケン トゥく解川上川給へいこうへ給ナレハ婦ニケー、其 一首此 弘 一三寶ノ御名の思御殿近クハ僧ナントモ諸ス事 長年中一大神官 太 國十一只無川女儿時大海八底一大日 神 官梅事 韶 テ、侍三或神官 印文有

却也有心人必可令加添削給耳

沙石集第十名

堪蘊藏於馬 敢刻 是也頃幸 行 于世 也 遂鏤 得無 尚矣本 、于梓十目所 住師之直筆 有廣略 Œ 視 有 本 凿 前 共排 今 後 世 不 平 不 To

慶長十四年仲春下院八日 圆智校鄉

K

太神宫御事

此滴 ノ滴。露ンコトクナリケル時第六大ノ魔王ハルカニ見で、 かルヨリテ大神宮御鮮が指入でサクリ船ケル其餘 レアレタマンデ我三質ノ名ラモーハル教身ニ七近ブチン、 トスタンナハンタノニ下リケルス大神官魔王"行 八十出國イマタ無リケル時大 當社 三等り御名っ思御殿近クハ僧ナントモ語又事 トノく録り上り給へよこうへ給ケレハ婦ニナリ 弘 國小成人佛法院布之人倫生死ラインへ中相下 長年中、大神官"苗广、传之三或神官,藩之八 協/底"大 用, 印文有 ムカ 11

7 好成也彼命为不持之中夏無為人代三汉丁目出了了一 相 小小八色 八右陽頭颗之分武藏守二補任以執事以 内徳かこも人ノ云ニ不違シカハ比談を是り 活 -ij -記 御 各學 切推ノ若君以可奉解此下群議 PI + 九月上台二 间 趣三定一江 23 便で 阿此外

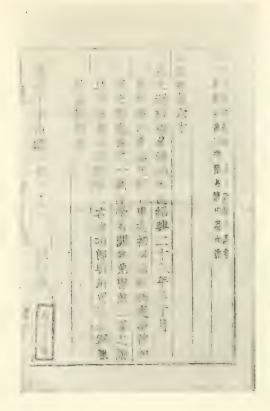
262 (李貴城)

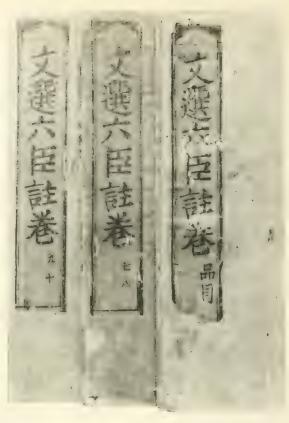
."刊

269 (堂養成) 八丁 記平太 版寺法要 七五

首卷 刊年十長慶 集石沙版 寺法 要 **五五** 262 (大京) 首卷 版別記刊無 上 同 六五

免官死狱中明帝惟路陽西土父老怨帝 免官死狱中明帝惟路陽西土父老怨帝	為聖妻令少婆	多	四年 四十四 一	邓明太子撰	文選卷第一
-----------------------------------	--------	---	----------	--------------	-------





3 TE ノ支選校成久防候 於 二派二乙型盃夏上旬 力性 方. 直陽 大 でんな雑書 J.L 修正字是為之一 游 11 -水江 腳 批出 汉 N j ,14 : 計 超公來鎮是 兼照 湖 77 1-:1: たりつ 斯文於無窮云右迪功即明州司法 44. ·戏 6 h W, 洗上 速光光 义湯城 TAL 遊鈴謹 40 अर् 斯 er a 有八葉 -Fr 5 E 邦下車之 新伴學者開 発达 手。 ない 11: 光甚紹與 H 准 託 1: 中户 紹 伊學 34 申 篇度 颗. 家 亦其 初以儒 切即明州司法察軍兼 初以儒雅飾吏事首加 ニナハ 右 石 初 過点 開 迪 Xc 板行罪 年冬十 is. 儒 功力 年冬十月 削 党 怖 惩. 山山 Kili 119 近 烧纸 7. 2)2 1

1

268 (木 高)

1111

等型等 图 交 版 江 直 九五

論 語 也 1 卷第 註經 4+ 冷污要法寺內關 百百 せニ + 五三 慈服 正重 字字 41 刊

不 送 論 pil. 7 247 方 10 亦 日 君 19 11 學 門 子乎 前常 好已, 不 1717 學 12 亦 胩 也 下版 樂 te gi 孝 其言 御怒 平 17 上孝 弟 君也 - }-著第 子历日氏 而 72. 少之 好 朋心 也人 犯 [0] 角點 温有 平 h 不 说 所 产馬 屋 好 不 部 有 犯 鮮 子 知 通日 何 上 矣 而 有 稱了 带 日 而 也鮮 题 别 不 朋 : 小月安 31. B 解

小水水 能情子 战子 乃们 1 - 1 书 北南 水景 答子 关 貴孔 积力 1 % 夫未 有发 华西日 之 **选·**阀 間 能 色 而 世流 有 故曰 洪波 勿 11 日駿 出 是原 彼 117 给 宁 人 君不 工精 丽 战 · 1/1, 計 温 e, k ili -1/-תוו 子发 日 适殖 論之 於 被 时 里 13 the sin 君 1-于育 X 名 图之 治 乎 步. 3. 岩 容裁 10 以行 部 哉 F 11, 沙北 - 47-11 7: 台出 ii fl -j-1111 孙 1 13 ...

e ...

(水高)

2010年第二個的高高度方法要二六

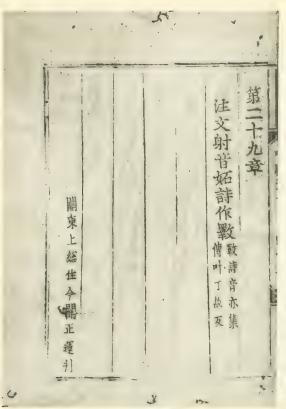
D. "

1215

117

1

1



大學 也日大 之門也 **宁程宁日大學孔氏之遺書而** 此篇之 學之 明親 焉 德 當 则 今大 道 前書 者作 無 人新 存 游 乎其 如音 在 今可 さの 明 字泰 m 前大 明 論 不 怨在 得學 省 見古人為學次弟者獨頓 差矣 盐 次之學者必 瀙 天大 代 而人 赤之 在 靈學也 北 朱春 於 由 初學入德 173 北 75 啡 77 TH 造 in 工艺 何 于红

第二 住文射音好 一十九章 · 作数報 開東上 d'a 叶詩 往 丁育 4 於亦 開 及集 1-運

Printed and the second	売之一言至矣 <u>盡矣</u>	惟特惟一名執風中者舜之所以投馬也	首発之所以搜舜也人心惟治道心惟微	統之傳有自然矣其	傳而作也蓋包上古	中庸何為而作也于思子愛道學之失	中庸章向序
The second secon	完之一言至矣 盡矣而舜後兴之以三言·	者舜之所以投离也	人心惟危道心惟微	統之傳有自然矣其見於經則犯執厥中	而作也蓋自上古聖神繼天立極而道	思士曼道學之失其	

(本高) J. 1.5 115 1 1 五六 274 (洋東) 1 ... 七六 Ιij

高速。

(本高) YS STE TEL. 大 庸 版员 同 山 大大

四六

5 in the 四 1,1 债旗註

天

天 公 沙 門 間

非

心小

組

右

治 7,1]

李

13

弘

别 - 13

周 排

捻 初

京

图

交行

学

1.

414

1)

3

消遣

宗

台

村3

17:

新

米

東

浆

2013

門

智等

能可 合 名生上 刑自清山 173 此 名 **製造** 前此 山地高 名 11: 即 惠 灭 200 大地天 台避 師 分 爲宗矣今 名禄 源 野 कि 為身 爲 應 也 数今祖 教今祖 意 敬故 入寂 大地 元 ---此 燕 以之 合故 本 此所 分 俗 在殿 名温而 差 37 名 37 而 焉 依 法者四其西 無必教人方以通者也風 朝:釋 釋為别 惟 俗 行"台

> 证 妙 名

啡 也。

欲

3 文

法

華

नेपार

当 石 别!

谷谷 其

113

相

13-

床

前

决 以

法 (1)

公 身本 基 批

許

教

动

行

め、 於 破 1]4

弟 续

污 共烈

112

六 别

北 PI

.11. Fil 175 法

11/2 别 -72 矫

故

怒

罚

别

想

沙

很

3

综 1

沙

悔

是

用 是

85 功 辨 别 寫

前行

身本

利司

宗

洧

用

KP 来

浙 五八

ut.

自 此

13

辨 桑

2次 各

弟 借

12

活 Pl

立文

明。

化

儀化

有

两

種法

悲·

悲四

化

教

5 極 是

. 2

ぶ

如 用

所

有 旋

切 從

清

自

力 力

秘 歌 J

轨

是

身大 來

盐

深

3/2

是一

亦亦 点、

北 是

约 名

11

他 在 也 身本 華 IF

138 447 神

战

用 是

月:

12 末 則 N it 所 適 兹 初 im 冻 来 不 語 水 觀 所 回 忘妹 思 女 聞 亦 荃 雑 於 先 簡 雅 ig. 怨 是 供 約 測 亦 元 米 理 - year 多 住 亦 哉 督 以 備 特 是 馬 龜 爲 落 也 元 統 老 然 高 即 能 5 夫 戊 X. 文

Fi 南 天 坐 白 華 沙 門 序

李 武 7 摄 祖 天 车 合 2 赤 他 禁 IF. A 比 立 託 炒 連 影 捌 謹 州 府 在 级 緑城

角

便長十 曼 丑 华 八 月 於 京 別 B 要法 余 饭 行尽

> 广 13 法 파: 活化 转 褙 本 朝 がっ

香 永 71 文 迅 学 刼 地 小 此 -1-抄 添 机 111-校 清 古子 語 脎 新 教 战 檢 石 2 拉拉 :3 亦、 家 有 他. 而 7卷 妈 村 輙 欲 抄 ださ 恐 完 .5: 制 角 sje-削 内 常 版兹 士 决 訛 -45 3 1E 北 7.E 飛 结 学う 1177 Jal. - 15-從 # 影 留 12) 龃 4: -3 出語 於之

地震院上了 粉 第 永 ---丙 英 洛 暦 沙方 南 光 吕 本 仲 國 旬

一

開

275 (11) (17)

心门●首卷

註集儀教四台天 版寺法要 八六

279 (11)

1 1 . 4 ...

温茂苑莲法 版寺國本 九六

四 國寺學校 王术王瑞 僧集會異體同心 中自 明道子 止元統元年計 王 潤 日鈴補爛脫 法 鏰 極月十 壽住 板流行大 九 耳 日 金林 資乗 六百二百四百 年六年八年二 慧進

取腳如聲 石 如為 義 發 服 新 吐彼 僧 途 於 念空 下在渡 寂 卷 其 遊 the 东 定藥 T 那 智樹如以 此 浩 游 葉 亦 論似 阿 DF. 130 浬 法 浅 亦 棄陀绯寂如 定是 義之藥 能極 我 明 正和 樹 戲 寺 月 今 照 法 类 华 葉 古 中於 於 便 in 兴 di 開 H 戲 石 裏 此世 藥 旗 7.5 判 義問 英 棄 東 走 源 前

胁 經

工 長 長庚子載季春 宝 華 有 + 梓 忽党 差 九 址 沿 脫 貨甲 岩 111. 爲 不 孟冬 车 記 談 12 傳 稱 勿 书 7 仲 疑 10 ~ 2/2 p 三 悲 有 .3 冷 木 常 余 口 馬 路 據 小 洛 村 披 陽 僧 哪 愈 博 考念哲 史 寫 傳 釋 誤 釋 す-六 愚 個 豕亥 開 智. 来 些 蓝 命 經

> 1/2 1/2

大さか

-

j-

、カリ

作タトア、ルニ

又父フルラファ、先宗宿ノ作テ後、

註二ハナゼニ 店クワータソトA

家ハガハ 人作 つメ物 もり

於二カリテダナ こ

瑞相ラ喜ンテが吉 一國アリ 員之トノ朝っ降上 いて~り能野 剱 ins 3 門りた八父母 布 也 西八社長へ 下取六 此 2 at; 下トサット一共地ブ名國見於是一性六八十五年三下下九月至字多見 人持点奶 波起 育人 1-太平也 消海二流メロ或云ク出朝ハ 野 見口川 夢云原写文於 ノメクミ龍メリト 省 ニナハ 歌为力之一月此間,然 授神武七个歌ラ亡人 份 本 土 : 3 大見しい名ノ内 李介 神於 地是見英學八 入 ヘキ 好

二七

於江

陽

, "

能寺

前町

35

250 回 失。 息刊 經輸百版寺能本 二七 252 本 高) 末卷 同 抄 紀 書 本 日 四七

雞齑 紫塞爾入二十卷 福蓋正行所集經十二卷 父子合集經 二十卷 入 入紙十二熊九 紙 五 張 同 同 779 言題

入十卷 昆 切經音義十 池码 石錐 野 类 希灣門 張

撰

田赤

洞

函

A

一百卷

欲 二百六次 公格 四 715 推

切

經育義一百器

大藏 經 目録卷下

一動戊中 年 商聚國大 藏都監泰

同 流 佛果 開幹指 二业安樂 本願伊勢聖乘坊宗存 乃 至佛法、思 从 德 平等 利 益 生

司引 一書と 方洛門村之

當絕主 開 掖 吉野入遊 西 田 勝兵

F. F.

: Iî

伊 势 **西辛** 沙 华 444 月 院 to 月

展在宗 2-1) 1/1/1 五七 既存宗 化信源 六七

之者 法 魁 法 者 解 未 法 台 當 當 則 解 無 山 次 名 前 疏 以 弟 平 初 F 爾 此 教 初 略 流 門 自 諮 芸 外 然 辨 法 不 制 論 百 僧 體 名 隨 科 沙 合 法 了 若 扣 阳 相 具 4 於 分 義 法 美 為 得 理 深 七 智 禪 = 也 之 脱 顗 故 23% N 有 流 中 歷 弟 113 沙 塘 依智 Si 新 it, 通 於 省 經 名數 莲 防 為 學 附 大 學三 百 一等轉 略 論 切,作 為 撰 胞,三三 佛則 沙

智了 說 增 都 平 Y-济 進 一心不 が開出 紫也 利 相 畢竟 法 益 切 界 衆生 兼 以為喜 生 中 1 木 即 衆 可 斌 2% 生 大 得 退 佛智 中 湿 相 故 账 型 常 無 佛 質無 事 3 竞 智 不 行 達 捨 ūĵ 相 J 1 聽 丧 Tal 達 12 城 也 者 併 不 平 得 故 故 故 於 半 無憂 金 23 問 法 舟 切 佛 出 相

也 若

經

云

如

是

滅

度

無

量

釈

生

衆

生

滅

度

岩

界次

药

卷第

六

條

到

堂

九年甲辰 城 西 散事 旗 14 鐘 统 -珠 首 村生燕利さ 院 14 門 训

言流 造 模 訓 北 教 無 奚設然 雄 誠 在 方 夫 輕 新 調 重 東 故 13 創 學比 域 暁 伏 供 知 岱 釋 其 化 六 不 分焦戒者 教含其 丘 11/11 有 律 門 根 行化 行 有 未 教 儀 誡 ٦); 護 南 和 TH 律 漸顿 法本 若 開 聽 於 打 山 許 儀 關 其 沙 百 相 門 誰 於 妙 離 億 瀝 两 師 行要 宜 律 定 師 天 造造 承 不 無 制 水 自 持 逆 者 於 打 五 金 些 训 永 猶 华 ---17 4-汉 人 延 汉 述 依 湏

机

光

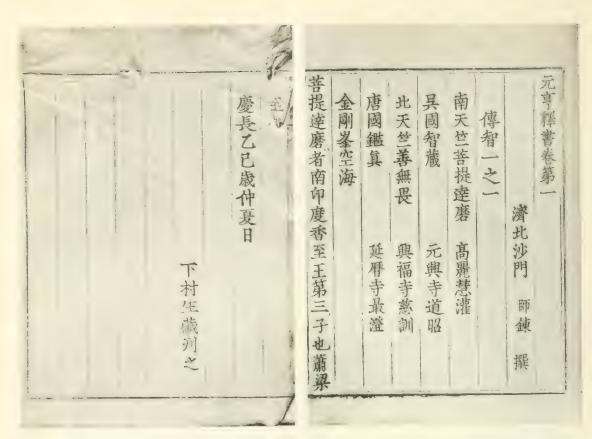
法

287 (堂寶成) 1110 13 第次界法 版寺願本西 七七

制

289 (田 神) ad I · F (s

止



5			x
京京大海州和亳 原治 清凉天准	第二十九章	中庸何為而作也子思子是道學之失其中庸何為而作也盖自上古聖神經天立極而道然之傳有自來美其見於經則免執殿中者堯之所以授爵也人心惟危道心惟微	

のないなかつられてときれいられいるな かでいりまいたの数にてあるいう ははないるとり、さくしきはない けないはう、ひゃっとの大いとことであって きりゃんり人て後川之解脱行敏場のへ 高馬へいするこうちはていれかとうし るかうつと月サ四 ぎあわらずすい うのひちんとアまれいさくなくて 使に何言資方でおる見去ある。受付 a 3t をすりも

まかわれずっすい

計したけっているいのはとかりから あうりのひめんととけるだされたとは 動馬へ山するかきはてきいれから 楊密使大個官後賢四以不息太其朝以此 考取一年七月十四日花をはいりにとい

> 中美有六七 嚴號世親弘道於五天製論於者其惟與風字匡大教而濟時者其惟善整專燭天下之為者其惟赫日子鼓薦物而成為中大雲寺沙門園暉 野永熟偏識太爾 題為重宣揚嘉吉再三 題别序以余本縣所建欲重宣揚嘉吉再三 題別序以余本縣所建欲重宣揚嘉吉再三 俱含論領釋疏卷第一并不

海口佛波度後九百年中北親製諸為四法 雷命漸次為亡如人然終氣臨至疾演史便 思於地方地時中類問增長諸有和人應求解此勿於逸 初令校逸起類問也 含論類疏 論本第二十九

慶長十六辛亥母生冬

修清 和院新 刊

おりまいるは起いてなるべいようのかっ

たう人て被川京解既谷寂静唐へい 楽五なれどう マーシを気いきいか

> 291 (堂貨成) 版訂改。版初 首八卷 語物家平本村下

292 (山 溆) .3 (· Y) 疏類論含供版院和清條-・

和 鐵 可原 一 一 大 F 型。 篇 上卷 金正古文

華嚴經 中 푨 £ 车 子主 月吉日 T

佛以旗

JIK.

盂如

離 如

开 刑 佛

亲思

佛三知慧佛四

如

此約終教 品就此約

> 或 文,

人下, 村一点之长 金 部第 鉞 古文 銀山 上口カヤ

稿玉倭 腹院走心 120 3 17 四八 201 [1] 294 (田安) 首卷 版具 稿玉倭 版院進心 六八

	Property Manager			渊經受持-	
寶藏寺摺列之華一月日於洛陽三條寺町	妙法蓮華經卷第八然	受打佛語作禮而去	問及諸天龍人非人等一切大會廿大數喜	佛說是經時時野等記書隆合利弗等皆語	塵等諸菩薩具普賢道院羅足界如丹具

292 (山叡) 記刊 章教五票革版院和清條一 295 (原久) 記刊 經華蓮法妙註科版寺藏寶 五八

1. /L

福. 性 於洛陽商臺寺 林類紫卷第二十、 隱節本項云客舍井州也十海歸 d: り、 慶長十八美 **永來之**從 来乾水却至并州是故鄉 老 少年 共北北兴 技 出之誤 朔月古 न् . 9 來無 辰 侍者答到自嫌 M H 夜竹 成學無

活数 脈 书 澎 小产 路 家 用 + 拂 合 由 方 正 1 来 刹 明長 敲 感 為来祭起坐 林 住 委 土 據 納 應 福 為 馬 曲 目 府高 直 前 州 耳 通 高 頻 长 全 大 鼓 娘 墨 13 量 线 北 رايل رىلى 戚 施 荒 於 國 仲 覺 意為 钦 諸 来 赤 認 勿 家 衛 月 两 害 河 般 治 宗 楊)a 3 福 不 道 面 周 免密锋 宗 雅 畫 知知 狱 国同 校 言 重到 初 结 不

一 時間泉八年七月八 日

於棋尾平等心王

文造 卷 源愛通 -j-紅目 院 朱云平 僧 序殿 博 在 浅 胞 싦밁 又 祖訓 探 明 師 調 兵源源さ 12 停懲思祖 宇深辉 就 預算之間宜 it 門 中][兴 北 H 分 語 道 决 15 儒者 也於 犸 かん 消 14 同步 你 J. L 白 是手但 竹 流 1 3 此 有 茶表 巡 うだ 亦 汤 视 ·j-步 共 跳

三等皆若然具等所近 經時若針至滿 人非 八 华 香門語 苦遊香刊出 切大 000 1 飛馬之 15 初中心之 7 STATE OF STREET 1. ᆀ

,

神

299 (本高) . L . J 聚類林禪版寺臺高 301(堂簣成)記刊 經華蓮法妙註科版山叙 〇九

妙

法

进

河

卷第

東谷月城多相刊之非

1. .

于

時慶長十六

年十月日於延行幸

朝時

15/10

持

佛

計

作

槽

而

去

141

及浴

た

能

296 (田安)記刊 鎮廣師禪真匡門雲版寺心妙 七八 299 (田安) 記刊 觀源還盡妄旨與嚴華脩版尼槙 九八

整字山道李表

山 意。 本 F. 6

台門教職優解落上母序

人示治が 一支的新字請事文學作時高排 四年冬於心西之以果而 寄誦 觀 師 馬明 阶録

乘

五

性

何

示

悟

入

佛

知

見 乗

英末之明年了四百 治平者大東 第五个

未年四 吾到沙

虚心集諸宗法言解釋義之約要未通 乃成三卷節自謂之四数無韶 灭合四教于时權 汉審川之行分節文之 婚里 二旬 起

大言之神ら前丁下

孩

写 · 一

尚

未

环磨便為學者傳言記上 世人或將何

管国 之焦解既存 晏焦胖 之局也而有斯越常令照掌 致難而 二、学之明自 不曾以行頭馬所密 何必此為明於 九年县六 妨 H 低。

加

前一見至り

知 不煩録也

日大文を成し

科註天 由明教儀卷第六

集 优 右 文 門 六 爲註 剋字調卷之臭加 冊者就諦觀所録 從美令註 解 本宋符製說予以為宋代 杯之惟者亮瀛僧 佛 陁其助会遂自 天合四教與永 iE 冠 弘 嘉 傳 科 AB

> 品 或 入员 初 品品 神 利 八十 也 不 被 22

忍 見 羅 馬 無 者 者 思 或 因 法 利 先 言棒 之 之毛 授 披相 繩 51 覧 後 具 於 如 或次 為 此 集 後 脛 鴨肿 最 七 樹 文 淺維 矣 牒 先 備 於 初 本 抄 移 初 举 ME 此 哥儿 孫 九 之 非 聊 解 相 扶 下私 示 朱 录 卷 六 文 安

集 解 要文 卷 之 F 末 なな

寛永三 丙 寅 年十 一月二十 七 B

惟

時

慶長八年龍兵殿

黃鐘中院

悉地給

而

E

延

階

寺西

谷門林身秀靈謹

刊校

護門 我 欲 3 B A 界 慈 言 如 1 法 其 城 撕 數 類 或家大士

身 新 史

住 造 查 就

取

搭

耳

想

一九

令間衆生佛道 自 7 預 N 我 佛 冰 果 竹 我 数 t. 猴 切 Ht 议 名 何

4

護

國

界

章

F

之下

老

于

野元

和三年

T

巴孟 野寺西

冬中

旬

於比

铅

يلا

延

塔北

谷

IE

觀

院

眉

-1

儀教四台天註科 版山叡 刊年八長慶

301 (山 寂) 304 (山 溆)

四

部刊

.215 文要解集同 三九

首卷

302 (111

童界因護守 [1]

3 1.7 的句 . 沙 间 Sil 中 鍋 信 [5] 道 方 强 拍 等 间 勝 法 1 决 北 圓 . 汝 1937 並 共 未 為 爲 17. 般 7 3 j 陷 初 若 我 13 義 대 铺 等皆 未 84 共 故 周 開 件 般 於 是 未う 產 證 地 岩 ___ 故 书 川田 泰 義 全 书 方 诵 H 絡 等 至 初 取 Fin 細 1111 : 鄭 論 协 分 元元 栽 2 之 亦 其. 想 湖 5 第 拉 从 斑 時 未 良

未う FF j C.773 决 佳水 þ

孤

挺

方元

丹子

元

和

四

丰

戊

4.

1

月

Ŀ 山

於

P4 向

幢

院

刊

旃

中 持) t. 1 14 的中 小 洲 的 1 13 储 成 旗 門門 为 施 群 是 W 五臣 自 未 岛 到 馬 7 7 西各 初 节 春 森 KP 士 未 共 小 119 时 夜 份 ALL 矿 立た 组 井 松 小上人 步 4 万 若 油 有 果 A 至 311 학. 34 弘出 浙 ---') 並 小 力器 京 尚 北 五 中 未

孤

辞

于特

元

和

79

车

旬

於 月

14 .t.

子子

推

14,

-1 H

.]

が

戊

永

311

古

决

共

舟生

老

辞

背

未

天

衙

版

势

133

决

集

1

-2

+

1

說 内 天 鲊 不 是月朗 台名 一庭強,儿夫,成 絕生 思 生やや不可説 經云生七 至 矢 自類聚 也 又云語 まず 理也依之"妙樂 無、迷悟、差别、無、生佛不 但如何你必是法性,一 不可說 金 名,平等性之中六無 ----寂滅 矣 法華經 下。依之 生不 語 相 生 不 生 大師、釋一云 可以 不 t 云 起信 此 可 理,迷 音堂 4 說 自 不 不 他 云 同 加 须此 会 生 始、次 形 2 太12 H 机。 本 我 不 海 北 那 菜 法 可 * 訊

子 時 元 和 44 车 戊 午 六 月 上 河

和一

1

1

t

九

於 此 山 實驗 院 刊

1

Dag (11)

.3 , 127

[] 五九

(山 溆) .217 集決授版山积 四九 1]

当、 刊年四和元 鈔聚類目名合天 同 六九

303 (山 寂)

, , , ,

山門家水

輪里王諸佛出世亦復亦然指四天下置有與多轉然指四天下置有與多轉生不為利根大心者說O 生不為利根大心者說O 無數記書二世東中無二語雜誌言二世東中無二語(於京傳灣京鄉籍(大大集論司を製書禮取衛中無盡法。

於紅쯈寺蘭陸院捌利之畢萬永九胜年祭食

圍教美通人說别大乗為別乘說

法華經文字聲韻云訓稿集上 過網 五音 音附 比 聚假 征 上平 沙地 快 墓短 礼韻 韻 倫 外外 担

遊經遊婆 之之右交云 尼內 页云 見短 字页云 H 演云 夏云 理 背腳 赦 拉相見字 差沙 务 猪差 快 雕初友恐 及儿門云 略為森 功之予刊

[-]

火 A 2. M 是可

業轉 芝法 真言本有之又 身 LV) 之官無盡莊嚴優遊本 1177 之小物 離 界 窟堡 淨 不能 况 N 超 程 韓其 本 學茶 + 風 地 元 赫 汉 性 之 日 絕 佛 龍 初 恒 絶 面 之殿 沙沙 不 _ 圓 恭 得 如本覺子 20 秋 風 動 又 非 鎮 其 圓 丰油 住 波 大 王 自 瀾 我

此 此 字 具 華董 上上 11 分 SHE

大日

級近

開

是頁

岩

垩 十允 列之

13

1-

正

戊庚

年

四

月

北

日

13 . 9. F [1] 統 13 林 U 河流 13 华沙 共 740 件 荒 特工 和了 13 1. ; 汗 " 4 :

M.

1:

2,5

in the

검

10

' '

1: 30

元 W. 十年 th 1-1 ナナ B

远 開 可局 松 垭 111 器 中 水 霆 172 靴 协 元 珍 用 w 維 者 内 Ha 4: 放 專 門 常 西 45 75 E 走 院 壇 मेर 月 紫秋 外, 之證 開 SIH -松 料 大 X 悉 亷 秘 砂. L 光 效 业 T 即 意 安 重。 置 屯 元 北 諸 門 外即 業 也了 绑 Hi: 别 X: 内 人 人 沟 创

1.1 1.1

本!!

粉

Phi

Bil

17

求 py 七 月七 日 於 髙 野 山 左平 法 1 浄 辛

奇 努 万 心即 武力却 成一心含万法, 瓊又更可有傑 松 性相常 大 觀 盐 滿 月遍 問

雅信四 金道 旧四 特成 第位 常如如 亦 旁

顯 月

予時冤永裕

九段曆仲

秋

告

展

N

月

輪

继

右 古 が十 金沙 於 年し 商 野 亥九月 山 社 生 院 吉 開 H MI 宣 應開

[4] Ιŝ

佛制微塵身文殊則觀音妙慧慈成則觀音大慈乃 本緣性故上一門普門差降立也言依智樂欲名文 本緣性故上一門普門差降立也言依智樂欲名文 香法華開題云以蓮華尊為 主則具三十七尊及無量 香法華開題云以蓮華尊為 主則具三十七尊及無量 香法華開題云以蓮華尊為 主則具三十七尊及無量 香法華開題云以蓮華尊為 主則具三十七尊及無量 可誇佛并儀則同語一世佛者定指此人於自身是觀立正覺余尊等亦往知乎非此事具如且德 距离 有权型验月日 三〇一 312 (洋 東) 記刊 刊年四永寬 - 鈔心開版野高 313 (14 (7) 首签 声生压键 抄票拾单占同 四〇一 .1.3

\$1.

亦

是

我 即

是九夫收非謗佛罪隨其人用心可」有取捨者也,佛教者雖一無疑威之思初心時猶作光倒事故謂

於高野山 蓮福院開校中間之事 沙門和雕 沙門和雕

修瑜伽電子之秘法 卷以護持某甲 老以護持某甲

但 至 集件 歷 部就 H 提 渾 之 谬 現 類 单 打 华 按 闽 舒 、新九 中关 合畢 慎 لاعا 月 品 尚 刻 正 Z 又 本 中 H 低鍵 膧 稅 流 作 流 P 事 品 桦 12 押 後 海 效 主 定 治

四分律則等利用行為 學且制戶依所身限炎但意在行用董書通不 學里制戶依所身限炎但意在行用董書通不 學里制戶依所身限炎但意在行用董書通不 學里制戶依所身限炎但意在行用董書通不 學里制戶依所身限炎但意在行用董書通不 大和州孫上郡於元異寺極樂律院報度 大和州孫上郡於元異寺極樂律院報度

浆

願早園滿

地

速

京在書

至法界平

益

敬

白

鈔自表尊諸版野高 五〇一

土

惠

至 是 癡 遍 手 閣 北 永思出 師 走 肝 成 胎 造 若 泉 1 也亦 安然 也 示 造 तित H 過 绝 哦 H 我 介之 對 法 辛 此 授 闌 人可决 遺誠 然阿 世 畢 在 外 不 店 世 審 义 燈 不 XX 何 从 思 銷

关院例

者,

弘

章带

時利見馬

士與道宣

間

生と毒

2

選擇傳弘決疑鈔者第五

第古先就皇隣斯行政

導水 降土之一門濟

攻金

尚

雅文蓋 世 体藏

此五旅一子物

五以杰

行方今正雜俱生等選勒正行助

正銀行

前因之故也加之三

異題

無二二 念如未明們等谷陳乳色曾

米の有何関真

群品民味勇饶李人稀知

領

會之質千

當地流布決疑敏異本萬多技路界一今依數

百 4 有 比 读 旅 立 刑 肇 谨 上日 他 社 里 源 帮 梓 踱 世 矣 流 於 下 卷 州 龍 A 值 邏 御 गी JE. 大 本 巖 應

住

特

是

四

酉日

年七

月

74

日

梓

主祭性

本

北東以 千之成者,州置弟對此人 可決不審 云鄉為味 肝。 勝不安然 地池 决疑 示日 m. 和 過 分人 授業 推 諺 M 甲供 此 今. 路何

抄 時慶良十九別 洲 弘 旅龍 决 花 泽 山 七月六 大巖 第 32 寺館 13 流 极 主 行

四七

7

1

(山 叡 2 .) 刊年四十長晚 鈔疑決弘傳擇選版寺嚴大 八〇一

延

文

元

丰

1.

月

49

出

於

西

ilj

本

功

نان

:4

[6] .

九

51

か

北

Palo

不口

尚

尉

AN

這

司道

過過

之

批

雅

安

DA

丰

12

月

+

正

H

於

應

111

並

社

- -

13

之

次

珋

カル

歌

削

北

未

#

治

不

[1]

披

はなり

大

乘

0

沙

FIA

1-

Ist.

W.

一文九阿 或 学 來 代 译 於 弥 無 意 現 数 此 真 殊 來 經 形 捨 停 秘 意 也 用 彼 師 而 息 次 菲 初 無 云 諸 分 别 嚴 利 現 剑 淨 意 物 無 佛 隨 來 勝 大 土 或 冝 悲 BE 同 夢 於 來 雜 有 N 意 無 流 類 相 也 化 矣 示 名 方 初 R 現 意 分 愚 出 便 世 代 初 三 閩 化 分 門 身 教

右 文 元 此 字 秘 和 ---印 首 + 州 年 談 馮 於平地 辛 畢 部 酉 = 善宗寺 九 卷 月 者為 日 末 代 沙 梓 欧 門 刊 略 良 誤 N

> 75 然 州 香 取 郡 飯 高 卿 决 輪 此了 校 之

f

積 字 大 非 E 等 学 千 聚 况 累 幸 刪 於 或 郑 月 円 削 七 為 此. - 5 4 辨 牛 沿岸 之 リソ 產 本 共 形 答 邮 之 无 從 不 錢 謀 差 无 正 天 梓 斗 范 或 结 弗 性 約 不 沙 1/-如 們 破 沙 52.50 书 12 1 從 的 功宁 红 沙汀 3,-

321 (党籍成)

和 第 11 生 戏 小 4-月 -1-[24] H

元

[]

從 JE 皆 元 和 57 年. 庚 申 十 二月 H 本 林 妙 A B H

本 於 武 州 江 户梓 刊] 乗

慧 從 進

制 請

苗

外道 而

悉巴

净水

離

安住

法

城

狰 安之

JE.

船

師

子吼

名聞 使

友.

紹隆 法

三質能

尔

絕

降伏

應

礙

脫

才

布

施 心部

持戒

忍

起法忍已

能隨

順

不

退

解 逑

定智禁及 念定热持辦

方便

71

無不

具足

無

创 門 日 澄 撰 熊

助

殿

唱

草

X

焦米

第

7

20 10

、今上皇帝 東照權現 佛法紹隆 日本出州山户 四海泰平 征豪大 奉甲身 將軍 本言一 ち発弱 東教山首、下午日之官 左大臣源家此 倍增成光 **玉體**安稳 國家皇饒

公

此迎是久

聖子 丁野竹

旅十五戊寅曆六月十六日 門手院執行採題前毘沙門堂門跡 悉眼大師 周山 大僧正

弘

云节

王

7:

72

至

业

獨

盤

此。

明

付妹

将益之

世

益

小火

婆維門貨欄

半

河南

者達者是

供。

生

法之

驶 霏

3] 31 连者

德

浩

证:

佛

為

计

益村

云昔王

一五立.底

於

寺立

於

光

聞

洪事

相

者說

文

云馬香也

各者

傳 如书

中

列付

洪

人竟

近

質者

問正法

速益 游、

来 殺

Ht 物。 者

路氏

彩诗剧

白 云 别 厩

學氣力事

健

能

脉

岩有

林氏幸宿花溪居 聚行 1-

維 所 說 經 姚 焘 卷 上 = 藏 法 名 師 鴻 不 摩 可 羅 思

北 智本於八五 是國 我品 一行皆悉成就, 即第 千人俱 在 諸佛威神之以 毗 那 所、蝦 樹 建所。 固 解 立知 譯 脫 為識

326 (11)

M 5 . 3.1

ではいる

九平 释書本第

師 辣 張

15人等提達原 三足 等注科也本朝白,評任事以傳好配辦候人科 盖取移京的祖王此科女

高權之權 與福寺慈訓 デル寺道昭

三 益無畏

· 東大氏煙川山

下門子 小路伸奏

八者的印度季

全剛學生海

苦、

皎若宣若軍 极打就斯文復作 本朝僧史之筆曰果日唐 琅函 王軸之歸空天道好選 科或 让 好點筆疾書增降北 異院兹海 日 宋三傳 藏龍宫之失 一行青山 雖同

陰凉壯海東了福地

天子萬歳

幸臣十秋

至德元年甲子六月日

疏

火 人

*

于時慶長四年戊亥月日

洛陽

好 庵

宗礼

速間 録事狀耳 itt 抄者壽命院は 而漸終篇予披門成奇之餘梅短毫聊 甲安 麦醫家教療之股膏見 中ツー

慶長第六年五久初九 也是更

日東 洛陽 九暦開逢 机 庵宗兔 九執除姑 刑行 洗 良辰

(堂货成)

以作門上度

/ti ----

330 (野內)

担信命言革然征

.祀刊•首卷

でもくとうかとシキにたいカコモグサリンと草

はもて草下小祭端ノ辞ラ以ラ題号トスル也然

え、臨略メアラハスラ云也外アマタノ義アリ

ツ南へ入ル如名其ノきへ入ノ端ナリ編集ノ心

トモ緒也節也トラなノイトクチメハ党入入ニ

此、テ八此草子ノ序分也序以て、タノ義アし

で此草子一部ノルナリ

于汗九县岛

五——

Œ O

たきくれてきい日ろと現いむるていなう

ていくううしとうこけとかく書に

もあやちうしろ物やろなしけき

定分介 皆是相 古是的人将生之那沒怕另日上二 きるまといいとしてんだいはる様いまる 烈二马者不泰他省以為於与神代而不於 清神的使气心送於生歌而字而表之言 生活 沙地不意 慰問を持い私なでまる た五者はた後陽 10 日多常上去之人看松治八百 今四色八年記するが 加 街 お筒不可

多方式

刻

帝と特さへかくのしとしい となった年とけいりとしてもかくいり これの智慧盛、一て幸夏なしこうる年を書 石 して自然に養生の道」合も中古 本文以 に入ていたできたりら山村か 衣服とうちり酒色をこのを形神と労 めんずる・・・ ちハ人 いるんや今の北 9 0 門其 入: 31... 黃

きい男を行り二日四日六日る胎からくいん

0 りまかかでく或人横生逆き女とからと 複姓り間、 死七八月 辛辣人物 て人房事故と次 食心寸感 産を など或 念 :0) 地山 L たが : F 临り

五.

4.11 (1)

(1775) 330 (森)

也必此の時しち常し道れるらちいか

やまえぞれつち道に

ういんろいるを生の道のろ

るけそうわりす朝

タ世

俗すすりり

100

心を常し

遊言と明著事

て見善事

於行

72

3

でんなきい子生てかかりと

11 ...

1-11

[,1]

首签

政務快其心理於生議就率自事也於

安為軍以德州其精以此改改其真不知打不

供的遊終其天年全時之人不感中心面

刊齋意

践和術數食飲有節起居有歲不安作恭人新失之那姓伯對以上古之人其知道

起發打放不養性次光之

不丧今時之人年至半百而

動作皆該

71 Ť

41. 1

温

間文海一

fî.

何禀何生何始何祭其冷何在

鄭同三焦者

許可聽以不然三焦半水藏之道路氣之所然始也上 作者产心下下 隔在胃上口主内而不出其治在脏中 至堂一一廿六分直两乳問陷者是中焦者在胃中 脘

可敬名曰三焦其府在氣街一個 口主分别清獨主出而不內以傳道也上治在所下 不上不下主審熟水穀共治在臍傍上焦者當胸肥

八十一熟經人就解古來颇多就 時門下之醫生宜此衛送赦聚數供於 隋伯仁之本義其方趣深具而无疆其 文詞明白而易時 本朝未能特行能 前そ仍因工而令養极可謂救恤之心二

改長了本春分之節 治下新敬諭

實何 雲林 新與雲林神教卷之 **产羊陽家有此** 中風口禁巡洋言於實火數三萬 為孫陰風木脉浮滑 陽家有此山神穀萬世著生慶澤長方何藥計起京勘破玄機如中的勿勞此 清隱若改 太醫院醫官金谿雲林襲廷肾子才 弦數順沉細 歌中安皆洋其脉其疏 PH 金陵書林問 生 [0] **巴曼溪游民** 孩 短 治 日校刊行 逆 部

Ut. 分此

曆鑑回春尤作長 名是曰 慶長八年癸卯贈 庶幾高君加改正 去重刑後總絡節 七言五四為歌訣 襲公當日太陽官 今求养本新開板 雲林神夷附 雲林神戲 月 洛 的然百發百中完 不辨鳥焉皆 若赴遐鄉納小繁 政令董家誦習安 常攤二帙提要肝 方書着慶姓多端 施療專給富墨翰 陽陽德堂下判 **守三謹微**



病人 祸 病 摘 病人 新 者 人陰陽俱絕失音不能言者三川半 入 增醫方大成 人循衣縫譜言者不可 陰陽 可治 妄語錯亂及不能語者不治熱病 五藏已奪 希謝華陀察聲色定生 俱絕掣衣掇空妄言者 神 發提卷竹 明不守聲嘶 治 死 者 佚 1 死 犯 訣 上五

伏 北北 日ニサラスラテ也 研广北二人川夕子一一十十八子 夜ルサラスラ云也 チル丁也 アカト・ノウス物ナー・テイルコー也 灰ニツツミデラクト 煎シルソカス也 計審水鹽水所十十二浸ブコラル 70 才以 九 年成合於 雄ノカイコノアタマミホトラ云也 添表良日梅許 *3*7 7 也 7 自二次列 7 也 分丁

2% 白地 精養資神花,我在九 上京北神 老師明 悉悉師 同村之十五日無犯俗村八十十二回犯事人上了七十歲物以出與其過過中九 我ロマハース 天文外次分之意本 素問入式運氣論與卷下終 前人对明明手前明 慶長十六辛亥初冬吉原梅壽 相共五行人要看了一 重利 多月 1 大工和 11

331 (回 ":

Τî

31179

TE 11堂德醫年九長麼 提發成大方醫增新 -

部剂沿 技 炎學門據之間以用心又八十日又八於言十川北二局 113 、 芳、慶し妄三衛こめで攻撃ノ樂り換人心、 除論抄卷之四 按入ル二先生此民ラ仁愛スルノ心至テ源し故二京 お下人う没也 改先生書名戒 年實門無係者勿使攻擊論一篇之著之亦此

寬永三年成合 か二行ハレニ 爾人陳應後識ニア四知之法ニクラッ九 治行二攻縣宜許審正氣狼保護上云等,部三十 丙 須初秋 良 梅譯刊行 方

苓去皮各八 錢或一两八錢 味最妙 若要補 慶長甲寅仲春吉旦 紀州和歌山見義堂梓 八錢川牛源 两五錢井 一五

> 惟時文禄第五龍集柔北潘難日南至 扶桑國平安城 如庵宗軋模行

にずらり 人を可しかい 其、餘役行 相神者不必同類值如和羹調食用肉葱豉 13/2 須生薑此是取其所畏以相制問其相節 有所宜共相宣發也 至石於用枯樓乾薑略與大體如 數十條别注在後半隻 甘芳辛五味文有寒熟温凉 各有品 有毒用 恒

331、明1 231工作鈔論餘致格 334 (堂套成) 記刊 刊年九十長慶 更情醫儒 五二一

四二一

甚 明也昔者太王之去國也召其者老而 不明 者必有身故人我交相勝而物欲蔽其 養生則殃故莊子有養生主篇蓋有 神明出焉以此養生則壽沒齒 告之日君子不以其所以養人者害人 哉墳素之書以心 〇菱生主 則道別 塞而不通形乃大傷以

泰定養生主論智

為身中君主之官

不殆主

此

心

递人洞虚子撰

晋寬永第七絵 白鄉夷則吉辰活板焉 室 町通 田 龍集上章敦鲜 BJ 師 頭.

田丁田 字野善五郎 蘆甚左衛門

> 第水 難經捷徑下卷終 -179 丑丁 车 二条通訊音町 17-1/12 和 1 7 風月宗知刊行 印

, 65 5 3 5 08 南地致文政 多門人致所放水 此歌為提新有为考察等人多四方下 看学而心凡自然故有了文明一色 好後就れている「丁田を介文からなり、き人云家門は佐は、とてでは 少 五故面計及歌回股及此意見 世経るい子でを 在私心人 丁丑至一大文的 こえた、からすい

li It.

校

勘

為

24

日

顗

神

光

清

純

日

源

願

: 37 天 天 台 化宗双方支入 四 四 集 t.L 台旦 以俗 鼓令 喬台 虚以 如者 聖以 言在順西 三立 其方 回作 किंट ने 马戴,之生,以者

敏生

於

力

手

離

郡

之

397

11.

71

難

歷

2

些

形"

於

憑

悲

無

11

-

2

卿;

答:

堅原

大学

H

기기

不师

刀

2

重

高新

1

註

慶 是 龍 集 仓 于 兴 及 無 主 射 仲 俊 長 九 遂 月 功 燈 而

排

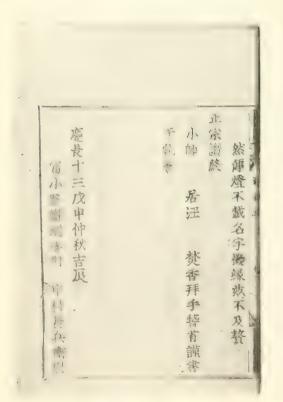
13

主

H.

正宗常然 F بدأ ر 45 京花 然傳 制 不載名字 15 居涯 於事 11/ 都省後 投行 機経兹 焚香拜 不及 手都首建了

恋 1 歸 日 者王 生武 1: 4 1000 父子 1 41 7 III, 特性? 四七 門 引力を 段十 1 家了 李 THE THE -1 1 子製 卒四 F 35 Quality Quality 特王 3 100 7 4 姚月 --74% 世 部 泉二 法囚 H +1-1/2 二代 光日 nh 仍 代也 年一 寺左 17 自馬 مفن 也元 门车 沙木 邮 节; 文權 界 11: I 中山 表頭 Tr. 環 分言 五相 片矿 4-1 自父 作機 +1-11 甲中 順 3 " 广寺 n.





(堂笠成) 記刊 刊軒枝一園花 賛宗正家五 (堂資成)記刊 刊年三十長慶 讀書註人上蓮日 〇三一 -=-

338 (浦 杉)

種兩版異

刊尉術兵長村中

宗 賛 Œ 33 7î 二三一

近. 七:

乗起

信論

大即

信之

又心

大心

謂也

體此功

机即大

用大乗

者之所

就起信

謂又境

善亦 起

乗乗

義目載體

韵 非 釋 动 华 疋 望西 樓 沙門小蒜迹

辨 釋此 經 無 阳 第 弥 SI 一一略、险 中周三門 拂 門 教 起 因

家益 功中 技艺 煩 體 井 路 定 报 百 判 無 本, 十 变 四 間 智 藏 鑵 漸 若 殺所 待娑 变 開 悟 頻 萬 明 攝 婆 0 證法及六 劫 空 初教起 有 修 三、所說 根性 羽 質難續 逝 所 水川 名 周治 恒沙

知餘

義者心行希起

是

妄以有以行叉乗能

清珠阿

故熏六排但為證應

明為得故

信於

面此

不勝

言境

七名

業大

起来

HE

三依

為如為五與就合運當

信有

決修行能本智雜了速本令覺四集

可離故心內精論

机法論 淨惠 進由

言華初水因方七

論

32

為決修行

法判嚴機

論甚信故

也深

謂法

立道

賓理

主依

云故

下

文

源云

功自

德信

母已

等性

正 留 贈 安 後 车 見 共 子度 期 十 月 往生 -+ 四 B 涉拭 門 老 习 果 恵 白盏 書也

深

廣大義我

今隨

順

惣

持

談

上結

句上

結所

義部

下也

白於

文

廻

此

功德

如

法

性

普

利

切

生界

利迴

益向結中

廣

乗起信論

疏卷

下

惟

時慶長第

若 十

下 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市

产 利桂

衛庵秋門正良

勝節日

新模

又

家

曆

下句辨上

退旬

露總

文字開 元 皆變長十九甲寅歲 整四 沙漠 板摺寫之畢 七 临 一部 者 三月 為末代與際 十五 A 拔松

主

大僧

E C.

1: 111 · F. 谷) 祀刊•首签 刊年-七十長慶 (村 145 1.5 四三一 。"年五十八章 339 (Nr (1) 2 1 · Y 3

遍 秋 联 日 الم 有劫 茶 發 仙 揮性霊集巻第 詩 会看,神泉花 并序

> 削大 印和遍 融 尚思 記文金

2

セラヒテソノ行状プレルレラハリマコノホカ法

本房

六三一

西ハトモニー 会義ラタテ、上人ノ命ニソハキレ

徒尹擅出也了上中點明房是四八上人沒後

行本願ノムシラ就し

等原品人上谷黑

二出雲路之住心房三依止山諸

二ヨリテ門

调 良 山 相 公詩 喜

雨

歌

野陸州歌并序

中 何 樂 PULL

洲 今何 壞緣 在 PY

75

夏草 松 大 髮稍 墳 餘 青 生 名

瑟 瑟夜 松 帮

茶茶雕雲合

1/3

雅

尚

在

癌 遍 領 於 洛 陽 揰 寺 性 田丁 集 市 楠 右 衛 闕 抄 門 卷 開 第 村交 沙 终

慶 九集 暦 + 甲寅仲夏吉日

帕

浦

文

集卷之下終

寛永

نے

五件秋

阳

條

寺

明了

校

JE

刊

行

九九

傳約前 昨常永三雨 松十 實情孟更上句

ム人アヤレムナカし

好魔ハカリカタヤニョリテ門第ノカスニノせサルトコロナリミ 擇集三違者スコノ三人名譽ノ仁タリトイへトモ上人ノ

於四條寺町大文字 Hi 时节 野 市 右 切 14 杂汁 開

她之 以火 12] 祀之者 省 恭畏而學立講武之士 进出 無元 說教之徒亦移々布 乎恭畏其 錫 飘然 而 不 謙 颇 號於中野矣欲出則無 如 念之 孙 鳥龍之 僧 旅 田之脂 州為 遼 濟个胥會豈為之人村 列豈後為之僧寶丹 樹 根 現 學 而失可依之枝 細 者矣楷 薦之 而出 者欲 踰 斯 之罪 不 可 JŁ 如 4 计 高 則 也

(111) 11:)

刊年九十長度

五三-

七三一

(3 11 6) 肥刊

元 当 米里 書 卷 第

智

北县 天 國 处 吐 智 番 井 無 推 陸 是 磨

典 元 福 趣 麗 李 -慧 慈 道 灌 訓 III

暦 寺 最

处

林 那 與 寺 315 时 37 71. 白 説 第 歸 天 義帝 廿 其 後 不 契 乃 渡 老 75 12-45 2

庚

来

支

心

提

连

黑

省

的 海

[4]

度

杏

3:

王

133

ヺ

11)

禁

尔

北江

通

71

金店

网

鑑

阿

举

芒 真

> 鎮 那

茶

北

沙

門

136

也我師日 維元 惊 看 唐 印板 1-) 雪 宋 德 海 東之 元年 維元亨釋 就 大儿子 温 斯 謎 鲌 忧 业 俄 नि 框 幣 非 うべ 比 之 皎 月 作班 施 日 以 岩 綿 函 IE 定 班玉 寔 肾 新

朝

史之

日

太

異

相乐

兹

流 日

歸

逆

好

增天道

疾

元

和

=

丁巴唇立秋

上句

浴

條

通

旗

屋

195

調

训

夜

那 城

作 持

外路

白

FI

池 奴

此

周一信

健

訶

製疏

巡門,

方譜大

事.

幾

百

供。

重

刊

被

小

用

北

遂

俗 山 人 來 和 問 泥 合 禅 水 集 -*>*\ 1:

来ラ 這 -3 ス 師 吉品 ŀ 詢 7) ラ 便 立 問 居 绿 E ラ ス 云 甚 h r テ r 得 士 -) 見話頭 他 要 1 1. 少 云 i_ 喚 何 人 ス 11 / 彼 ヤ 彼 1 1 1 1 E 便 即 7 1 力 11 觑 ラニ 提撕 自 北 心語 師 数 2) 7) 1 ラ 頭 鼓 カ 專 外 來 依 ス 外 ス テ禮 教 别 ス俳 師 子 = 1) 傅 7 道 别 問 日 1 見 ラ 祖 7 何 处 -: -} 直 訪 傅 r 1 ~ 豈是 教 ス 青 云 フコ 1 1 テ 文字 便 教 如 ٠ 7 又 ۴ シカ 入 3 古人 教 7 丈 1) RIP 5 社 日 11 力

姚一 蘴 麽 云若要鳥. 24 和 泥 台 兒 水 孫 集 作 被 H. 策 曲 任 合

4 和 泥 合 水 32

寬永丙寅林 鐘 B

极 開

> 340 (堂货成) 距型• Y S 115 153 3 1 1 111 1,0 亢 八三一

镀样焉內号

2.10。当答 九三一 342 (明 門) 1 注水質 集水合泥和山鹽

前事以南部 平外了 真如衛 目,較

[1:1] [12] ク別数ノ中二人 15 夢中問答集上 トクニ水得タル福セナン其中ニメマく求メ得テ一見,弊ミアリ 其 16 E. .+ ~ てへいと或、火ニヤカー水ニナカサレ或八瓶人ニトラー官人ニウ トーストヒー期ノりないし能ニアハサル者を報命ツクリ 北 下りけてう 見二生涯タ、身 野りいコトラスグラとい tiù 公前仕ノめフィメスはしりかい各コーナートモ其志に替回 三 省、大、祭、 モナムル人或八商度農作ノ業、イーナニ或八利 ノ福っ東ラ制スル事八何故ッや 心う苦勢スルハカーニテ其志ノコ 工巧传藝 事八佛、大遊大 李 能、ホトコシ、或ハ 北ナリ 時 しカル 其

ノーかれ大損してかか

12-

建一レカンい今生二貧人トナー

六二

商事とれて

一張口小多方於 來 上二心八點

37

問衆生ノ苦ラスキ大樂ラアタフル事八佛ノ大慈大悲ナリンカル夢中問答集上此情新雨本

福身に監要し一個多テレハ界を亦多力故二來生一以上於道八八九夕上二一期人間力入九難二アハサル者王報命ツクル時其

入れら利大損ナル事何事の是ニレカンヤチ生、以人しナレ

トイへトモ或ハケニヤカレ水ニナカサレ或ハ蛾人ニトラし官人ニウトラニ水得タル福モナル其中ニタマイ求メ得テ一旦ノ楽ニュー

多佛教ノ中三人ノ福ラ東シ制スル事ハ何故ッやシの佛教ノ中三人ノ福ラ東シ制スル事ハ何故ッやと、水得タル福手ナン其中ニタマく、水ノ得テー 旦ノ祭ニャートンニ来得タル福モナン其中ニタマく、水ノ得テー 旦ノ祭ニャートンニ来得タル福モナン其中ニタマく、水ノ得テー 旦ノ祭ニャートンニ来得タル福モナン其中ニタマく、水ノ得テー 旦ノ祭ニャートイへトモ或ハ火ニャカレ水ニナカサし或ハ賊人ニトラし官人ニット、ハスダトと一期ノ間カ、ル難ニアハサル者モ報命ックル時共高身ニ競事ナシ福ラケレハ界モが多カ故ニ來生ニ致ス様道。 るの 教教ノ中三人ノ福ラ東シ制スル事ハ何故ッや

(木高) 首卷 種一第本字小

同 一匹—

(堂嘉靜) 首卷 本字大 集 答 間 中 夢 〇四一

た

北

アーサイス見二生涯、、身心ラ苦勢八九ハカーニテ其志八智同し公給化ノ功シイスス其しりサハ各コトナートモ其志八智同し

346 (井石) 首卷 種三第本字小

同三四一

(回蒙) 当3 机二条卡介小

[₁₀]

は、夏買ノ計コトラメクラン蔵ハ工巧伎藝ノ能フホトュン成ハ谷世間三福ラモトムル人或い商賣農作ノ業ライトナミ或ハ利

,佛教ノ中二人ノ福シボラ制スル事ハ何故ッヤ

中

問

答集上

二四一

カルの

此本為正本

\$ 三门台

くるのなれまけられりからまてあるかるしくろし

FA 論語學而 子口學而 常定得人以學行后 首故也文第四八男子或儿母丁 第八名第七一八男 成此書先遍該衆也以教一一,成八學可多,以不成器人不學不知道,是明人必須學乃 議事化力號二七論語ノニ 字八無ソ写而ラニ 省上在テ其次ノハタリニ 中 り 一一在いたこう 四年或心智力 第八者節化一八颗之常也死死也天自降重人夢之八本二十八十四者事 二置事降電以下皆其學成改二十一云 字ラノせる共ヨリロ 三論審卷之一上有ツラネ 八二二八八八八八十野ツ りとだす八個?所生一皆私二小節衛然之 中日子看以前 第 月子者以前 日 と 編 財 と 編 根 ・二八学 儿 有明一二 1111 + 1. 草 イノ、 ヤッハラ 何要集解 計計 謂了 上心

346 (田 安) 首套 答 間 主 廿 五四一

七四一

365 (大理文京東) 首卷 本邊雙 同

(大谷大) 当台 抄心安風和 四四一

(堂養成) 首卷 本邊單 抄 語 高 六四一

昨寬水元甲 于殿外 月 古

二兵衛門板

學章句序 大學等何序 郭 釋六作八學朱平序 大全六作

シルノ二 程子力見丁剪倒スル文ラ、キナラメ生ラがル也 有ノ二篇シ技出了部孟二加了四書十名ケタリ是日本以 四書上云事アラハレタリ本注八禮記 東八花ハナン宋朝ノ程明道程伊川 書禮部恩易左傳聞之加公羊穀銀信養加川神传禮心 書八皇子如你八九 如論語孝經一心十加姓子老子調飲十也 明然ノ儒者八十三經ラ以テ本ト八十三經 八心理ノ學問プをでつせるかスラ此書ノニンムり上 护頭 何早出又不傳道曾参八智光厂 福記 ニアレハ軍亥力比 ノ中ヨリ大学中 上,毛诗 14 一 1).

上下モ孔子道シン

心傳心又一貫之道之八看子力一二十

一部ノ苦ノルノフルな

ニン又序ハ緒もアカー

六三

200 以序八論部ノ等二級日下云 級「日下台教ハノノ」九

弘力明二十二程二云ソ南八蜀也テ一向、ラガ丁見公書、韓二章向八序上入り章向八明由テ拜ラ作丁后程一少章向一序一八八多名八张子力注八作丁見養 少性力章句上本事八注力作丁一章一台之分テミコ外 有程ニソコアノサダメ中島 向八人車ノ戦ノ如クルノかナカンタン中 南ノ二字八本 郷ノ贈 到ノ下二子一比一 上二一四書ノ中二入儿事八程明 首 伊伊川ノ南 六 事八個八看了町ノ一局为有 中庸章 其傳而作也 中庸何為而作 南亭 篇八名 也是八是十世下一卷八青 也子思子愛道學之失 アル 起いの見い程二

大學章句序 大学章向京 解釋二八作大學朱子序 本在六作

シキナリノ注ツ加ル也、一書八曽子力作スル也顧風早 世人不傳道會多小曾鈍ナレトモ孔子道之以心傳心 スス此書り注シムサトスルシニ程子力見で顛倒スル文シ こい鄭まか注也漢偶八心理ノ學閣ノ本文シモ見分 タリ是ヨリ以 死四書上云事アラハレダリ本注八禮記三 ヨリ木學中庸ノ二篇以後出人論盡二加テ四書下名 四書下云事かられた、東朝一程明道程伊川禮記 明經ノ傷者八十三經ノ以テ本トス十三經ト八七詩 禮端紀加華書并經濟統十加莊子老子清 書禮記 周易左傳語 於加 **介華教美**間於加 周禮儀 經之十 一中

(大北東) 首签 本行二十邊雙 九四一

(島 大) 記刊 抄 구부 制 八四一

理 テハ鶏ソ 石第三十三

子思~一前章「八此二

ガラスタ 八替

下學ハ下ツカグへ事 無醫無臭卜不多上

ハ下学ノケッ

中汉一 しいかいきモノ也

二云へき半丁キナリ

句で中事ラツ、メタン学者ハコ、こ

1 - 10

1/2 唐 私 林章句之於

于 特 寫永二 曆 車光作器初春吉 辰

本

owner ; mi

拔

ラ祭二府 マ序八廊也序、事八大學ノ序ト同り り注、章句上云事八注の作下一章一句必分テ三世名有経ニソコテノサタメ母章向八大學ノ特ノ如の注ノ心 カ明ニナル提二スワ旬ハ局・テー旬くッ分テヨスル事 書及程二章句ノ序ト云り章句八明也テ注り作下后儀 ホーニソ章句ノ序トツ、ケタハ朱子り建り你丁其後序の 一部ノ害ノ心ノフルホトニタ又序ハ補也テカイコノ論語ノ岸二級日ト云敏ト日モノッ級ハノフル也是 假八局子町ノ一局く力育テ其把遊り通ルホトニッ字 子カレタフ中庸ノニな八本經ノ機號ノ下ニテン比ニ 游秋 香トレ丁四書ノルニス几事八州明道整伊 中庸ハ雅デノナ 打造部 六巻と着ノ名也是シスキ 川ノ所 出 カリア 9

> 八可為 和養爾惟擅梅ナラント云り是暑り宰相才心得タリ其時二時流力傳養之野カラ出テ殿高宗シタスクル特二者作 光水リー斗二年ツ、五ラスルト云り畢竟漏八好心也古 商トハ曲脚ノ岳ツ及ノマカルカナへつ周禮ニモケナル長ト 也屬屬下付二義心得 クシ属ハ原ト通ス際ハ南 帮 者是有徳之嘉號トス古人八師ト云ンメメニナトラッテ 辛相 在子ノ後序二見以り扇形八具音空也ト人帶免力書院 子ノ傳 匠ノ心也如子ノ南个八以名也屬齊八林看為九群銘 サト云モドノ子ハ有 徳岳婦男子ノ連編ッ上ノ子ハ 112 ノミハナケレー三後三宰相ノ事ト心得り然 八史記 一相材ノ心ニテカナへの付職此書八番地上二テ 列 傅第一二アリ北 子ノ子ハ女英路

蒙赤下ハ易ノ蒙ノ封ツ坎下及上ノ卦ソ英易ノ卦ッ中 家ャトラ学味 レヌヌアトへモ退タカレヌソ酸難ナホトニソ人事ノ上 免世ウ用テノセダソ子光力序力本ノ序り 蒙く亨次 フ山下ニアル水力進テ行トスルハ山カアツテルモはラ 山ニトルソ止也語シメ此ル心の坎ハ水テ六テ險阻十 此序古注 黎詞日山下代泉八蒙ナリト云り鬼テウレトラノ及ハ 笼告亦 易節 野ハ四五 ノ序の情注二載フ事テハナイク去トモ後人 亨行得財中匪我來重蒙令人求我去應也 ----·該个則 三 歳ノワラヘノ愚十七ノカウカトメとり時 下力如十つ是力聖人,本意少流テ行ト 上蒙亨匪我来重蒙个人来我 不告利真暴日蒙山下有險之而 上

(大九) 本行针抄册中 首等 三五一

(严篑成) 記刊 刊年二永宣 抄 庸 中 二五一

366 (澄書圖)

X '. 抄求 3. 五五一

(卡 高) 17

j. 抄 11. 四五一 ;

行物歌

四 阿

海卷第一之二

前建長笑雲清三

沐

此 此 八波が近れ五八ルヨア勘政樓花等官務本閣ト六三 俊 才艾 11 「ルれ花等官コー少し南」「ルツ動政樓 告殿プ立ラレター先動政 女件歌 住館 過勤 4: /宮殿ハ何七是八玄宗/平生ノ御在 所ョーハ西 幹也玄宗誕生,日百僚花轉樓三两宴人八月 年 コッチ]村 名在次承露絲囊世已無唯有累苔 政樓上云題三三禮詩二杜牧为作詩 村上上 以 地八唐ノ玄宗皇帝御在位年久シテー 仓鋪 34 山、玄宗蜀國へ落ラレテ乱 1-秋萬歲一机池 梅上云へ政ラ動き樓閣 白樂天 務本閣 二八千 偏 榧 天 tn

由

馬

六同

一段門前

月題三是日十六八春枯七年段門前以下四旬一段, 胜云, 也為二段起, 我

校并

句

生

下馬發懷 墓 壽人端 電子生二十七在周翔七月二

宿牆電寺詩又

店林八年笑

先生

演

- | -

七

句之 E 七

以两 至 年 +

下說斜 土

十不清

七月自

陽平至斜

谷宿於南山

中解語

海入河四

守殿ノ立ラしなり先動政樓上六八政ジ動儿樓閣也此三ノ 116 政ノ正之玉へルニョテ勤政核花華官務本間ト云三ノ 長根歌ノ起ハ唐ノ玄宗皇 レテー、天下

官殿八何五是八玄宗ノ平生ノ御在所ヨリ八西二アル也 禁言了少之南ラルラ勤改接務本閣上云過勤政

八玄宗圖圖八整之上一點以後八躰也玄宗誕

文宗前間人然之一点親以後ノ躰也玄宗誕生ノ日万像。緑囊世已無惟有些苔偏稱遠年へ民雨上金鋪此、道三テ三體詩二杜牧力作詩二八千秋佳節名空在承

तें ह

:4 37. 7.

भंक 行门

焉心

孟

存

如

慈珠

H

15

7.

1]

7

ti

日扶險

清三話

具質之

抄

卷

之十三

終

캬;

完世に無上八山後八龍ノ野シナメテ久の生八月二

視也其七十二十七八名ハカリ空の幾テ今ハナキ也承露縁

三产清學又八月初五日之千秋節上八千秋萬

云道三子三禮詩二杜牧力作

大概 こくむテ語ラントスツール 一思 中南京南マハラ、南タソラ、狗八有义 2 ントフルを指しい、シンボフリ、ノの語ー の柄 卷 といくしくへりまする 新月

水響

語

大卷上

上星明以

ぐ 1 II

胜云或云横

槎

盖

独

木

橋也

刻

14 1

木店

槎

晚渡碧澗

一夜入

商山

谷帝

谷

中

对管

日ツ此

詩八其

次日ソサル

程七

月七

t --

日/作

7

月

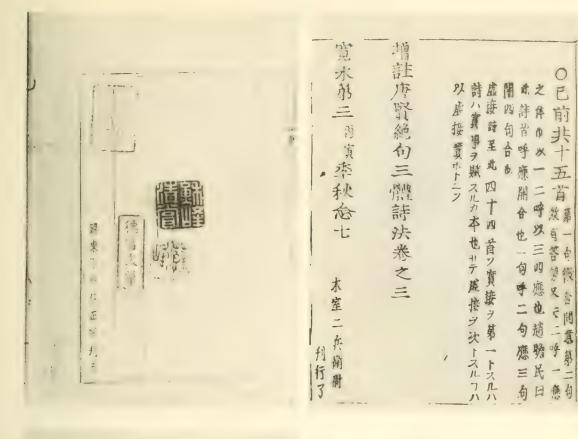
井

六

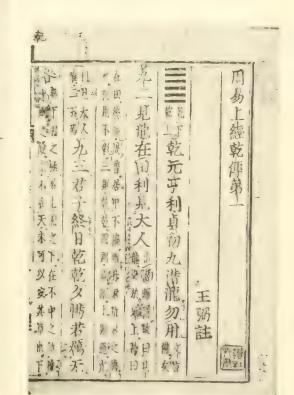
二的詩/題三是

护光识门 七五一

六五一 抄歌恨長 363 (1安) 首谷 本行一下邊雙 八五一



反土 周 之人以非誤未詳何義 助む二二十 **第米二年**南 自大過 门終 以下卦不及對或疑 13 1 二條題音町中嶋久真衛間之 旬 共計 南 个 次間 悠



(堂簣成) 記刊 刊速正 367 (洋東) 記刊 刊年三永寬 抄隱某詩體三 易 周 〇六一 372 (原久) 記刊 刊年二永寬 **菲傳易周** 三六一

大大大

地天于安以京帝常可于 克上大战的 有身位。 放之百 恭 金红 度 11

下下明 後信龙之文的道代 施蒙信當思 勘察之明 持 舜 田月 軍能若四 文 **特温**建文 九人放光 思 777 清. かっ 族其和允 帝 安 恭安堯 之老字 之能书格 克次、附者 以明聞至 使天 上先古軍作 睦俊允也 護 商門遊既光世欽道管堯之言

往之四有被父敬而就典達聖孔 玄士外四四功士行比赛 落龍 孫住至您表什言大非典將傳 之用了又格面竟当順先部了孫之

计 17 12 无袋 : 1 被 13/11 777 二百二 文生 顶 五代 水田 会文 頂沒, 17 学艺 安省 HAJ -77 134 明 ni Gt 茅花 清涼 义 故光 TE. 12-"道 IE. 安 其充 1ip 部市 范 版 名格 之光 開生 沙城 夜 主击 充也 言雅 古順 作 上分 治既 光、 世欽 免情 35 四有 典堯 之散 るから 而考 03 12 H掠 四功也行也 对 表化言之华 地 于又松地而思者順

背. 弃 安以 在市 1/1 72 尚 于 田有魚 位, 在典 書 之百 說: 帝 ·第 悉 菲 第 動 消代 于 曹具 厦 钦 1=7 几么 雅 安之 月月 苦 閉 清四 文 帮 指源 思 12 1 故光 市 11 0 子, 廣 1 === 尭, マ老 安 於於 若若 同至 色

非 나 금 道书 71 光。世代 重彭 比 典 被,之敬而孝 非 划功的行也 典將 表。化言之能 于义格的 而患者順 花首

讀: [功古順

常引于 拖帝 天徽 行為 在 典 位 日 放 意 帝 下明 之引 熟飲明之思 世月月 信允 之文 発聴 當思 詩信 若 舜福 学艺 能克 明 替古 議 五四十 故影 德 、送沧 安 允恭 帝 其充 禪也 烫 名於 差 之书 眉 - 15 考若 炎 天 門主 克 7 13 Ly 初"垣 作 . . . 5° 64, 在京 .174 悲 之言 二 的步 7 . 逐聖 孔 曲 內面 村山 京 香德 Pa

九川之能, 真;

洛 而到 有顺 莞言

朱

(明 陽) 首卷 本種二第 [1] 五六一 373 (宮 神) 首卷 本種四第 七六一

- 1 -

作

(原 1 首签 本種一第 결함 荷 四六一 (木 高) 首卷 11 六六一

本種三第

将

充识.

上江

毛 詩卷第

問南關雅計訓傳第 毛詩

國

風

順九突

也激也 正夫婦也故用之鄉入馬用之非因馬風風 骓 后姓之德也風之始也所以《天下 風 以動之教以化之詩者志 ごかがご 而

關

言之不足故嗟歎之嗟歎之不凡故下歌之

也在

N

為志發言為詩情動於中

而

形於言

玄言之不足故隱欺之差數之不足故衣歌 周風而 周 也就也 也 JE. 南 惟后 妃之德也 在心 夫 毛 層 婦 诗 引相 為志 風 边、故 國 計 以動 風 訓 信第 發言為許 用之鄉 2 風 教以 之始 人馬用之邦國 情動 化之詩者志之 迎 所 於中而 37 風 鄭 化 开 焉風 形 天 袋 於 所 E

毛

詩

卷第

多 是公司 以 十二

た八八

造此午作省南什物 慶長七年多門十月十七日 身を今はないと入ち順科はは不幸出き 能於桓 春 周 后 匹嫡 秋 然亚 王抱 傳 心癌 於及 in 集解 -啊 " 及 政臣 屬 桓 134 公第 前 庙 鳥 公 - 1-12 孝子を打唆 大震 伯 网们 清 13. 配 日 描 はない 江 水

P. 出 追好恭 言言之不足故 山山大が 八南開雖計訓傳第 也数少 也 11住 名詩 在 右妃之德也風之始 ive 学 為志發 極風風 風 1) 以 故 的之数 用之帅 晓数之晚數之不足 言為許情動 沙人 人 馬川 化二诗 山所以 水 於中面 風化モ下 鄭丘之 が行れ、 非门写り 苗 シニ 7:3

(木 高) 首卷 M(11) 九六-

種(イ) 本種二第 (堂嘉靜) 首答 Ĺ 八六一

前

木宗監

你白守由其其花本篇以下好艺不到是 報子并是五五次之处犯於名

記 記 卷 第二 第 +

禮 記

日來 病問 鄭 徹 氏

體 縣也 恆君 士凡 馬栗 北观 特樂 太 始歷 雕之 器網 下時 去天 生去 琴子 足服在也 北也 牖病 影宫 地人

之者

十才

東

首

引上

湯

でする

者謂

北下

陰

流

衣

加

確

衣

4 去

加生

訓氣

女

服

1 若滅

影應

其衣

終則

於所

正加

也者

體新

手朝

北矣

自持

也其

男

4

改

服

朝爲

服寫

也客

庶來

人問

本派

柜人

推

我

日婚

法去

琴瑟

資源

諸当

族動

軒人

縣病

大者

夫欲

判静

外

内

古

掃

病為

也夏

疾客

困將

禮 部 卷 第十

变 液 大 病 言巴 外 第 ナニ 前沿道 部

氏

内 寢 其 2 1/2, 東 諸 排 加 首 埽 俠動 H 朝 徹 脈 軒人 反 於 蘇 縣病 也質 徽 北 女 衣 大首 牖 改 圳 加 夫欲 衣 困將 其 新 下 服 者雷判静 日來 彩 衣 縣也 病問 學賓 放防 體 恆君 士凡 居來 正加 大 心者 将 北视 夫 新 始歷 之 縣 天 去 F 手朝 生 嚴在也比也琴 衣亦足 于 為 也矣也人屬病夢

謂循以也夫發

元乙

处姪

則也

次諸

妃侯

死 不 惠

不成

符喪

從也

夫無

光

空

死别溢溢

之夫姓義

繼人婚孟

室故勝了

朱

就

公

生

仲

12

黎成

之学

於有

魯洁

生

辆

公

丽

2

爲

常

夫

入

故

仲子

論

-]-

找

日娟

沙门

之者 去

恶

士不

或

下為

不四互去,北下

之族

前

G

計

春 秋 処 傳 集 解 公 第

杜 盡

人元 也处 车

傅

公

元

妃

元

宁

庆言

仲 诉给 以 于明 避 实始 于 冷娶 7 姓適 生 内则 孟 事同 生 m 子卒 有 猶 姓 不之 公 文 們問 明持 標不

湖獅 以也夫薨 之头 英不 犯 盖 經 故然 势起,不成 過人 停集解 為 被成 得喪 室故 1-元 之字 朝 宋 妃 元之 從也 北公 夫 妃姪 夫無 於有 死婚 遊益 隱 争若 人 杜 北 公第 生 故 先 夫言 则物. 氏 伸手 仲子 人元 **火** 譜 妃候 军 也如 而 福 伸手 以茶

子明

宋始

姓適

年

撕始

治學

内則

事同

歸人 猶 姓 不之 以謂 在 得國證整柳不

生

TID

(1.1. \$1 · 17 [11]

(本音) 当二1、 本哲 布。 pL,

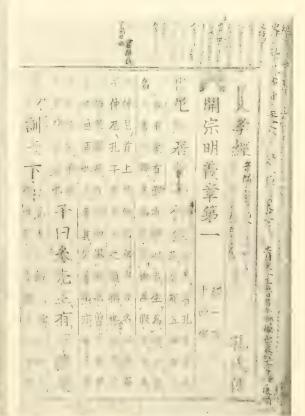
生

(堂货成) 征(1) 解集傳經秋春 四七一 f" u 7. 3 375 4 11 4 , , 五七一

7: 1

道左下子完了打了打了一个 以后也之伯仲仰為義尼 宗 老 訓問侍通尼尼尼義有 H る元 道坐無間孔古以象 明 否 15月前年 むらニニリカ 章 福子 出事 名平者/ 名際 狂孔子, 竹的小孩 第 其中子門家類 毛子! 1-7 坐 祭 父思之丘取以上仲 王也 曾道 通山 物名 名尼 走師 點也 稱故 為生 有者 有 亦曾也名假為五孔 玉面 孔子仲目其作 子者中在《八百八年》 新男子等待一门如下

许宝胡 の音 道仲 汉 之, 地當而 孔公 聖書 尼 尼多音順間日恩受記子傳入事大 居孝神用之而之也父義 天 下曾經四近以符孔共母 子中間 子 者海之為 子子 道為 学 文字 名 無坐 月 待以百月一門壹 五 和坐其姓門經入以過入 曾 膝子可皆妻上又此孝之意朱 子 曰 謂自予自以遺物疗 祭,天此兄天 於北 而莫首公 孔 先下推 第子 聞書 巴大 县刊 于 王萬之長下於乃禹於日課 翁 世經幼至自曾遇孝 放 常常 遠應 宁子 文堯 至 尔 法也之人者聞此舜 徐 吸。也各大者合作例大



(田 安) 首卷 本種二第 同 七七一

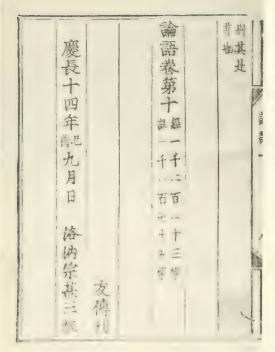
(堂養成) 首卷 本種三第同 經老文吉 **八七一**

(田安) 首卷 種一第 本記刊無 經孝文吉

O

六七一

376 (洋東) 首卷 義 大 經 孝 九七一



計 慶長 語卷第十 北北 四 年 門已 九 月 日 石百 七二 洛 ++ 讷 王三 宗 字字 友 典 傳 開 板 刊

"C",

子 諭 速 현실 /-必謂有部 不 亦 方 習业 1=1 北宁 以王 學 學 共 君 兆 子乎 時肅 為人 不 而 而 亦 學日 特 第 樂 習之不 也 不悦 無時 莽 如怒 其言 凡 乎 業學 + 君也 門包 者尔 于儿 月氏 所者 亦 六 丽 說 好 不入 周日以以 為時 犯 想有 周 乎 人一說誦 上 77 于馬 不 悍習 有 不 之融 好 通日 !子 新 何 北 安 ,日 而 打 拍子 Fi -jl. 不 朋 間者 13/3 他音 引明 出 上小田宇 13

論語學而 有弟子 流 部子 不 ず几 司也 亦 日 學而 北為 君 来 以E 3 時扇 不 洪上 华 第 亦 學门 37 不愠 樂 煎啡 学 拍悠 平 行首 事 君也 門包 了凡 所皆 而 用汉 49 不人 朋日 317 14 完完-犯 温市 F 為時 5/2-上 所 說誦 子馬 有 學習 不 之心 鮮 3 矢口 之 通日何 23,0 狮子 目 两 有 汤 也解 周孔 調者 1. 不 加 好上少日安 他 自 孔岩

(田 安) 種(ロ) 同 一八一 (田安) 種(イ) 記刊 刊年四十長慶 語 論 〇八一

註 經 一百七十二 五三



唇後為層所并又言知為楚 本 各自有名孟子都人也 書孟子之所作也故热謂之孟子其篇目 孟子 孟子與解者所以題號孟子之書本末指義 文辭之表也孟姓也子者男子之通稱也 春秋都子之國 題 音 至孟宁 名啊字則 時 外开 改 国 非自由人 未聞 鄂矣 國 也 如 則 此

本 孟子 描 各自有名孟 書孟子之所 文辭之表也 春秋 氏孟子題辞 後為學所弁又言 題解 绑 子 者 作 之國 子部 乃 所 也故松 女生 狄 至海 也 題號孟子之書本末 人 绑 也 子者男子之道 6 高問 于 名 姓 琲 2 剪 孟 所 1次 字 子其篇 11-日 則 未 非 部马 彤 開 矣 捕 指 رال 133 11. E 7/2 遊 近 朝 则 今 北上

可複說 公孫 1 孫丑問 題故 政公 事之才 五章句 泰第三公 篇 以 事得夫 2 手 功 才 同 孟子曰 心心 問 公孫 上 子 夫 子燈 仕 謂 管 学文 路孟 英 姓 子就 於子 2 五公 丑 松那 学 京計 功名 们 孟 而獲 几」 管仲 静子 可與 九流 語弟 以也 也 知管仲 墨子 子子 行如 11,使 路。也 丑 習 夫 夷子, 政有 功力

m c;

七三

1.0

1年 刊運正

J.

五八一



超氏

-13-

4.

题

福

M 梁惠王 孟子衆第 孟 各自有名孟 治 文解之表也品 上春秋都 季 也 疑 伯 時 探惠 谷為省所 4 質 一字之所作 時 及 與聯者所以 一章句 禮 梁 楚 卿 Ŧ 天 若 丑 I 篇 者 下 15-3 大 王 上 孟 聖 君 語 弟 夫 有 并 于 7 咸 稱 于 t 又記 國 鄒 女生 4/1 之 及 公 亦 以 王 E Ξ 人 故 題 也子者男子 尘 問 例 題 也 は白 2/9 大 3% お為 热調 12 號 中名刺字則 世 篇 大 師 黑 子 野 魏 信 规 温 子 儒 也 師 惠 拉 平 名 有 楚小 制 عد 曾 為 Ŧ 者 几 遊 名 孔 改日 之 清 子 苗 前 衛 他 居 也 惠 晋本 千非原 之通 李其常 便 犹 有 時 證 者 於 未聞。 朝 君 3 信 諸 大 东 FI, 也 E 六 和 矣 皆 師 一 公 设计 秋 王 小. 13.7 計 1/1 100 於 問候 山山 公 部区 111 11.

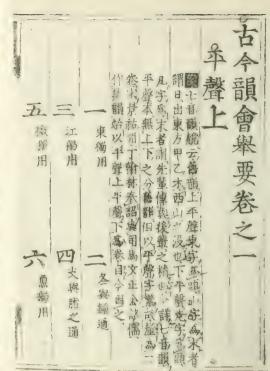
安 東 老 之 一

龍 心 少者非 於從 华水作 留番者非亦有徒由者 全五從 留者並以此以正作主由 工工之類並以此為正作弘知者非古從工從見丸 音較今省作凡正音內一懼微懷也又并方扔孔又音無又由客切几字從明者若可形 人玉 物鄉也凡偏常東京市以此名正今祭《非沒得者亦作察然非正也古亦作人会之五篇七南色城二切轍一馬口中織也又是臟切又也造切以針一衣也又人 孟 鈄 龕 九四字從又 從丹乃丹字也作月月者訳 手鑑 金 一部第 O.经改 居依切納名納遊戲也只喜行大 ○金 百令說文五色金 老第 是二或作 老門上 查責 金書 銘 金 到·取於器也又看翻也又告俗入聲 作 歌然非正也古亦作殊 0 0 錙 鳉 鑑 也常 凡將写此 也八兩日一 俗 音容織也 173 金金 合说 性也

377 (聚書圖) 首卷 本種五第 同 九八一 380 (宮神) 首二卷 本界無 要舉會訊今古 一九一 379 (木 高)

Mrs Missill On-









E Ji

 380 (原久)
 首卷
 種(中)
 同
 三九一
 (洋東) 首巻 種(イ)本界有
 要舉會韻今古
 二九一

 379 (寮書閘)
 記刊 三年三十長慶
 章
 五九一
 (寮書閘)
 首巻下
 :計韻篆字解文説
 四九一

臣小

宜司

上氏

自云

開太 補 史 記 撰小 注馬

巴下 有三 開史 退故 五皇 下公 选作 希而 德以 精五 代記 又帝 以古 府馬 為全 世首

正之

以首

大星

檀陽

首叔

其自

實質

三帝

皇已

之來 王論。戴因 作事 代古 籍以 紀史 罕五 平斯 徐不 備帝 皇亦 整合 本近 然本 犯古 作全 君紀

聊雖之三關臣為皆者家臣小 然已

補復一五近之首級正之宜司

交生云近今皆皇教寶黃大尾

已市既

證歷代始其自以首奪

並論甫化三帝戴今月云

抹三盏之皇亡禮關開木

校 五

紀史华五篇五代

声 不肯

i 上以

以當

而皇作先已下有三關

之來王論義因帝而连

代古籍以德

本近整合然卡帝耳為

紀古作全君礼世行一

關臣

近之

代始

皇我

甫北

論之

作先

帝既

三皇本

者家臣小

宜司

太峰

庖

R

風

姓

燧

氏

経

天

而

王

母

日

太

单

庖

摄

風

7.

亦

於

雷 代

而 生氏

商

摄 天

於 nin

放 王

蛇 12

澤燃

総

丹

補復

關淺

云近

一五

證歷

个皆

益益

株三

而皇

集巴

正之 證督 其自 代始 双首 皇教 山山 上氏 本 自云 甫化 三帝 並論 阜已 抹三 志之 神明 開木 作先已下有三 闢東 面皇 帝既 選故 下太 集己 五皇 之来王論載內市而這作 代古籍以德以當史 罕五 篇五 代記 纪史 徐不 備帝 文帝 以古 注馬 本近 整合 然本 宿為 紀古 作全 君紀 世首

近七

一五

浦夏

閱淺

云近

風

姓

代整

天

而

王母

回

詳

承

冷

伯 54

始

禮

儀克

學

郊

阳阳

社 妙

大

鳴

船 有

協

理

張衛

欲

存

炳

發

未

成 聞

功

羅

憲精

天

潮

紀

慎雖

顯

志未

推

檢舊

部

先

有

於

首叙

漢

[-] 1-2 書 注 補 雨

亦 藏 自 山 經緯 敏 之 秘寶 於 改作至 帝 學 政 利石 紘 乎 維 园 避 分、 班 源 背。

(堂猹成) 本行八界無 ξij

695.380 (田安) 本帆嵯像

11 六九一

381 (末 高) 首卷 TH: 漢 後 九九一

地前談

(堂寶成) 本行九界無

七九一

ii.L

八九一 处

T:

填 無面性有 朝 尤 政 太子分 和 其事 更卷 九 3 也 非,克 者也别 宫"仁 初 第 が 然則果此之書出 久 The. セ 師 矣 出 有 访 古 古 受 法 死 、人三 以 其一放一就 40 君臣 節用 不能克 月 忠三 所不足 有一个 父一了 条後 代天 田條 宇白 有 砰 F 兄 第 息兵 兵壁 一弟 未 福 街町 老由其 A. 矣。彼 一不足 你, 愈 i ji 万

九分 而無 巢木 高五千六百 人亦名 州長 小鸡 兄弟 是 是 是 是 此 此 。 未礼 立源先生 及故量之以偷奏考有目不大百年人皇以後編撰號自於 標題解 九州與宛青徐鴉 註 ·音釋十八史與古之 悉易松 學臨 1-排水為學 き先之 光礼 紅五 元二 小龍 15.5

富令字内之人的豁之 九年才二年 内辰季老事多人

子 等产 11: 製 前高 氏辛 12-者 魏 剛。 歷 禪 非 并唐 地 皇 作 唐 五 晋 峙 易真 國 晉 漢 大為 虞 胡 皇 九 紹 號 魏 傳五 又 平 史 之 氏 具 氏胡 止帝 然而 名 略 為 具 相時之今 通 天 對首 日 五 氏劉 如依 考 帝 = F 诉私 此五 姚氏 皇 総 氏石 妙立 举 帳舊 東 為本 悉 括 夏 合音 三言 商 三改 趟 足三 皇太世 周 江,天 金具 泰 左 周 太 也讓 前 天炎 成 漢 也。 炎 後漢 擾 亡 高帝 郊 於

赔 東八十 ○○二 (油 班) 1.1 三江中。罗政昆真 -0二

D-2 41) 版()1.10。等令

:14, 341.

南

西

(版寺福東) 考通略史九十

=0=

按 日 1 圖

日 = 不 善則 而 行 改之 自 必有 省而 夫見共賢與 退務焉 我 改之 師 焉 是 擇 見 善則 其 3 者皆 善者 賢 思 而 谱 我 而 כין 而 從 自 師 1 從 省 共 而 2 也 不 不

内

出

孔 切

悲 ح

並

軸歷代君臣

周

不 明

止淀

海盈 便製

尺上

N

御

者棒

歩

華日

學 +

士 五

來排

此元丽

外

榮 侍 元

之自古

急

其待

+ 帝

E

如

平

在

甚

思

姚

論

月本

粉

-6

H

13

书

功無過

乎此

关

H

المارة

排 像

34

文 帙 TE

部

貨製費

次

進

13

臣将序之臣伏念

開 開 元 大

汉

問 元 上元 亦 太 F

其处所 歩 沆 雄 年内 有 召學土 脏 古蒙天 乃奏之上 中 内 雨 太 哥 平 4 地 字百 数 潤 共 地 學、至 僚 神 狮 到 質 屯 有 以 玉 之 光 宿 内

庙如

板 記

弘山 未 之有 林 學 中

環為宰相朝 筋表直 對 人、心 歸 放 馬時 春術宴布以 所

用

孔 竹 明 取 占 子 三村 者 即 通 商 前 觀 紀 怨 法 摄 读 上 卷 长 取 於 弟 唐 建 東 之 諸 地 提 陽 幼 觀, 王

佃 以 萬 取 物 學 鳥 縣 於 天 情 是 典 副 獣 使 作 始 2 也 史 潜 上 結 仰 作 文 厚 綢、 與 則 IE 1 济 神 卦地 觀 而 府 泉 爲 Y/. 之 宜 氏 部 通 於 刊 校 客 神 近天 行

382 (木 (6) Y !

們

拍者

1111 S F 僚 111 11 三〇二

机门 11年 放 11-指 代 市 微 功 I 3,23 重 741] (ii) 涯 納 秋 極 消 j-11 府 当豆 滋 九 月 全 沙、 25% 書 月 屋 B 源 V)V 空 版 補 IBI 鼎 傅 正 儘 且 2 今13 田· 五 仰 原 界条 理 單機 後 亦 仁 左 有 徙 織 2 74 土 門 一些 利 通 蓝 利 尚 羽 言告 之

而致 17:0 共 能行 好 少其 如之是 或 巨矣 統 謂 工 汉 寫 盡 出 人共有 未 苟 誠 其 25 戊年 非學身好第 生 求 也葬 2 我 如阿 有姓 ----1-是 必 部 美 而站 かり 節を八年る道 必 之 PH 洪 E 故倫稍 學務 黄江 也。 学

試熟 六 2 51: -3ti, 不 7 文 义 者 P 杨 武 [0] 有. 红 [4] 谣: 武 二道 兵规 7 Hi 义 天 块. 的行 **建立** 就 狄 护 也莫不 肴 py 有 银 是 主 可 文 世 長 珠 名 是 有 攻 S.E 100 社 玉 於 家 學 國 + 徐 书 死, or 10 -徴 多 質 [2] 計 pp 1 代 1 微 智 首 7 沙 3)% 1/3 而 那 1177 試 一班 小 也 绵 X 底-べ、 + 可 夫 其 史 君 THE ,舒 B 饮作. 1 >> 义 11 學文 141 it 初了,其香 君 it's -3-帝一郎 13 1.7. 1--10 TE 北、瞭 共主 益,这,身,不 11] init

3 此 祭 竹 2 孫 你 t 护 Fiz 111 武 武 書 H · ; --;-十 1 子 蘇 F 辞 ラゲ ---日 11: 而 燕 光 油 北 輔 共 -}-生 人 绕 國 書 ---也 亦 而 仁 義 2 符 計 E 何 >>% 7 序 寸-吾 3% 此 共 智 言 赤 孫 必 回 法 計 觀 古 3 攻 始 見、 於 所 Th 戰 具 苦 3 孫 37. 俊 矣 F 11 北 和 子 衍 ilt 温 治 也 平 其 特 孫 間 111 不一吃 子 引. 1

385 (叫 安) 卫] 要類錄語生先脆晦 七〇二

. · !..

新 部。 成 方

13

邢禹幼士海常

劲

光孫

扩

政朋

擅 44. 火 禽 德 2 虞 2 时 多 生 端 金 横 雞 外然

欲 逸 相 翰 於 乃 由 多 初 涂 剪 飲 飛 放住 不 車 涿 12

盧 系 不 7/2 乃 东 於 新 於 如 非 竹 臉 何 木 站 絕

1 似 愁 同 納 利

1.2

居

枯

亦

為

2

自局

於

本

事馬

東

綴

經

两

足

久四

Ap

大

致

政

海原共的

怙 扑 112) 友普 久 城 作 典 刑 教 1-) 刑 势 钦 10 哉 金 訓 飲 作 典 开门 哉 师 1.排 流 作生 閩 刑 (3.3) + [1] 又行 告 Ji. Fra 出 1 ~1 刑 3 鞭 兴 作 肆 1130 旅 刑

外 刑 加

12

待 部

夫 墨

:: 首

元 八晋 1%

惡大

惠拉

£" 辟 省

伤 刑

1.

奔. E

校儿

罪之不可守行也流

宥五 X FZ.

刑

首

所 天

粤

剕

域 人

宫 而

大 典

調音 育

河湖/

家

示

也

小

人

17

紫陰 1327 比 賊 錢

向机 必適 不 冰 比 中 自念 在際井智 相 莼 松判推 婦 中華當 不為 我 西求 門 而 主 污 執 升 外 僧并前人,囊衣的,縣、既衣 前,人, 有 主 喻矣 約場 中 因, 而 人墙 瑶 過 強而 娇 宿何 捕じ

乔 比也 事使金選與槍件 姦臣傳 刑 皆 永 要 元 定 已上善惡法戒 於 調文經 劾張浚 王 滴 ---屋 貶歸 月吉 田丁 出 国 州 目 42 宅諭制 死 長左 與 、秦梢同 衙 除 學知 門 刑

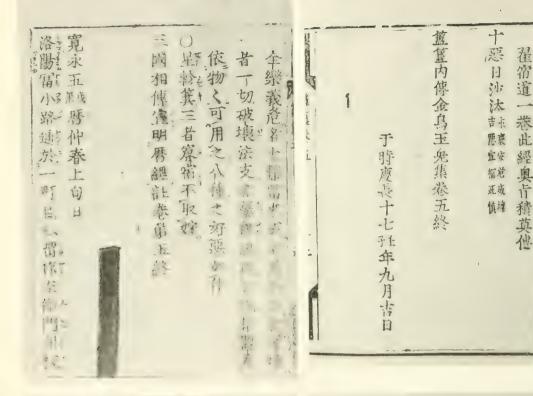
(洋 束)首签 刊中和元 覧 更

料

消,

(11) 安) 1.0 方體應均折 0-=

387 (田 安) Mas (;; ". 三一二 刊年元永寬 管 要 目 二



明祖子 兙 11. 100 幹 n. -}0 . 5} 1 . 5 100 1 後 1,× · [7 福 1: H. 1 2 111. 手江 1 300 133 損 11 13 1 38. .; 人 11 1

電 1) () 永 随 足 依 首 右 ブ 相 黔 物 就 13 LE 英三 博宣 切 表 命 > 111 潤 卷 破 来 [0] 17.7 明曆 者家宿 用 壞 胎 月 之 法 = 七 . [難 宿 經 支 一方で 不 種 者 松 栄 旬 3) 卷 薩 來 右 取 日 * 第 黎昌 紫 前 成 好 悲 君 姒 起 -12 水流 结 加 親 萬 乗 岩 物 晋 件 肥 啟 7 料温 · 17 京范 JI. 17: 表 九: 37-

安) 2 (田)

1

' · /i 1: "I

[..]

12

川こけ

估

15

-17.

為 13

14.

ごか

37

1,

J.

11/1 江

12 15

1/2 4

1

1, +

2 . . 1 - 2

34

11

石

康

加

件

生

3

易

事

北

寬永

バ

(

2

ないいとと

五一二

(原久)記刊刊年七十县慶 集鬼玉鳥金傳內基蓋 四一二

388 (原 气) 記刊 數花梅易心生先節康邵 セーニ 387 (波阿) 211 刊年六永寬

六一二 μi).

王 弘 之風 虎転 榮老當官于觀 秋之得濟榮老顧 游父七日公徒 頭 題 如故 献 市 之智 為春潮 應 神皆黄原直書常 物 又 以端硯 詩 不 州能 中 带 H 必舊宝 猧 夜 那 雨 怜幽 渡觀 献 沂 卧 党 有 之風愈作又以宣包 念 來急門 单 H 惟 物 VI 七日風作不得 有魯直 問 王 此 過生 塵尾 IL 渡 神 無 L 極壓 44 即 有黄 書扇 攻 献 常 得 Á

冷 察元度於黄 度不 射其 於此 身 所視話卷之十終 141 異 起矣至高朝 以 州万人時仰中五 度生没高 為誕个乃信然 事他言 餘 枕 i 孙 变完 而没尤度生 次 到间 格呈 1/1/ 僧 於下京標 子等 露士大二、 体 1/2 八 193 馬 $\{i\}_i$ 消板 状 311 ni)

分之 一、即此 古今事實 天消 後即 高 紹行今 A. W. 前元氣 老子 太 極 太極 柯 中 - ,'' 牙鴻 之 也、泥 湖 也 未有天 入 元 無 劢 像 生二 始 元 種 的 於之一 滋 地 旣 也 一、世太 店 建 也易致 剪三 分的 之 礼件 時 小 有 五 泥 初 太儿太 脖 太 池 视 紀太 地以 極 太) 如 也 抱 極 雞 北 恋 13 極 35 3. 天 元 海 和2 那年 新山 洞 清 地 生 作

似不 航臨深程薄處做將 朱文公告陳回 林 刊 著也此 好正花 鹤 十於 七一切東征 伊 開 林 7 胡 雄 胶 fk 中的 總美功被千萬世別不 馬夫馬 三年赤為儿又後端は愛佐 父日真正大英雄人 於回 卷之 理 父 出来若是氣 が好背間 可謂 頂門 經 一,能 .7. FR 去多 不好 部 43, 景論 從 繊矣 受却 歌 1 1351 院 1 . . di. 711 ill:

(堂簣成)

混刊

首签 :

刊年十二永寬 話 夜 齋 冷 八一二

ill (L 大: 1 7 月 1-北京市 质 洪光 11 日間 元 太 補 in 俊,子 註 清 求 7: 1/2 シン 龙 10 .11

而特前 疾 寝, 江 候疾 浦 煩疾 击 元 酒學来 補 求 國 長 内認 皇店 俱

裴楷 停 流流 問 消 以危 東 MI 12 通 許安高潔 称 AN. 37 林 199 压一 初 厅门 王. 手填公山

口鴉拍野星 免之心人心 兴蓝座 11 7 北比 . 1 14. 4 12° 24 張 1 k k} j : in 1 1. 1. 1 of 1, 1 人以方河町 白 九年 前 月 有 1) 1 4 9 4 †o^T 47 11 11 11 11 11

(木 高) 首卷中 预(口)

II]

(田) 安) 首卷中 種(イ) 本行九 求蒙注補

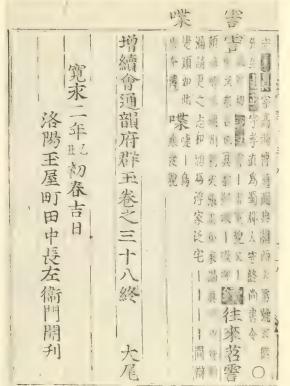
同三二二

389 (岡國帝) 当台 1:11

1: 四二二 个长

(A) 许3中 标行四十





多喜 近,新 也豪 愕 而 之 汝 明 部 日 4 前 期 猃 君 到 兴蜀 行っ 帙名之 H 甚 ME 墨氏 必 刊 巨 子序 山山 誦 得 燭 於 給 族 がが 許 日 若 [] 剪 A 中 垩 业 11 賢之大 愈 E 其 何 次 . 4 所 取 100 旅 有 :47 计 共 經 反 11 日日 11 大 列 ध्या 学載 1; 原 神 語 其 tlt 3+ 事 文 Z * 心明行 11 则 7 六 长 気 於 儿 说 木 2.1 15 T. 然 17.7 2 13 17 泉 保護 1. 7 3 12 1.1

IF. 年元 新語句 力 水 士二 心學 余余|强级 之氏 市 會録 解卷之 災素 人黄巾绣 甲申為潮 也善文於所居 **密胡子** 澹朔 山陽 上 襖 州 聖佑宗吉著 為音 锦古 泊風 廣閩 白 友越 也以 這 訂 布之 問問 自 政地 시시 司令

(四 安) 即日 全 大 族 氏 六二二

話餘燈剪編新

八二二

390 (E

大)

首合

389 (圖內帝) 加刊 王 群 府 韻 五二二

八二

(木 高) 首符 解句話新燈剪 七二二



聚圖 ゲー北 輕易 天 六性人 勃真外散騎侍 附 音 1. If. 增 当土沿 v - -廣 人并入区 為著天亦大人大人 古 部 注 千字文 周 11 大學官留地以大學官留地以大學官留地以大學官留地以大學官 與 嗣 上 次 生天二形陽 設 九淡粉二 1 屯天林 功

武仙 梓闢 五年 末城 十字文下之終 平山車首 結備 文大 水丹 土市 共温 帝夫 伯琳 養書 一千 逐發 乃亦 七車 百字 移翻 命無 次中 五文 向意 周人的見十行丹得 弘次!不七年至 陽此 嗣學得千被丹避交 J. 长子宋周群上 市之文藏其大 B 得帝 沿兩 皇書千子 十治 大亂 香篋 宇帝 卜版 刘中,文爱 文十九失私野在不 六其 兼治 車點 寸次 位天 中其 中報 空下 路手 學他一片 等等 長日下寸 电被

(末台) 七等 本部刊無

同〇三二

[1]

(木高) 末卷 刊年三十長慶 文字千注古 九二二

\$90 (III 宏) 首签 刊中永寬和元

===

日出上子です

(田 安) 記刊 刊年三和元

同 一三二

八 五





近河、 12 A 1 经 4 常, 道謂 图 31 道第一 出 书 7 7 如 之 道 街 1 見之未言與 小 安 .E 兴 石一間 出海本 石石 道他 虚 7 民 内華 桶 合 世 一道,点 為天 非 地 熱心 天 常 地,於 子之 罪 道 本者 义 公公 天 名 也非自 未分 ini 拉 地 it. 也 可 il. 01 冷的 名 道 然 "当"以 12: 谷上 然不 有名 當一大 12 計りない 五百 いり中文 生 力。 进之 句 有. 無兵 द्रा

弘 初 江王 p 分 立 而 ملاء -7n. 旨 别 班 3-為 汉 自 宋 かち 然 乖 高 次 字各 此 妙 第 分 子 浩 外 為 也 意 同 如 口 有 篇 義 亦 名 訓 此 特 周 意 雜 内 隱 發 不 無 而 字子 義 箱 州 篇 酒 題 四 彼 属 北 七 此 則 部 而 水 之 文 外 休 無 即 寓 放 齊 生 異 tŁ 금 為 言 其 此 之 篇 書 陳 重山山 + 者 雅 林 外 首 也 陽 回 五 而 為 后言三 蒙 雅 後 ihi 而 所 雜篇 名之 是 為 甞 客 縣 在 31/ + H 之 天 戰 當 為 凶 书 希 **尤**精 君子 F 篇 通 路 名 國 مد 共 則 14.

(洋東) 首签本行七義日齋屬子莊 四三二

390 (骨簣成) 首签 義口齋廳子列 三三二

391 (堂養成) 首条 經 子 老 六三二 (四 平) 育 本行士義 日齋 陰子 雅 五三二

1/1 11/2 It L .]2 - 1 1: 7.1. 2.8 m 111 . 1 125 90 31: 711 711 4. 12 -7" -17" 11.1 . ;-311 .12 北之竹書之大 117 114 清 13 133 17: Lj m 11: 11 3 齊 以 非 名 常 同 林 名 其 謂 一首指 1 如外 無 之 玄 游 名 严 .1 N -心验 J.E. 其

以於 2 道 棚,有 it. 义 12] , [11. 名 消 属 衆 傲, 萬 1: 亦 iji 於 山、沙 12 2) 福 之 > , EF1 茂 ili : , 1 母治 名 11.50 S 1 -32-本, 107 F1 33 属 !拼 不 名 战 福 松 并 而 亦 言 2 撰; 37/3 常 大 觀 雜 名, 名 林 首 同, 英 妙 119 名 常 希 11-2 天 通 玄、玄、玄 有 地 於 北

新小 清帝不大之 杜上等八八分子 刊 16 上一批 自者法人行 Fi 门 17 因 Vi 等原風 山中等中 DI 雲與器是所溟 李 弘宇 - 11 1 1 1 1 1、治疗外别 成了。 16 青年中共 -- "一花」で大くす

1. L 有義 涉大 變可 道 句 不禮 有古 前子 细道 [1] 可者 111 言心 道 消 易可 会 以不 智具 有名 非 [II] 爲門 仁则 法法 沿 道 邻 多水 義有 新北 道 31-1 禮變 秋馬 二共 名 第 有智 花艺 等有 Tij 本自 1 5 公 71 可衣 名不 者以 計 此当 則可 不鸣 常 11. 爲秋 樂道 仁道 者不 小本 之间. 不可 ・労ネ 3.3 可名 以名 部語 小利 冰崩 為無 也等

(堂箦成) 首卷 本行八 同 **八三二** (闖國帝) 首卷 本行九 義 口齋 屬 子 老 七三二

392 (堂養成) 首卷 集文生先黎昌 〇四二 391 (洋東) 首卷 本行七 同 九三二

蚁壮學佛其之 有 朱 且斯者 7 集 白 集之 可 京 記 語 疑 周 意 隆 元 大门 車位 時 不 粉 的 故 則 بالر 口 剞 快 胎校 好 後能 矣 殿 活 出 人焉 别 F 不 波 涯 少、 道 扩 国 也 西品 130 傳復 其 又願奉

租罪 皇 H 4) 牌 一宗巴 早 帝 調氏 部 大路 海山 殷纖 雨 曆 詩 革力 古 第 元 調 和 11 手 民 年 夜 帝 五 李心 日 凡 成 六 及 + 凶 -年 命 沫 1 Fi. 首 東劉水 下不

丰 苦 桩 市 载. 述 校正 念 秋恨 王 来 两 煙 狀 何 17. __ 几别千角 元集註分頑東坡先生詩 炎熱 首 詩 特 虚陵頂溪 及 風詩 木 首 十開 蚜; 蓝 脚 蛇 道 月秋 劉 鸣 凄 蟾儿 展 蜂原我 漂 古斯 林 翁 又 鄉的 批 参之 苦 作为人 沙道:我蜂 葉 祖有皆 里 潭龍下鳴 投 年, 岩苦

月六 . 朝而過 、广矣, 監吏 日 ě, 妈引任者 11.4.次 增 佐雅川魏候市公野 高山縣 前 東生中原 丁八日縣 漫 供着上中原造 附十 幸 無萬 肯 謀智 其在之 尽門 掘 门都後車 加 如姚麻將秦時受 文 人門 教事 例 曾 馬面看被門庭 人兵部趙丙之 清节 所在挂於高 和 さた 的原 亚山 1 送 在端平公 族 左胡 子有 消乱 中 部即具 TE.

392 (田 安)

語刊·首签

刊校年四和元 集 文 氏 白 一四二

(木 高) 首卷中 註 詩 曾 胡 二四二



为公 像 不 用于 波 食 小 四言)=] 山山 清 才 ורוזו 11:0 中 摆

十八原領公然 沙木 英 1: 3 食 中 1132 沙目 以 港 衣 宿 13/1 政 心区, 1/1: 177. 自 無 PD 福 : /2 打汽 11 情 想 大 4-111 程;不 松。 313. HIE 李 有户口 前 1] 冷 in ili 洛 15 安 皇 右 茶 在 113 水 13 污沒 不证 信 相 版 南 忧 沙沙 11-稍 久 江 1113 犯 迎 沙影 依

- 11 -

7

バス 疵 開 孙 元 有 中 企 里 是 700 屑 泰 村及 月 相 以 整 六 歌 内 者: 衣: 階 傅 RP 政 TIE. 성 强 液 # 無 一 自 29 15 心。 412 74.75 忍 海 1]2 + 先 大 为了 11-2 無 沙 7: 事 松 雏 始 其 沙是 変 艺 間 17 樂 有 方に 斯 獻 從 这 於 宗 時 淮 12 浴 每 家 右 在 + 丞 3. 店 竹 17 7 村 元 月 语 汉 屯

.12

八九

四点版的 (11) 傳歌恨長 N' B **林红、第** [1] 五四二 发) 首答 卡斯二節 四四二 395 (本高 作颀四第 本质大帝 (111) (法) 六四二 4 3 [,] 七四二 首等 [1]

山 其「花文教"江 谷 与俸 根題 烈之 極 期日にう 汽云 集注 謂景 接做 佳 胤占 言。手 詩為楊真吳其 晋其礼 託加二 首 律礼 園肉 傲胖 中老 _ L 東特 根 九光 部 山茂 柏牡 排 出意 子門梅有 恋 步步 放引 地 詩書道、「 置物 道夢 昨日 云掛 孤文 詩得 高者 晓北 亦生生涯 黄 東流 遠渚何七 果义 竹台 篇古 战坞 庭 宋 悠之中有 结! 青清 報以 点人 山沟 ·易句 悠性 之詩 根云 題並場強止不太科 谷字 首 自然消 中以 實許 白舟 中战

. (
性得久要為人制烈對小草有遠志相依在平生醫和青松出澗縣十里開風聲上有百及緣下有千歲姿自	可口排置官道修但使本根在棄指果何傷坐成現煙前青已黃得升桃李盤以淺初見雖終然不等忌咬蜜水靈空自香古來和縣質此物外廟鄉歲月	江梅盲住實託根桃率場挑字於不言朝露借恩光孤山谷詩集卷第一



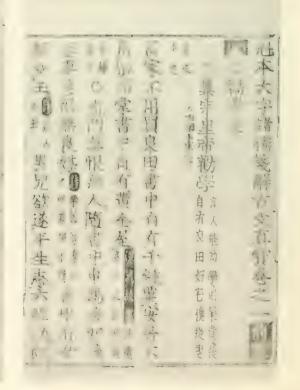
(原久) 首卷 本種三第 同 九四二 (田安)首卷 本字大行八 注 集 詩 谷 山 八四二

394(明陽) 首卷 刊門衛助 本注無 同 一五二 (洋東) 首等 本種四第 同 〇五二



所不云 1年八八日は居然道 111 大子者高塩子 一 上喜戲語子 是一品 1. 子其 なった 不為虐父記 復 月 之哲者未 光門州 旬 别無勢 中中 星町 子 一沿 1-1 -5-利用語 循 -11:15 iii 1.11 13 7 不够 1 1

九



(洋東) 旭刊 刊年六永寬 同 三五二 (岡府都京) 首卷 刊中元慶 註略集月風湖江 二五二

华 諸 儒 美能 マン 五事實卷 後

生

魁本

大

能 類

大 消蔵 裁最 其藍 碎古 沙聖 去直 守人 曲中 位こ 可有 之大 示省 藝寶 醫刀:蓋司 戒上 自位 大 唐凡 太高 宁康 松光 血主

是明時

おき直

張 題古

福 福吉 推洪 遊記 作惟-弘萍

作

村

管

美思

1 7:

普

天

處王公こ

性俯祭仰

惟

辟

作

福

推新衛衛

其所永具繁陳

其所

倡 さ

是效恐懼之

14.

件之指轉放量

玩專地

子所忽禍生

3

來古往

件

仰

觀

惟

辟

晋夫 作 1 慶 F 2

事 好 旁 吾 歌甚乃自作 三城 后 上 也詩愛 碩 的四 视 其何 則而 秋風 邓后上 市 乘马 短、其、於 京於然中 诗縣 料 騷縣 養家此 之聲而為 F

一章 尾 漢

為

臣

飲於上

炭

南水

貢其

其所沿

北

故恐懼之

實

主

手公之上

行幸河県

祠

流

思本大字諸儒美解古文真實卷之一

典

; E

土貢其所求具寮陳

其

江

-13

是故

恐帽

若實難

為為

小君

指品

主

辭類

护士 今來 本大字諸儒養解古事其實 · 職就者 日 九中書 ルル 上人 際類 古 华 俯然 护 觀 惟 以"空 代 作門 木稿 32 矿矿 中車 水品 一歲 马人 徐

深处 九年

胜 筬類 本大字諸儒箋新古文真質巻之五 H 异寶蕊 守人 点者難宜 第沙方日 我上自的 大智儿 大馬 後得 . .

(洋東) 音答 本打門第 [i] 七五二 395 (木高) 首参 本種三第 集後寶真文古 六五二

396 (堂嘉靜) 首卷 本種六第

九五二 [i]

(電嘉靜)

43 本種五第

八五二 ni)

1 1 4 6.0

th

1.1-र्भ र CE 1-1 -----15 菜 * · · · Ji. him 答 愿 一 1115 些 华 無 怖 北 成 六 共 一种 炭 1 莊 連 130

一二兵衛 開校元和四歲獨月日萬江七十七充翁妙安尉治二件李秋吉辰

指源以返之或於重從願許名土苴污壞出卷和天下某城西縣白集衛馬它日有披閣者必曰不與門者必曰不數之間所有風物必詳無遭與之間所有風物必詳無遭難猶句可觀者樂等耶吁堪以供納斯久斯冬風嘯日緒

嘉府 謂似 謂似 謂似 謂似 第八十二五三五日 新に七十七 充消体安 弘冶二 臂李邦吉展

衛衛際以治之禁故珍章從母畜多上直防外出養名大下具城西縣向東出籍為大下具城西縣向遺傷禁定目有披閱者以回集實之問所有風物吟試無經衛衛仍可顧者襲春郎吁谷以往朝斯夕斯野風擊

(明 陽) 首卷 解 抄 聯 百 〇六二 (木高) 紀刊 刊年元永寶 何 聯 西 城 二六二

第個語》以次之門公安軍後國許多土面的公司事項大下其成門即何河獨其它日有故間等处則事或之間所有風物等可以不為其為可以不知所有風物等。等數公司的一個者與所有人則以其其所以 然事然同可關者或其其所則 公以往期所可以對於所以 令以往期所必許明之則。

(木高) 記刊 刊年四和元 初 聯 西 城 一六二 306 (大北東) 記刊 刊年五永寛 同 三六二

九日かののままる	もろのしらする	さいののう大きて べん	古いのうたら	まるののじたろ	土田との一れたいろ	一日とは、めい水をしくとのから	十日一日十五十五十五元	十日かののう木をひへ	かかのかれたっかと	ハーつちののと大とろこままして	七つてのしまたとうせつた	(日のので、エスの)な	1 + 15°	はいいのうままいな	三日うのしか木の子	ことうつのじゃり	一三八八十七十五十五十十五十五十五十五十五十五十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	正八大 麦	公月大	· 三月大三月小	マストシュックへかこ		5	なたたちできが
からし マロ	松子子子	USTAR LES	天一あ三かりまへのから	サー ていつろきら まっきっ 日	大かといりよううりょうかとう	ちょうしょう	0623	1	そいいと 大丁 ないかい	一年まます。 大なころう	秋ですってかれて日上に	100 A	確大点 ここぞうり	林二天又一三宝艺	きょうていたかのとくとであるしかっ	B 11.60	Maria Commence of the Commence	土、くうでするふう	具月小九月小十月 大十月小三日子	月小四月文五月小百天七日小	べらこいないろ けっぱいまいます	されなかいたといろい	r	きがくかける・大三さの三

七日ろの「のい大きむ」	いきい いっかち	ていまった コラ 全のまで	ショナン カダ土 ち	をわり、至土ろ	立しるののとなべ?	三日ろのしら木ない	こういく大ろろ	一日のうし、シラ老一大震	
からしてするう	林 - 一分ででい日 フィー	オーラ	三からのかり	のまろう人へ風	するです すいとす	キョンラックラういう	都了一天文···自	大きいから	

399 (田 安)

日曆名假平年几段既



压

(田 安)

源排

表葉八二第

盛 常 見 伏 七六二

401 (島 大) 表葉二節

仲 滿 八六二

T 也 惠 程十しトモ流ノ来ハ大何ト成テフライカタ無しハガスり故 太 物、始ハ少シナレトモ後ニハ大二成り盤態ト云へハ物 宿於春秋 焼狼糞 蓝鹇 挥不粉掛 野リラマス 4-2 与府日很冀外 根産ラ焼い事 畑 賢思鈔 為煙 家 印之 語日江 不可以沙 山谷日恨江始監鵬入楚乃無広トアリ 史記 以定諸 的花谷 松出沿 火五三指产 ニギナリ 火用之相 水ノ始出源八落、震、済九 山 ñ. 波上中 雖風不 代時 非 不 斜 大 源 文 P 诗 一芒 ノコ 方二達マン為 次盤寫 原注 I 11-夏 三 有

死云於

いいかい

作此

まがい

٦٠.

成之

月用之間

一世一静亦不而之

何是此此監

尊早方可勤海 天文十有二龍

集癸卯冬

+

月

1

的

江

州

住旧統三休之

ご大

平正其字以未表山

恋

4715

襄 成之 易 恭之大例 フマ 學也 日用之 門子 111 方 大 可勤旃 价 个 衙門作此 一動一静亦不顧之何足見 JE 其字誤者泰 古者 水 14 其 毫雖然 走 24 高 北 如 !]

天文十有二

能集癸卯冬十一月上

旬

江

州住伯乾三代之

変長十二

南武丁

夫罪仲夏如众珠山

於解德堂以卷三正本刊打

ノ始ノ事ソ

然有テ世にタハサアトン見へダー グル

爰二 二州 尹武藏守二補任,執事職ノデ 二不建心力八氏族王是 人タナツケ諸 お君ラ円奉輔 似 細河右馬順 **科**9 タリト関ハケル問則天下 不馬頭自內阁上洛 事ノ沙汰ノ途 佐、村 頼之其比仍及ノ以版プラテ教力亡 ラ連 議同極二父いこれ八右馬面 轍 少山非代於東直應 儿好玩人 様で 管領職二令名御 彼命ラ不打ン中 はかった 斯之 、許明 94]

4

太平記於第四 太平宫川 M

ノ代二成テ目

山力・

-

4

世

シンンろう

慶是 ナーデー 河 5 SX

香花:

(1)

Į.

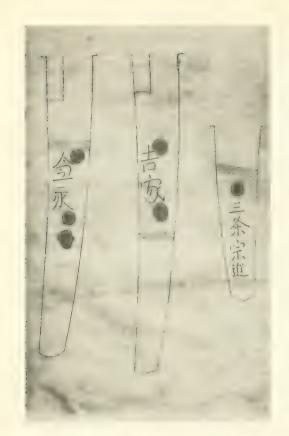
(井 松)

思問。首為

11; 民年二十長堂 大 0七二

變於十四東成門

力行



カカカはあくとし一次力い 文武天皇御宇 大實以 天國 もいとであまくとをありいて多 さえたいをみれたへあやす後の らめろうゆもはまやりやかしま する後くなるとにたますこし でくれるもくおきる流りれり り一切さなはしまやうから死

守家と二重の丁子みろう おと他のさりいの念るもとしるいめしき よこへゆくきろいあり 金ものいまさのますうしょうから 八大きつさに極られるるかできる 大きやくこ え重ハ十二神

もはしかきるし やうによさるは書物とうつしてくれには うりとすせともも図のふせいいけき いりそのならこれよりてはるきのと んとつりてとろよ国くの被信をもいよ えてことをのた変とをかうこと--よく そぎ同さくといつれたしていまのもとと 一へらいはいるまで上すへとい

404 (III 安)

Λ L

本学大行八

406 (田 15 五七二 Π

安之就是所面山西本地南江子

度長小六年了 るのはかの

かゆさへにうかめず後いす うやすーてはきつきとくゆも 一部一の作文的代をある一色 するへいとのうしまてきる 慶長十二 三月日 思危 巧り 級排行世目王玄剛的之口問卷卷及為知明可 玄瀬印天下之第八多世写以以所假字為八字· 書都和到了教記い 被而不產前題級不晚今晚章改可四仍假客令二 面患大过敏感息不多面問自有力伝大下之人 而起立本等之標準至分矣盖以重被看緣完高程 之至乃面查民己對之書六德亦風見住有之紀行 心於前日於云平也もい名之日本奉代於丁 きず以前に随れいはない

とけらせくれっろとなるしかしまれぬきも 去る一思していまいは大の風しろけたしあっ 自场付金人 うけなりついないをいくけくるかとり きんけっていているでするゆりとおうれけっ 塩あっては幸いとくまかのりおんれのでやう 鬼"中 六年三月十八月公衛電 いきつま はを気行いかんののあり三日をは へがずりももな

404 (圖國帝) 末卷上 版再 記紛 解(イ) 七七二 407 (田安) 記刊刊与六十1.度 潜路介占图本 六七二

宝之与

- -

公在巴西斯

動為と統在書配月而己 之獨多的為上下的都不是動的之情 光与打然を打接一选大电文图畫等中 不同至~的令以天福年 形被為孫女也可 仔勢物語彭列熱余雪勘接野系拍英 门一年之與書名好物禮之根源在人人说 廣是戊申村夏上海

ほかりきぬとかいきたりりれ 男のきうわりありりさぬろいうときまて うなうまたかろうかもところかりで でくろけれていれまいるりるち なわからかしするちにくろいでりした ろうりもとりりこのたとかいまれる アなりあうのさとにいてなあめいとなか 京りいろのなるし おとうのかりょうして、かろろ 一はられきてるうろ

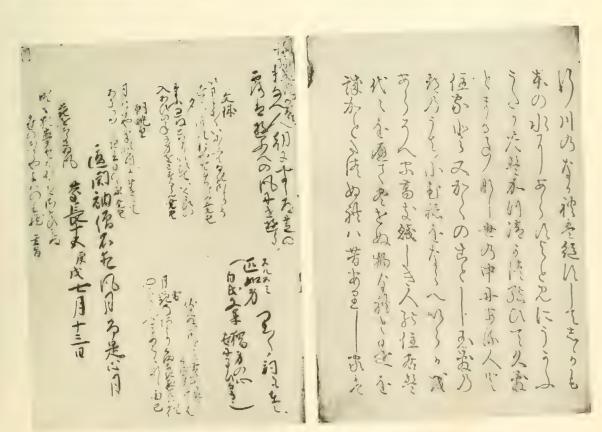
心路川潭

からいっというちろりろります られてあすこれといとくろうろしろ 多を年成へてよりいわっちろうな きっせつとうといるらせのはろくろと のいてきつわけるを世のきとしめりる あらずるしてからまる えらうりるといっといろうころはそみ えるとなられりらいらは明りりい すいくろにうちもあるん



同(四)

在粉房首相老人所信之作品仍号之后粉房首相老人所信之作品仍号之后参考去海 新利人时作品等



442 (大理文京東) 語刊•首签 種二第本帳鹺 抄即肖語物勢伊 〇八二

おころうるが眠いましてるある」てまるなのうらおれなけるとぬりられるではなりのではなりもはってものできてまれるののあれるとなってできいたくまではませんではなってできいたくまではないましてもできてきではなってできいたくまではましたとうというできてきないとうというできてきない。そうろれかよってもいきてきないでするとうというできない。そうろれかよってあるしまいしょうというできない。



446 (川 安)

首祭·紙表

本邮献

11;

1" =A

448 (洋東) 首も 「二第本戦略 草 然 徒 四八二 443 (電

443 (堂簽成) 首卷 本峨嵯 鏡 小 氏 源 三八二



るしたもつ見さいのである ション次てかし き被的高初の 起る以及思い点都、養力をい あるらのあいらしまないいん 八人 子 新是之物和江日 は適の言う神色して、有金一に

氏在為禁意日向す行うちてい ばふきとすの代を橋の馬切像 家としては水の人ときれいい 文化の公ろろれなっかな人を うては我久しくれるいいしる をうてずくしこのはでとれて か後らんたい東國方乃不高人

1:

五八二

お務の言いなをとしからない

いてしき おそい九切れは回

我するられいすくれたういん

454 (木 音祭

(# 東)

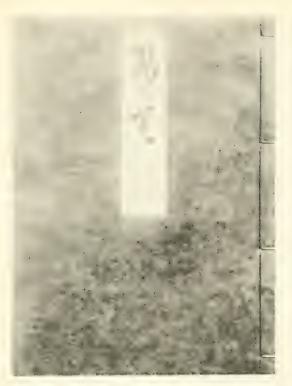
[..]

: /:

うる七一見ざりや火あな

又よよ次了なれい核的島砂係

行いいなめいられるのはこと



455 (田 安)

紙法

同力

(寮書岡) 首卷 年上第本帆响

八八二

11/

[..] 一九

457 0 0

3.3

日本党

[..]

Oit.

> (洋 東) 首卷 本曲六十三 (洋 東) 首卷 本種二第

回 三九二

ΙĬ

五九二

(川 安) 首卷 本曲十三 舞 世 久 二九二 (洋東) 首卷 種一第本螺蝣 首 一 人 百 四九二

小二行 求 日 先 也, 閱遺 法 16 遭 法 7-高人公治 135 東

貞

元

和

效

-5

4:

尔

月

12

於

神

be

時

=-1

11

キシ

恭

15

久

X

1

主

置

IF.

月

#

1

H

公

其

位功

ति हैं

E 11.

37 731

排 御

H. EA.

-2 91.

37 车

111 Lin

本

वि

爲 之

神

出

117

11

13

相

14

华 111

16,

ノ船

兵衛

朝油

7:

113

山坑

Pit.

玩。

三半二

在范

八川

子, 内玩十

1-

25

15

年 年 三

11

5: वो

李節

七沙.

京階

元

4=

月

B

松三位

播作中義

8 1

ノ三男母へ ツイへい古

思

1

田 シニ

人名

1:1

图

二、此流

人子が

17

兵衛情

1/2 4. 别

35

h.

1:

[1]

於 12

温

[1] 1.

イノ時

ノ平

17 4

天

本多

1.1

117 ניון 135

the

ラ

12 1

於後

116

流

To Line

THE STATE OF

T

17.

27

追

清す

一年後二

门

/1]

p.

徐 17 伊江

7:

H

[~

13

717

NB

(v).

門ノいい

+ to .

泊

4.7

jil 比比

比

7 證型 拉 流 石 中 聚 -j-務 平 · -3 3 1 31 車于 史 宗 不 ·紫: 尤 可 45 H.F. 六 判] 庞 JE 29 五 tit-万官位 郎 19 TIL 弱点 大納言大将人将 下十 加 尾張熟田 H 下二秋入後的川院 父父 也 洪ス是義兵ノがナー 其後壽 統頼戒經ラ 次第二异准八 特政の造ツ平家ノ付二 四歲治承四年八月十七日伊豆 佐源 依丁伊 宫 1172 西海」「遊進ノ平家っ追討へ [1] 類朝中不馬頭兼情 -4 朝力 建久元年 於 的 177 五例, 配流又于非 ノ院宣二依テ也本曾養仲ノ 175 位展ノ季 7: 道 四回一 法 伊豆 首 五十四 京三年三 [0] 京三 月 汝也 ノ目代 -6 千三川 麼守義朝, 月 日 右 求 國三於テ北 月二十 -1-御 矢杉 御元年 灰衛 此 手 等ノ賞 部 H 判 推住

母八唇張熟田ノ大官司歌位藤ノ李範女也求母元年 イハ右兵衛催ノ佐 化 -11= 四 111 九弘三年二至了子十八 位下 1] 災的支利 129 郎 求式目ハ朱代ノ遺 一卷也關東一代上云八高 一大麻政ラ遣ノ平家ノ侍三伊田國ノ 位 -父 -二歳ス後 航期 次 第 一并他 745 水 均 源 分 ン内心三差遣人 bâ 于 ス建火元年 111 順朝 朝少經了一百五 年八月 小いい 也遺 电左 ノ院宣三依 月十 1263 法上八 倉院治承四年三十起产北嚴院 一配 馬頭兼幡磨守義朝ノニ 同 一一月 JF. 流又于時右兵衛推 H 厂中, 東一代之於意天下 伊 当 77: 一目代次 四 年三月 15 水自 H 51: 対スル 13 阅二於丁北 1/2 111 先代ノ始 移判 17: 佐 1 作六 13 11 H

478 (木高) 首签 種(口)刊中元慶

[ii] 七九二 沃

119

(谷刈) 記刊 刊年七和元 抄目式永貞 六九二

1]

(岡國帝) 首等 種(口)

[ii] 九九二 (寮書圖) 首签 種(イ) 本行三十

1] 3/1

洲 -6 13 條

ΙĨ

八九二

5

11

貞求武目八元代ノ遺於也遺法上八翻水一代二於テ大 銀信審守衣朝了一男母八尾張韓田 人官的節 FF 川起于光殿能元弘三年一至下八十八朝了がテ一白五十 入後白用とノ張田、任丁中于曹夷仲司京部ノ賞申又 家食,給了月其後壽京二年三 月北七日正四位下二部 少平下之付 伊且為人目代年、於印官平人華隆司殊又是 每二月一七八伊豆爛二於千川條八內郎十八将城八小 1 17 李節久也求持九年二月十一日父ノ縁坐二後 下三有人几一在日本外一代上云八萬名院於水門 中也去八八台四十八八名立首權 信源賴朝地左馬頭 很義為ラ於海二差遣ノ平等ヲ追司人此等ノ貨三依不 弘在又于 切白真衛權在從五位下十四歲分永四) |}' |}' 位成プ न्य- वा

持統大智二子 崇城敦明下二 仁聖明 年三子 等德事時正了皇極同母弟齊明皇極東於舒明敬竟弘 皇極教竟至及 達到明二手 明越灌弘 城欽明丁二子 統天智二子 確應特多班孫者主人五次問罪於我子 新东 推占欽明中次 天成問明二子 公村里 龍丁 武はかれなり 即 抗學 海病監日 皇二二丁 7

寬永四年丁卯秋九月吉辰

一九衛門

まっけきがするるが、一ては株の後系ありまる場所をあれたるののでは、これであるが、一大地であいなどはひて年のでは、一大地であいはとはひとうてめらり一一さい、一大地であいはとはひとうではまるとうでは、まっけきがよるというないのであるというでは、親目

(四 次) 思刊 抄 私 原 職 —OE 478(堂養成) 首卷 本行二十 抄目式永貞 OOE

できってはパール事を人と客人と内害る きやく きんちゃうろんな~~まやくちんの あかしとりれますかでななきとてうしの えんあろうくるんるしまからま人のうとへ らてもら一名人のかろしせてをくるー りのつうつきれるうるかもろろすとそく くいろいいされてくるー りせてなくなしかつりゃうとちりことのんの 扱りめのどろうにかくなる一位大き成てう うせくなくから

あんのりこへらせて重なり

金とサーい事立人とお人を同業なくそことり

きべをおんちくいんなりつきやくちんれるい 直人要没なりくからつきる人のこへよせてなく あてかつりやうとようこをいいう らせてをくけら

られずらは気のるりきゃうくんれるとそく ・ないるようまです

砂とらのおりあいると重くてうし

のわりか

おりめのうくせらのまらへよがくとうなー 乃あへためてたるりに大きからてうしなりで

完不八件年

二条順紀于川 八月下旬

体時久氏ら開初

(III)

小差不大照不去

たとよえ

依西机心或化至し以此人 秘古物

2

五〇三

田) 安) 刊中元慶 集

れとうろへたのてえーに大きかてすーありいから

ちゃくくりのまずあるとをきててり-- けおりめ

ナナン うれくつ

のれりくせののきりくらせてとうなーンともてう

内てうしをおかってきんしりいまりるやうかして

一の大小ろしまれて

四〇三 禮路家武

きゃくうんとかうらんあろいろ人のすへらせてまや

きこしきやくちんのしていせておくか

ていつきとりとしい事を人とる人と同智する

を人きつくらんなりいもとうちちのきんのうとこ

しせてなくるしろくでもと大方うれられる

これのけっけきれますきでうくろんかのとそくない

480 (田 觚)

巴中永寬和元

安)

不可心他丹者也

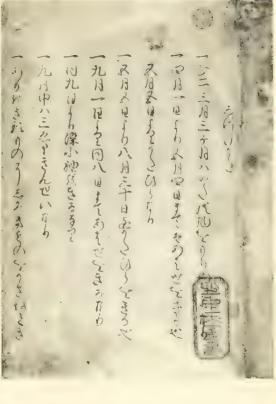
(11)

六〇三

七〇三

[11]

-O-L



ないをなともたがんけあさかりととうりてわかけ きいうんできっちますあるへろいわとりつと をあむとそとち歩にうくりとくでよ

阿波國文庫

寬永十四年一三月吉辰

女訓抄小路

あううんときでうますのるなりしいっとりつと をあっても成ちをくきくりとくをよ せいとれともだをんわめさきらばりちいてなやい 寬永十六年二月吉辰 女訓抄下於

·~ かうがれずろくら、う いてんや人としていってっないりかしんきつろか むをかっちいこやるだろうことちらえずるるし ぬまいとくかいをかんきったうしていまやしかり 男のくっとれているくどろくのいうじいみのりった きてはいをのうりれついではいくきてのいろうめ うりけずいあうつぞりにをひつとめがはととうし とだりのからにり那一つからうろとなしにいると かしってまりこやのかけれがついかは行ろいこは ふるとこう一切やうかりれるれるいでけなきひと と男人みらにはよりにといいますないまれないろ めってんるうくちううりうんだろうり 女訓抄奉 いぎらんらういいしかさてよ

九〇三 訓女

かけ 八〇三

482 (田

それるき人のでくてわらやうるならい以れい なししいあくとわりあまらと安然がとりか がその一死けい成なーへけけていからしつへ たちろかまりいてするさなしつらなもいさめ だりろうつうかりあるいいあきさむよくね ととうりんけい一致うそろいとし致いり やそのなれるのむ~~ろうちゃくげち おいれいかまとてるさとしんとというろう それ人のみとはるるなれ中にたかい、まけん おないにかしょうかられくろうなんでいます をなる一をつけてるまへだしいでもるこれ さい事とった打るとはをは幸るろう むますとうしてれて人っちりしぬいあっち おまき食物残らしかれまからういかし、あい らいせき他といいられよれ人のやかてかるか 人ハスなねりふからおりさかりか大切と うろうろんくうちなんぞうこくか

めっきてとろうしていいまいろう ちくは心はくしるとろうるしゃついまってい そかさとしたろいしてらいしくかさ残でらん 家がみさめるなっているるきっつびとはし 人も下次のときかというその名のとかたり ひろうれられふうとうくなけるほとよるら きれくことはりきからちなったれにようのく いろをかのかる世祖きかりからのすてむまい ひりしまなんちのうろけるのまりちゃい てくりろの一日けりてるとらり行きとと中 いらうくというあきとくくんつう くろんいかとわりまえでくろりのいても うきられいたとうかくのけきれいてよ くかけていけいまかくろううへつら ルー・ろい、でんまのあろうせがきらい ちょうさんなろのようのありからの しいりかりまりいいようかんひと まりろういのもとるのけらいきか めのとのきり 不忍文庫

481 (非 松) 482 (波

阿)

首卷 首卷

*****行 - 于 本行一十

 $[\alpha]$

同

のとのらうしこ

川州良馬之秀速城のが勝うれいあ上い仙洞雲町八 騎好 書卷第一序 ころし重みはと 馬上してが肉とあるな姿弱名を馬どりてわうい 夫八書之徳男かし成くりへとも一願之力力か 山台茶亦伯八野馬子家一て养的目的和錢高野日 放世的小馬介帝一第白馬八六——明智も安化と ~ テない山道也天然と志陀るる金のと於路十 花底16下八田名町此之民な了かって艺と教替 むり次门との遊松精に送てしりこまり独ちとは まして雪中に立れるあちようしてむるろ 世上ととるかり 放山師与之職他三ととくない 金属と姓の近れ りろともを見る

而已 也一多知信之的不可透起完然恐者で以之全古 太一郭七興之事者面於吳代之重宝云部之眼月

與事敢八代八至原圖沒至之写印治与之 仁人丁京之由智物石水上

道永六年の月上旬 佣板 洛馬 工作町 位及附去仍附身故

> 大学の一名ありた 一島とけてむる一男い月なかりそれからめい 回ゆかんかん八次とありて練る 物のほといたりまれる」いて回来でいむい れかやうでしめる时王はのたとからるめるる かりずまでも動のいとくならかがらへふ佛林 よりて立といといき役むりくんし とうろれ代ありると跳物をりきやりつゆるか 八九三をみり聞わられい天政すつるきないは 日ありなりやふし人物の事やろうれる天地 同ふたいなり難い対物ないるれいいん 方向鞠い月 せいんろう未勒い 一句からと

仙信物

とくというのから ろうのしいいりかうきなといさて食くたてへ らうらんならいるたまとうろうさてそのう え服の名の事をける人いすることすようと かりしとさろかくされどは立むうのみ下島す なりはうかしたないとうしおきてくるとなし ~~~~さけりととぬーろろへてきなしをい りのとりとめくりちをへしたとの常季のくれ 一下るすいかにくてもあるのきりきんかか

3.3 .

."1 A RM 117 1 門 五一三

七一三

一え服のをに おれのりさりもかてきまとひきうくてしてあ はかかものしかのます。ころかとれるうちの らうたろういおたからつかりってそれう そのとしとめくしちをつっちるい高季のくふ ~~かなくとかしそろむく直了一世成けく かしかり な業成すり一切さてる かりとうきろいますとはきるろのストくさか とりかかなら くさいはってとあきのありまんなるをのとと はゆなりれてれかずーと引みのなるとう かりさりあるが水といましてする ー下与いなよってもあかのこうきとある とめてもちたつうないあ季れれてりととき ういるいえる教をついろしているけっしい もちいとけるふくかろかといいうやうなんせ いはかーをはいしを含しばぬらという ういるすまなりをあるのみでますりへいける かんにますれる人いまさるいナツーをはられ ふかに素なすりときてってもしら お村 当りちけを人いまとるでするかり

ナムカギア 四八十七日大八七年五月二日

おお傳次すめい

治房の意為

于持貫求格参午六月福山

(原 久) 首卷 版(口) 本種三第

+-=

洋 東) 首卷 本種二第 抄 傳 仙 八一三

ろさいはうてもあきいちうきんなっそのか

といくもに起てするいち子のだなりともき

かわきらであて男本でひきて、てってるー不

こうかいるなをつかろうくろけう

484 (園國帝)

語識末卷

当た

にあなりれるれろう一き引みのあるその

もちいすけんかくがいっといいるうでんから

とどりてろいくをなり世版はくとりか心地

かる中水とはきるうのストます~~作る

版(イ)本種三第

同〇二三

え版のをいましそのも人いまとこですりる

かる故養数すくしかさて、そへし

なとどかしてわいてきなり世域けくとりか とってしられてしてい高季のうるかりとも 草いんすてとあされちうまんうそのなも のわさらかかてきなともきてつくってるート きろよらすまとは三るるのスト草りりり るりいえるましる うってそのうころ うかなをぬすとしせきてくてつしらう いたのまりうれも人いうことすりちる

はべなられるれの事一さがみのあるるのと - 411 / da

京云 名字四月八日 大京七年五月二日 同九年公 月以六日 同八年九月女日 五五年了 ·日月十七月 四年九月十三日 七年几月十八 F 位灰卷人宝嗣 賞首座 地房で気 心是公田药 神れる多字 宜感燃采得 道筒就

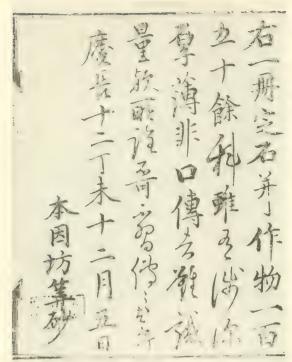
ナスカ としたとしいろまって 第一て草 よの凡人 税しえるとにま りるするという りるらけ一流を野山

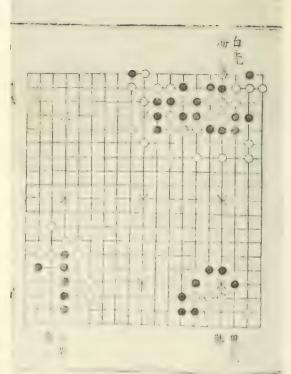
.2月 8年11末江 高) [11] __= (1) 1/2 Y₁ 木任国第

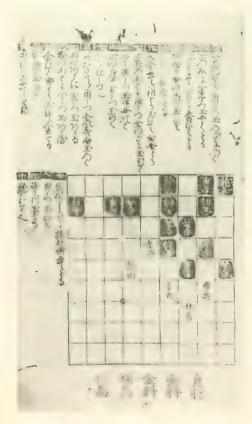
ï .

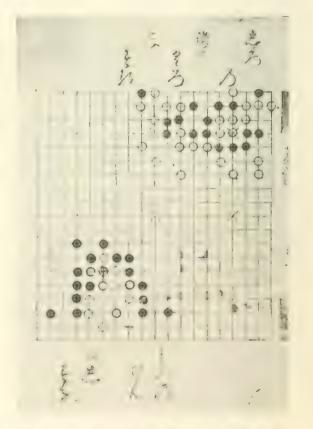
寬永栓原年 孟春音

方の傳次すめけ









(11 发)

(版整)語刊末签

111 ()

。"你可以怎么想

集 四二三

486 (未 . . .

法馬 戲 象 六二三

大 台 卡 卡洛默片

排 五二三

かからものかりかと

今い首何とりの前とりよ者がをくりをふう かしているかられていかりきてやしないか ながはらううのうやつことかんるりちゃりの あして行いとうけいあのみふついりと 女子のけてやしなくそうろーきずると 人がありってもかうちへる家へをちてきねめれ たりいけるちしすりしくかれるよ成時かつう からいきかりてい我的しタとうか といれき三するとといくいくうつとしって からくらてみらまでの中のうううちき 中るからいうは行的ん一すらあっちりの

うるらんとうましょうかんとうけっとい 人いもうけくまうてのおもれきかり ありしろてとうてそろとはくかけい みやはこもうんりいけっそうけの中 でう我のことうといるからけのける りってなりうれをみまけ三はちりある あるでするいいいかわれではちきわ さっていろはだるなん一すちあらなら おくでするとう、気なるうなれてきいか

一三十年がありうりくとはまなくのかよれりに ういということの一々からなるよう うくんこうあしていたいつれてくりめい 人なりときてうちゅですして人のヤーやう うろしてもちかとくしみなんでのかっと たのこととありてやりてくろうとのすと していたりはらっせうならとつとま あしないこととれりとふけぞくうめのなくの こういけらっとつかいとかってなかれ関から しかういいいけんりゃてあいくきってき

> (学篮成) 首签 本師二節

[n]

首签下 同

七二三

れてとなんりいろいそのかけれゆりますと

かあり けらいらるともちきのとい るからをかかすってけとうけてよう りまるいりーかけられをきかといるもの

いから行なんしまちありないのなーつって

ふえろけれずかれりもなるてきてねるる

なととするるでなろんいとうのくこうて

まてアろかけくつや いるころろれど

ゆうかきかりんやうきれることはいうし

中京町通二条

活板之

Ti.

でいるりそりものかとはまれるのからでいるりをからにまいがくうかまれるからないせれニーといるからにまれているといるかはありですがのからにまれているからといるからといるからです。まれるのからにまいがくうかあれているからです。

1 气 二 二 二 語 物 勢 伊 二三三 597 (蘇光) 首卷 版(中)本種四第 語物取竹 一三三

とはとろふいをもちのいをあるま

きか、こうでおい恐る小で小町へいな物観る かるもちなれるの也又称類都とて三位かりう と必然は的後は十七の初あり是と後頃とる と云公かりのきへのはと云西院か一向お風こ 伊州諸伊京母言でのは核の下かくみとれまく 野な体を形被と考する事 古注の说にい 一かい男女の物語とす好いにこちる男女 したすい しらり男公文会乃事 初ま

西北京商 九事と流ららの月之野男いんはある事を打做

化事と海とうふなを記るのんはあるましている

厚

なのがあきいうくいとく をるあれるこ 白ふ こうい男女の物院との行がれ二字を男女といっ ひーくすくし

伊が後伊い掛きてはは格の下のくからのまくで からできば作品地法と考するうのはにの流のい

こうの男々交きろうついっきり

物とてこれありてきるは本年は馬八都言小師 と古にといっ一歩りしすらかれるのかりる知順 用ってもするけるれているようなのかありられ

小町いいら悔むきえろといるとこか例れたる

ても言いいるけんちのみちのううかく

すべてなり里いぬるのからのからかりうかとい 小町ハム意は観るんがあているりそかられらる むって二板はりても心は季平以西以配名小山 と古はという一会りすちかにとめくりて知り

るろったりせいねるの人くのみちけっとうから おしてこれらりてきめたまをなるな都るか野 を古注という一会りすちかれるれかりみ知り 用いなりすらばりのからかみ十板のあめられ 出してきいし 持好法仲が掛めてれは福の下ろうとのすくは か町いから物型るつれがというりその例れなる 字の利かきくかくのこととなるはり一つのよ もうい男やろかろとに伊勢の二まるよとりか こうの男女文金のうりりまり

なからと次体がかたと考するうちにいえるし

れまと海とうゆは名な多のんはあるるできるは

問題抄卷第一

制) 首您 種(イ)本記刊無

こりい男女の助語では伊勢ノニまる男とという

伊弥清伊弥神草でのは核の下やくといのもく からなる以付祭祖後とちょうま 古酒八流山代

山

ーとうひーしろ男女交をつりくしまり

なの対わきいっくわらくとは家院り

用りてりゅつはりのくことの十七代打わりあき

五三三

509 (空質成) 八三三 七三三

おてというくめつきーあてなこうのかのか えってからぬむて又のとしろのきはうしたらし もなんのりきる えっていらのいてスカーの秋は一下は一分 てとろうくめるとしろてなとういかいから 七かんむりきる とわらけきいみかとはらんしくうけまろうる さが弘教殿のうくりはあつかのっまけきるか ますみはのはっているいわらわけのなんという とめわけきいえかというんしてされまちょう りるつきさせたりの多な ささつきゃをたびから あのうのいありぬするがとうかいと のおれてもてもなっつきっん ゆきめくりてもなくったすりん えるろんあとろなる うりりしま わらいきころのもれるのかしきと あいいのふむしぬくちびとしなって

1 iii

〇四三

(島大) 学さぜ(() 本行一上 語物和大 九三

510 (未高) 植(イ)本行二十里中和元

同二四三

(田安) 首卷 桶(八

同 一四三

するにろはりむいはいおかつかんなんところ、

するだろかりくいまるおりおろいなんとする

しいの風るけりして一神勢つるのかさばけまる。

うちの機能のうべる ゆかわいのとこうだっかい

わったきるのとれしぬいりしまと

えるしんないならうれしな

というけきにかってあるしてそれうとうか なてころくかとしいておこるいのいきゃ をおうをうでないであ みからわられるてみの年れのきほくしれる 七なんのわるる 備ありがくからうかいっとしていじゅん かいかでうこったっくかいりとしかられます みめて行りわらてよりがれかきたくしれぬし むらんわりきる とわらけをはか、ではいいしてされていりか これの数というへもしをあつかいまでけるい なーからうはいなそういの時のなんとする きっきられたるかいい あいいいかからいろうはいっなって ゆるめらわてもなくったらうん まつくらいかりいくりりはずしなくこ わらぶるとわいとれるなかできる様 ひかめられているとうかい!! アマーハンドれんようかりい

高

備おかせりめてからるかけるとしていいいるとなんむらそろくいるというないないないといったからないののでも

大小物語下於

人のもとにいるありひるやからて

ちも少けてかるをいかったいとりるの

うたかしそめれあさのけらるを

まけりしますりぬくはなりてついらんせぬりてからと思いいてろいきりのなりはなっている

らへたかばみますとありししかのはろし

城で七歩のそううしになってりちりとは

510 (師亨威) 首当 年(本

四四三 (原本)等 具(中)本行 等 原中位 : 高崎和 是 三四号

511 (堂嘉靜)首签 本行二十 刊中永寬 同

六四三

同

(Ji . t

15 s

とつわけきにかってきるんしてきれつとりとか

とさしんすれならかうした

るめつきらせないのであ

多いといいありぬそりらばでしなって

いろめくわてもなとってはいん

五四三

文徒弘徽なれり、りを吸力かのっまは打きる

りからきこかいをたしるのもしきま

まする後のはいはをわられる人なんとうる

される風なけり、とうを吸わるのうなければをく

りらはきとかいをたしぬめるときは

とうんすけらうかうた

まりる院のはいい後を行いが、水入がんとうる

でからり り

大奶物語下路、

寬永十六年二月吉辰

くんでかばみましくのでしているからして、これとと思いいてくるまり、神のりしまれーかねとく 神ならてりもりとろくれりとかりしまれーかねとく 神ならてりものとろくれりとかけらからいれやかとて ことのまのからありのからないであるとの

大的物語下路

寛永十六年一二月 吉辰

そうれこべろうときまかまりる一及かいとあれれかかあからるちみこうかりかのと一人から ~一切をはれかやけきうあしてあせきうめい でなるみとりときてとまうから、久依にくりう そとあはするけれるちろうしましたさいませいのいと かきみなもれいいてんかりならんとてふもよ むっきゅれてまったいるへけてきようし うあるらしようべうあかかれせし うべかものかいると

らりきらとなりいうていらんぎむちずかとみす

をからやりりなるとうとうとうををなるとのか うやるまんいやろいしていりはればあくろける

たつしとかりつくえばらてるしからりは部う

いまいしてためうってとえてくうを結ろいるの

いつとの御はかっかけっているとするしいい

なるからかいとかいととなるまれていめるとぬが

すくまてというさいかわかりたししめらわけと

ものすると~めろしたれがあったとうれるわ そうわりいはからけんははっくめけずしま

やいろうなくだけくなとしてあるっていりい もすきあしくなうくなりとなりとしてあくい てんがうしてくくうやわったとりったいけ やすりだしているしてくしゃてくらきった

えか九年 色友上旬 協陽二京查路查町 品社 今世 甲极

ゆきるれんはなりるけどうなからないよくわりい

えばれるはありもあるかないとあづしくなら

うのけっくもつけても人のちくれをうこう 下らうの東おからいましてやす~いあさゆかれ

けてうとなるの世のためしかもあわれておけ かくれなるものす おかしてくのそしまなもえ

本帆嵯傳 語物氏源

三五三

おうないるだるしかでうきしてすらりのうでで

ていいっちれるりらるといいっちり扱いしているい

中かかるん しからしてるものりかっとくい

おまつんなすりからえないまときかしいらりろ

ちやましてるそうしくちとりのまけりをしませき

てきんのしてのとうこうしろしみとをかつりて

..e 🗇

513 (田 安)

一きうつかといれずれの事内でのうちにあるかったけることの人などはは一ひをめかとっていれてきるをありのからにきさめられるとなりとにかったいとうしたりのあったとうにからなるといったとうのはなるといいとからのままりのようにあるからにとさめられるとうのからにとさめられるとうのとこうからになるといいとからのままりのからになるといいとからのなまからいとからかられているとうかけんしてくっつかけんというとうといっているとうからにあるといいとからられているというなったいとなってくっきの

513 (原 久)

首您各

种,所版黑

本記刊無刊中永賀

ありにて人のうしてとえてくりをあるとなる

なりかとなりわべきゆってなりこうで、変数な

すやきるんかとありしくるりのき物あくろかそ

でんこからからっといっているとうことという

さんかでしていかとうするとひついっちんつのと

このながら ほとくきょうでいろう 八方むれ

からいろるゆくくめできますねまだり

いかいでなんとくかれきいるそうしながらい

このいというというとはしめよりもまっていい

ないらいというないないないかいいこ

てもべれむとのとうこういぞとおいのと

語物氏源 四五三

514(洋東) 首卷 本行三十刊中永寬 同 六五三 (施鈴) 首卷 本行二十刊中和元 鏡小氏源 五五三

あずるヤーー本との内質を外には地によっているでは、一人とないのでは、まないといいでは、ないのではは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないので

7

514 (木高)

515 (III

1 5

所(口)

同

F

五三 (木高)首签種(イ)本行二十刊中永省

抄巴紹語物氏源 〇六三 514 (大北東) 首卷 種(ハコ 篇 小 氏 海 九五

校衣老第四之下於 みえけ、も からまるへんていいことが、ことは、たろなり、 うてきいわなってきてはましかは中かるけれなど やうつんであってきれてまればくろしひぬると うろして、なれしといては、大のまのはってり んないるわないするこというころかり

わるうういっからうはあの世のちきちかったこう

くうころのてうのから世記つなからの我の外りへやうの人でうからを話てまいたもあるしの名なと りてはいったこくといけまくかけからずれなと されあとなしのえわきするアダリへのなーさど いしりわかかわりないますいまするかり きるめかあるよれのけのハきの吹いみものわと いれかとうとおりにきまくまとめかからうけ となくおはえりいってすくろき中ろりけらのな やすいのはりはいちかもならぬはあれなからなり 被衣卷第一之上

えれれかか月げた

いっちんからもからねいますりるとくのだり ういとさいてうのからせれてあいたなるといるかと そなる一て一なれーをあて像氏のちれたううう かてはつちろうときいけきるは中のな中的なと とようこかしのえわとこい タハへいなーこと そろめかななよれのけの八重山吹いみるうりと るれかとうこれち、いきかくすていたかとうけ となくあいそりからてまくてかけり中心の気 やすいのちのほうわかとならぬけおれまたちなる かがろれれるというならぬむなりけきい

きころ

いたといえわときはイタリへのおーさと

となくあびみりっちてすくうきすり中的のな いれていろといういっていかとします

やすいの古りはすりからならればあれなかちなる かなりのきいなりめられるいはられぬからけせい

是生私们心

品物长线

被衣卷第一之上

でもはころしてもとうでするがなるからなるとうです。という一中的なってただり、参うけらうしたとうないるとうないまであるころだり、そのいま一人をよるないまではいるとうないまであるからないできるとうないまであるからないできるとうないまであるからないできるというできるというないできるというないのまでなれたらいあくてからいめるないできるというできるというないのまでなれたらいあくてからいめるないとうというないまであるからないまであるというできるというというないまでは、ようないるにはいったというというないまでは、ようないるというできるというというないまでは、ようないるというというない。

1.1

的形な利のまろすの国に格とめて同こ年つる

かちきり上

<u>=</u>]î.

まるといたりこ、りたろくからにまるというではから、 あけれるれんからく、りたろくないならくにはらくにはらくにはらくない

横条村巻書

519 (田安) 首卷 本種一第 抄 集 撰 三七三

518 (木高) 記刊 刊年六十六章 4 平中宮 二七日

500 月46 X 8 吸气 10 多 同 五七三 (空中) 3 10 10 10 10 10 10 10 四七日

小 記之又同 Dut 事り重う書と 耳 老 後人 忘郷ナー 317 12: X 17: (2)

添削給

13; -77 据 太 初十下終

排 幸得無住師之直等正本今 14-十月所視豈其拚乎勿敢疑也 樣行寸世尚矣本有隨略條 也 有前 不堪蘊載 役不知熟 於 均遂 进 也 項

元和二年六月吉日

名技能

r i 給 F 特 弘 安 六年中秋草甲 林 }-- + 33 ì.

争中 此 力が 愆 Lit. 河 产草之仍 リッカルテ書で 事看弘 前後其 安二 717 辛其優打器 老後ノなが 1-自殿高 1. 1, 12 14 275 1, 41 1/1 7

明幸料 1 7 14 丛 心其 于神 阿人 11 (i カロ 于出 H 住 浙 一向身 師之上 片 17 给 []] 1/2 J 1 信 去所可力承数 1 -遺 4-4 條

y.

1.

堪 1

ALL. 1.

有前

方2.

酒 -17

11-

Ti.

孙1

的

IE.

月节日

えんとしい ころろちの ぬくろなられがあるうしん ててる。国のとしい一八谷のとったでい よろうか られ夕回て かりつきて うるあそうろないい いっつ いろうっつくらい つれるとわらん こうない くるるなどのある内を行う 6 くさいき次すしいうまれあ しったいたりゃくをいいろ かしてう とつきか れとす 小小 ちろかってつゆく そくみげりいくま たちくなり 47 していい からましてなり をゆくとてかつこ ヤモもなる

りい えりてわられるいもほとくし ゆかろれず用うれ いったもうりれのをありかりやともから おってて いろようろものね そうときったたれていうるが 年と心的山かわられ ううかいとちいきくみゆういと いっかりをありを教でしいい ハとしい ~がれたらうちまのかう でるうしてかるも としろをゆくとてみ 力持行 少うりるだ? なりまり 十世へ出方 いろとていまり 037 くそちり 5 きんから

肥刊 刊年四和元 521 (田 安)

七七三 ξij

(大京) 記刊 刊年二和元 集石沙 六七三

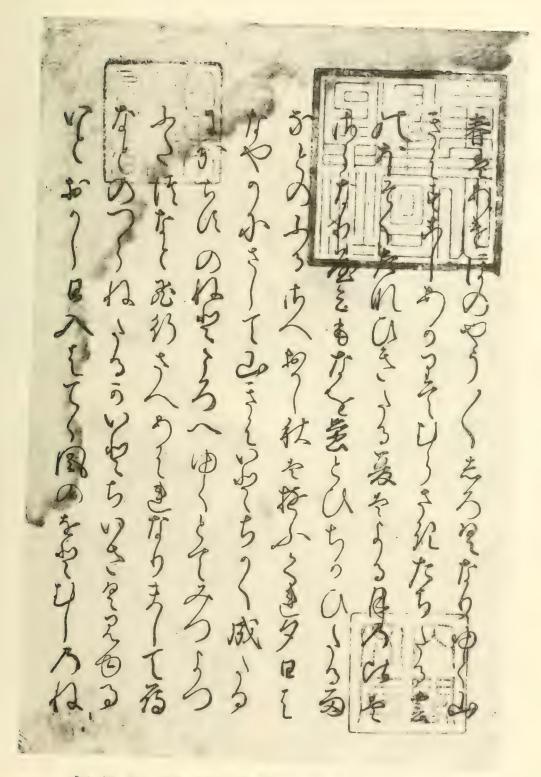
八七三

523 (木高)

许等

(宮神)首卷種(イ)本行二十 子草枕言納少清

15 17) 九七三 同



なるとのはうなうないとらいあくといれいと いがらはそろありてもいせるいるとうときお ~かきいゆかくれり 日はかやうりあしてい かけっりたぶをいているるとあるいことかとの さないいくのへい、一切けるとのりただいれい さくまぞりてわらなどいとのきノくし きていでちらくな利くろにかりその私とうたのく いかいとないからいというちいかいあんとんこと つらししろこ ひろうかからならまれかそそたか からぬきにしていまらめるなどにわるあくれ あけけいやうくも私を方村ゆくやはきる

きくきことでけいれるいちるくし いとうはそれありていいとのむき文面となるおこ ゆきのふりたれをりてるまでとろくにこそなとの では、ころいるろうかとりいあくないだいと あをているといるのかてはけるをいつまればの人 かりしいへそう ちいったからなとありいかいありまるないし てあたりがけのですりいるる名ののくやあきる さんいぞちらくるでするみかりをのおとうない - こいゆうなとり目はかやろうしろしてめ ないういいといりのいまるあめなとれいなりへか きろうりをよば月のあるいちんなるるとも こうにかちぞうまれかとこたか うないととけれれなといいと

万城 きっしなるてひろうたからろきれかそくたか そないのけかのでうくるるとるでゆくやはさん そろうつかろなと恋りりていりまうできし 方例てわらくゆらいそてゆけえものの欠れけのい やせろろとスラーてもいであひさとなっとってきむと の男かつうてくというまあもわりにちきないれ れり一日へくてくりないとししのあたとうゆき て唐なくのは一谷するういでちいめくといるいと きていてちのくるななかにうとの私とろへい ひまするなのいりは月のあるものしな利なこと してきとりてわられないだけらくし ちゃあきいちのいたまあめなとれつるあへれ あきはゆいくれなり目はかやろうの 1 3 00

いとちはそれられてもっとのひきがないなるかとれ ながらいらいくれ、少日はかりろうろりではかなならいちのいまるがあなとれつるはへに うっておいてゆるひりてでけぞとのの失れけれい ちくもともてわいめたいとつあくし そのそのけけのやりりくきるそのかゆくや南きい おして日へててくうなけなとひしろれなといると とてこのよれからなとれりりんなりきるです うていきちのくるでくろにかりもの私とうない 事がきいは小くれ、りははかりろうしの するしいうとてひろうれからするまれかそをいか て唇なとればり孫考ろがいをちいらく見いたい するかのもうい月のあるいちとなるること しいいかん

二九九

(P) [1]

三八三

ではわらわさりぬきるはいをのく 回惑がいなとあうのて核なるちんとる 不用也とて奥ふるなくて酒かとわらい かりき見るすいできして行を後か するの人が変えしてあずいとうつう くめれれぬのになるとうるかっちつ 大百かないらく打しりれるともえる きもつつくべう ふあしそのちらてのかりぬ いうしてきっけれわらてたけいれ

のようかれしのよれているかろろんをいのえ れつちりけれるとなっている あるれとこてといなるよかときるからし きるはかきりからこんやくちろうこうける として見るがはったいころのかとうとになる とずにめいき酒の本であらりとかっているか いりるであられたのでれかかけり いってきけっかりてゆりてからしき

走三子兵都向讀情陽以作件科 復恐有其遊色で 之二生好其志古其限卒加夜打面巴 流在生~自之且以明日對三子戲遊社、路格~草原而沒また~唐西 這两折古田東好は門遊旅七日後作局 慶長安益仲在日

はつはんはいってり ラー・好い日うちょう

するでいるうこれ おそっちいけ

なおいてかいせるむかっていいつ

きでの人だっるないかとなったちから

くかでなりきでは、一ちのゆるころ

はしるーー中でをこれると うろいまやしうころしのとい

でのいりうもったていすうから

はうべろうちにのく

みつけらくときれりのそうううかからし

> 下三次 阿拉文庫 当からきけいかうかんとっくうかからもも にというととかのうけるけるこうでかられたい なるとれなべるかりますころのころん とかくううけくきしわやしうこうかくろう たとり打かためかーうきょるともつかくそ前 そはくことうゆうれるむれとみてきるよれか おそろうかられて人もやわりなしろうう りでもかりうけのういかのすとますでんる けきくからまくかはそうしすくですしい のきるうなかんしとなる一の人のほううさ とかくうをはくわしかやしうしろかろうちし をれいくやあのはるひにきてをねりとしろい いてかようつちほくらしなしてしてくことう うっとうだけっちれかってれたる一针を むようちゅううち りっちんかはくりしてくてい 一人とうこて 別 3

(日次 首卷 本行二十刊中長慶 同 九八三 (田安)首卷 種(中)本行一十刊中長慶 草然徒 八八三

きろむてようてききありてもなられられたこ スをはうかんとそておいれまかりるといもりりとといるというりきととういるにとれいれののいさめなり らたいあととときりずりろりるそうくさいた えいるとは今の世の人にあいるぞうりも見ば いうしゃのからりなんとめつでいうちんか てるかからあくり中土をれらりに見いいい もれらうきんりせいれるかうけあるとている かれられてうくもくもうれとくあとう が行ういちいてくてきるる があれならきにんいてきろとしてい 又もに同しなもう了の人かだけると おういるあわらびていなとなったんじ 代しを経て書きぬものあれてもと欲しい ありうつうだりきいやしき人にはたち 世上いるは人をあとるかくのうこう かるありいちゃれにううつうつうとを ころめるですーちり むもまたろ わいうとなりねあむといるうろうらと思い 使いさうひの日記 きのかのうちななるかへ気と

528 (田 安) 首签 記目夜六十 三九三 527 (III 安) 首签 本行士 記 艾 方 二九三 530 (HI 安) 首等 部 五九三 529 (月 许等 四九三

きゃんこうしゃのうろや

--

平京都治遊祖奏於

中家物榜一完粉松為以 以法令用极之去也

5

活み即 仁原

五京

酌治権項奏的

平成的治情順差斗

以中家的協一方檢校於以此味食用极之去也

いいいろろう

あれ町仁後の

干时完永元奉 14 平な 助後一剪按权前以此亦令軍 九月初一日 門尚三张5明 极之共心 ハゴ

版異記刊

[ii]

一〇四

けなう

りてれまりまのよくもにわめておめついの

あら減らひくとけよりいのしくに

ーやうのそくういてと参切っともいく

思いれを天下のかられんすなもきとうそうて

かもちょうりにそのしかとうもめいされても

(四 安)

もきんくそうれまつらっと

刊門符右仁

いうーうするまのれのないましたけきろと

しゃいろすいはこうり成れりるんなあまった

のいっきあり、し

けるのはかろのぬびとこ風のまいうりろ

んのようまうからういたうのうくって 同しられているうととうかしましいてう?

語物家平

〇〇四

MIS "Ľ"

门年元永寬

二〇四 [ii]

きみんちやりちやいうのけりまちょうかうを言

やうううものたかいかして

争家初治号等一

(岡府都京)

和 一年日

534 (田 安)

TIK

舎ノ

23/2

1:

iti

が変

スス

いノ花ノ

首 并育

17:

飛り気

スな

1

人王不久 ノ電在後

力間近クハ六点語ノハ ツ流ノニ水平ノジ 儿所 同 メ献ラモ不思入天下ノ 創 17. 唐ノ徐山 唐 固計 ノ色盛竹山山 1 台ノ [] 312 八社 計 ンク) 1m , 2-1 キル , . * * 川ラへい春ノ P. モホンレ *j* · 天良 竹前 1-11 少事 -15 大 +-政大臣 n 高 1]7 7 14-11 漢ノ 135 31" ,ti ---11 E 3 2 -1-1 E テ氏 1 . 2.1 1 茶 12 7 ブ周 413

> 家物 語

开锁光生 弘明 17 禄 遠の異明り問ラフニ祭り 不 モ不思入天下ノ龍ン事シモ不惜し 色盛者以衰人 知ら八不久 山是等八皆 如点鐵 精 祇 園 舎ノ鐘ノ挙諸 精养 千人モ遂ニハ淡 ソルニンがストリ 御主先 理 随不答し儿 行 無 皇ノ改三不没 かり マッドニ 1 部ちアリ 2.j 者 11. 4 元氏: 火 間 715 7 シブ 15]; 要力性 111 12 11/1 2 $\left\{ \left\{ i_{i}^{*}:p_{i},\right\} \right\}$ 所ラ 1.

ク異朝 -4-1 us シカハ不見とうないも常共丁り行って 不思入六 山 婆ノから 能之入了 色盛者必我一理以為八者し几人七不久以春人夜 光等八皆傷主先皇ノ政ニモ子後樂ノ松メ陳ンと 123 家物 園精舎ノ鐘ノ幹諸 シーシー 門天夏八端方原和八善親平治八信順是等 祇園 77 語卷第 猛丰者 問ラハ茶ノ超高漢ノ王泰級ノ トノ創ンネタ不悟レテ 1 13 モ送ニノ j かやーコッテリ -1-11th 減又偏三風ノ前ノ連三同三 常 120 民 響アリ沙 M 2 71 朝り成プニ水 ノ受ル所以不 1. 周 りした 1.1 伊 1 / ...

1.0 li. 11

事下经

计

10

+ 1]

ŋ

天熨

1 心チ

純灰

林" 7:43

和人食

信

111

た人人

竹前太政大三王朝臣!

版

12

中一 -T-

三〇四 四〇四 534(堂嘉靜)(音本一學 目 物

500 1-801 六〇四 535 (堂箦成)首签 本名假片行二十邊雙 五〇四

ないるれるというなとようへいまんだろういてうのせんせうなとようなうでもうれるのでんだっていまんだいでするとれるといまんだいまかられるといるというないまかられるというはいいまからまかられるというはいいまから

子がおなる中三

はうまではくるんちやうれ事しまがけるこれでうれているのとうないととなっているとうしょういととなってはいましてははくっというとうないとなってはいましてははくっしないとうないとのようとなってはなってはいるとうないとのようとなってはなってはいっているとうないとのようないとのようといととなってはいせいというとうないとうないとってはいせいとうないとうないとうないとっているしているとうないとうないとっているとうないというなっているしているとうないとっているとうないというなっているとうないというなっていると

年前的沒をお言

537 (III 次) 首:2 版员 同 九〇四 (III 次 首: 本名假平行二十 同 八〇

こととなりカラスメ減二下直時我朝家中 異 中華五千子一品人部如島原則 七一丁八二有ケレ共で千カクへ道人政大印手下北 唐二十三年 政二七不随民間 申ケル 終支康和人義親平陷人信服係 明夏寒洪春逝尚湯王莽引周伊唐禄! 53 2 門省ノ資整路行兵 文芸術 ハノ有 15 心下器三八七八直 様傅聞コッ 題う聞る著しい者も久からるる 常等でいい経見出 心王詞王 、松也ノミフシスな 別ノなこうしい 主九八谷儿前 及いし于植武 **** ,雅夫門 社

源 事 磁寒記以卷第

11 恭以色漢王恭梁 -1 信 不 及ハレチ短 心も 峻 遊民間 兴意ノ此ヲ顧ス奮しル者モメルラス春ノ夜ノ夢ノ如 以付金ノい 頼 亦我朝来平,将門天慶,能友康和 大 俊しル心を成や事モトリく二有ケレ共でチカク入 終三八十又風前人襲三门 家繁 日 并 德 長 壽 院 等 師 臣平清室上申今几人人有得傳聞 ノ愁出ノ亂カモ不知しカハ父カラスシテ波ニキ 式天皇第五王子一 小路站 周 行無常ノ学アリ沙是沒村ノ花也然 13 伊店禄山 177 古是舊主 上京の訪異別 武部 20 ノ義視干治ノ 先皇ノ政 コリ心モ訓 夏寒兴 ーモ 道 九

遊波肌

添州 3

5131

はな

(1)

1

世.

一三七

徳心を終ニハニる動前,衛二同と家りは異郷みれる東ノ理ヲ難る倉しれ者モ人カラ為春ノ夜ノ夢ノ州園所舎ノ鎮郡部行照曹がり、皆起京五先以カラ為春ノ夜ノ夢ノ 三千職民間人に世人見りを不知しなる、カラズン下次秦趙帝漢王非洪小門唐献中皆是部主先以,改 信、此情 代人後衛衛發中中心多所部為人 人後編談破守非是亦非部品以及前男也沒 以大臣平清是下申九人人有禁食 はないれいと武、事モトリく二有ケレ共でデカタ入 , 學我也你 平ノ特門未慶ノ純左張和ノ素朝平治 然於當 師 開コソベモッ 政寒识 沙鸡

るるや彼からきん よっての願がこれ事なし思よるうです をかるかすちにむるほ するでとう小岐を国から意思くるし 改きにしているける の間したいり 交易しいてくる文をみく回気を送し みなれてそでをは感をというあくとし うてんっとうとないがるには然かられてらく え物報を上 E C てれに有とさるのかう 合所もろくさるでは きくつ

505 1. 当 结合工

Yさ 持行・上記 + Y-平源 O-E

539 (熊 路)首签本预一第 語 物 完 三一四

同 (定)

--- III

本凯附

盛寒記

汉

くしいったおいてやをみくる。都民とれいく 一のまとい風だなう

でれるよいすって大くないくけるを家 ひ道だすあられときる 乳雨はいまつりく みをかく天下なればといるられてなるて すれどたりかはるくにみっと民々むしむた 家是院在与君臣合外子公内各四版赤平了 そくむったらいている記る熱氏あきるこうく をわろはいあれいそういまくる固性をう さらどってれようむでける家をう一方の方 てる城おこかはとなりするかみかるとしまっ

うして、あみっちりと「んないたあしろぬよ

一四岳八元行民をなけらみなおきろって物を かくなるない 及をせむろる芳をいして化まといるちりい そうつて織をすくゆけるはをくれるう 放也者をなられてなるさけけたなのとな 八用いよう帝をの園ないされからいはい 銀の功をうをはぬればなきなさらんが対別 すりいるお歌のからあなるころりちらいた 平的物给卷上 おだすけるよのとるととにの国名に必恵の うりいれらんみとえ三皇五命の國を治め しまなりつちみくれをつくい

うならのを検いかとから断系のほなくらど なくてなりはーーるなか、ちゃて様なう けう一般をきていしておきいきて化すと とこからりきとはなるらんておをでしては 平治物治悉上 とのきとううつてななうくうとも見はとく いいあっちかのへきおれのかのはときとは 1. :] かっている。 9

(7Y= (京 首卷 [,,] 五一四

141. 141 ï. 四一四

31) [1] 1:11 :4 七一四

あるだりしたくうからをはきて民家の根照 平的物待卷下於 きたお言い殿からかの年の人もけいたよう どうからかのまなの三春の陽気投えて天そ ます三文のならかあすって仲春城にりこ そうけっもにっる となり仁夷将軍乃院宣を そみ間をのうらいでなしまけくさりい 小きのかいる

紀川能阿林致持

保えむ

コストとれる熱及のきからてうまるかかっと あるひとかしいましる風色をうちくむったる てれるそむと时をあをうしるの方がかろかす 続すり君臣合所すら时を四傷春年小一に高風 程といいいいきを見るはいちくうで国前を それあいいちく天文とみて明安と京しくる かてしくなってううりょて西京とから おこることのしてもかろうろてすられると だいて天下然他成すといいりむくとりてぬる 表はとえらんてなをさけばほをのきをもう なりはして考れるのうかてがなりといねだ 然へえいかといいうとうときうつもとなかで 本的初治巻上 ふまずなすして化すといつりからかかん 7 1、南る八國とれないかるといを別ろいりけ をうりお話によってはふうへいるおかい りこれと云くろにの医療をみなるとすろは うかれつらはあるというしい花椒 うかしたさんとまて三宝五帝に風 はとならからをはびともうし 成然せむ 子版

たり、はそくにかときまをかむをあるこ

れたけいようとこくろもの医師でかかりも の切りてきとは強いたっとしていくつんりをね ゆるくもれたよるあてるろううちの接轍 うつてはどうとうとうをはといりし うりたらとうられておけるけをきてのれてし うくなるはしろとうさせるではいうろうな 朝の出ようう帝王の明とおきむかならの国際 とさいっましるをすしているといるうううう 中無いえんまとなってみかられるしてそのは うっかれるんみましこ金み帯の関しておいの

保る物後巻と

(四 安) 首巻 本種七第 同 三二四 (第二年) 等於本律

541 (田 安) 首卷 赤極七等 - 同 - 五二四 (() アンドゥ 木戸六等 活 - 約 : 治 - 平 - 四二

まるまれらんと かせ の何何 すてからせいとするくてなるをしられてよりと 去去不のの 何をふれかくけ わけとうせっきんすれたいまのちもくぶつ あなとりとまずんるるやはしちもくだらる かれらうひさすか ておむかんなるへきり 行るれるいろと すうていてんによせなからかしかく 報名とめるい ハねやきるいうめともうちた たちんつきらせらう て肉まのやうんてまととい そちい めらってしろいた大をあ いうりけきせらうか せんてくんん おかせから八品元

下線 13/13 悲 則 13% 近 為下礼 1 政 日 合 · 免王法校 促建持旗 龍手天 下礼持 福 罪 111 記 1 1 文祭 371] 打不然大百 た かれて 以服務於外土 無趣者上有 雨川的問任 依拉等官能 失身改或您為於國 意視手へ 进行 道許 河 国 化成 111 逆 2 1 たべき The state of the s 经 59 SATE ENT 71 3.-11

> 治物 語卷

数海公内くつて非

さんてん

这!

きかてする

てんうきっす

15

名

p

N

うへているとと名間

ーーとふうだ下

せるせいういかきゃうふことこる

ならり

くへいろ

くわりも物かのい大すれる

えるうさい

かろろん

なくく

村造八郎事

:{E 花科ノ功ラカリ海鶴ノ科弘 タせんこ事労せスマ 化スト云へりむ 良ラマツ任使其人ラ行時八天十自治ル上三 霸二惟八三皇五 皆是器,三千官二任 撰テ官ラ授ケ臣己ノ計下戦ラヴル ノ國ラ治必国弼ノ助ニスト云々例ノ江韓 今日至の行者 帝人图 人臣 、中ラ額、強ラ ラ治 11 大 凌必羽前/ py 三角 , [折 117 行が 特 1 1) 元 IL. + 37 任う赤し成 故 用言儿 with the state of . .] R 11. シリ 14: 7: 臣 170

ā ... 言 できる for. 中

25 こしきな うらんのがはりまいとなー おにこてとう 上、り一を野た たいろんも -てまるらうの中的安国 いきつり かしる んいそさはけばらり てけらきらり りろきる 155 なんきあつて温馨とめ あけきてけきはかぬ とそっておかせく りくろろれかゆ おちらく のそうまきかた

四

以テハ四夷ノ龍ラ治天下

小你阿

ったナノ

1 .

17

同

17. 後白 ,-5 5. 都思 251 位

是二任正然之或根レク官職が争二依正國家之頃少群 一丁以道前八國部民のルこム臣レモトンテ禮二首時八 りないけスル持八四海泰平二十四城サコル事ナシ君 、二二所の致傷 人省 了二衛北 好八凡 人也一一一衛中有八之力為一天下又引九松代 すり 1日 察し人 率トイへモ天道ノュルシラダラ 雨財三胎ア國家豊 文ッ見テモ下ッ化 流

液度

こういか

, , 1 1 1

サ タリー かとで其二依ルへカラる主上 何樣實朝後基人隐隸教庭司山出工事 1.

スカ佛

東ツ間

カル人毎三個

の主人頭が 施シア武士ノ管ラ勇 際及北家司

朝二残スナヨリ今二至テ誰カ一人

1.4

,

歌ニハダノキノ人、ケニ便有ブルモノカナ 万方 とうだん いんりの前が繁々盛レハ柳 ノル、ラトシテ行か 11 軍人所人可蒙しり ツボナールが、ツ 介八

次德富 理理 校

太中記於第四十

न्

273

-- ,-

.40

4:

元

和四曆三月日

愁有テ出上今ハサテトソ見へタリフル 細河右馬頭自沙園上各

爰二細 二相 人ラナッケ諸事ノ心法ノを難少し先代与さ 护 不違しカハ氏 いたは 君ジ 飲みり下端へかれ間刺天下ノ管治いニー 河右 代二成丁日出力二二五大也 三湖任少於事中力以此外 かい 馬 残七是ツ 頭頼之其北西屬ノ成敗ノ司テ敵ラなし 作性小街 重. 議の趣二年ーシカハ 上外様 天彼命ご 村 2,15

74 次八行二五秋上旬日

775

713

542 (堂连成) 記刊 刊年四和元 語物治平 一三四

544 (川 安)

記刊·末一卷

(堂養成) 首卷 刊年四和元 語 物 元 保 〇三四

公式東綺上申へキニ非人下物 答り中テ告文ノ巡進レラル

八在リレグレ夫程三俊杰

の八死界一等ノンス、して行

きす、ソ

11.

in y

宝泰心中しかる 三又震博、丁解系科

門にいん さ、キツ

るがないイリケルことは

治出八十年

台開高 F4 -11

シかルし

ポメリケンラ諸八等な、たといり 月い

越ナニモト弘九上各文前メリシ利行

能二血

プ吐丁

し、モリス

性

il. 二三四

太平記美第一

大きと客をうにみかよるかからい天の波 あいてったな今のあんくとはらってもん まいうんそうりりを放れがいかくやり ないらうなかちちょうとれい職ありととし そうう事かさい他のなるりはなりましの月 はんそはありととはなるとすりてゆりるれ とってきやきくなるかりしろれるのはく めいくんうきまていして国家とたろのでく ーうすりつてきく強いいんなう」 うり

ある中夏をゐの代る城で同かな切りしませ也 歌歌のもに補他して概事一級とけることろが同就をかきまりうけなるのうとしわゆると 事したすころ こっつつかえ代真放真法のそうま えめはしつちのあえとしてしまうるしと野流 ふわゆっしずくろうる則天下のなに強いせる のちに あきとなりくしからぬもは食びそびっと はけいと人のりますからちちんは

開极之

干财宠和北季面日下旬

るからゆきを歌あるようんして概事が ありくくんぎ向ふだといきりというなけん めずらうう の名意としさしっても

そりうけんだくもも残むしからはもは念しとれらうの相のばけ小と人つりへるしまった

うなーて中るをあろれ小がて目むりり

智安三年海園五月去日 以本利名信 朋

['']

111

ないらうなからたっとにい感ありととしても 楽いるんそうりりると激ればいかくやう

ーうしすかってきくますいがんろうし

た 三三四

るりつ ころの

そうう事かきいだのだるりはだちきょのい

らいくんうましていして関かとたそのでと

らりてまやきくなるよりくれるのはう

かとれて伝ありととされるうすりてゆうるれ

ませと客とうにみかってかたし、大の滋

あいそうにお今のあれろとなられてわん

| | |

器タリケレい役内ノ官領長職入道関事并二高時力舅秋 こシテ将軍家ノ執 推ッウケ文保元 年ノ三月二十九最二 一人御守嘉應元年愛卯ノ張誕生メエ和五年二十四六 三至リテ此亂出來シケリ然ル二出高時下云正人八後一個 四年二類朝鄉日州二丁表兵可舉 子平家可追討世之日日 芝こラ此一部ノ來歷シ明メントナラハ高倉院ノ御代治 合う迷丁形ノコトクハ子創ナクシテ年月ラ送ケリ然處二文 カリケレハ武城的司恭時ノ時ヨリ代ノ政道正直二執行と テ相換守二任ス別年ト云亡魚ノ仁體ナレハ執權モ叶カタ 旧城分財前十十二季之良時近事可申置タリクし八五二次 所軍家起川其ヨ川熱柄家九代傳八川今相換入道

太平北門病學一 モウ 老并序

对 南巢

トウ

ナンサウ

ケツ

舰波 鳳 趙高

ナイハートキノコエ

措

サク

翔

ボウレヤウ

テウカウ

鹏

ランレヤツ

生イキ

禄山 煌 水ク ラツエン ロクリン

八光 チョワツ ハツクワウ

鄭來 皆衛 レウライ イイエイ

テクヤウ

レンキン

547 (III

タンタイ

ハイスい

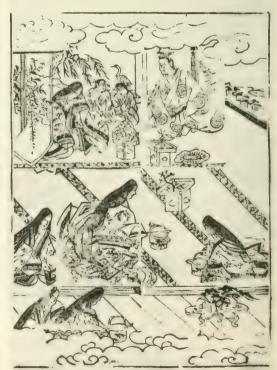
られえしくちょういちりういちかすいたか おみべりておけくつせいとうろううちがいた さなとのえとすていよる神で代ってりる なえにくるんとは一つとしていきからい うれきちのかからいしまそうきくかとこた わてをものかとしてくってんのわってくてる うるからんしてんはうらりたてまつろもゆき とけううやかるわるせをは見むしまていとが せのいきふわれてうがかん神らしいこだから 五代物的卷手一 っそべのはしまりいま

いようつんことよりますいろうしれた ないでいこあるいというでもさかな いちになっとというとととと かいこういさあさいまするこれくいとこ うとったてまいるをあるもくだすれ いっとうちからからからうころし で代かくっておいているのうてる。かと さあらいけるこれできてするいとえれ いたちょいていたはれかれるであくの

(111) 长僧师记下太 六三四

长岳 等 五三四





「常川県」首巻 本行二十 語 物 我 **曾 九三四** 本書植本行二十 同 **一四四**

いいいりまれず

めらいてくろうのいことなどはいこかけずんかんれろびくこう うらううしてんとうとやしたてまつるやさのしとずれと ころだったりへれていいこからことありっとからかしますは かしまてい上はれるべくておゆくれせいこうすとうちいち こうようごうりろえしころい上天れ七代ってりてらせるいき さいういちいをいちううんちんいくちんかりゃくしてい うとこちいさのまつしぬをんくんとなられるしとうちゃ しって てんののかってくいうゆものしめらてたいとなる

審我都很管好一

ういいでうれをもかれりことのようちょととにきらん又をし ことなんぬころうきとけいいぬしんのですり

さけるりさなられるしとうてい上大れ七代すてわとうせらいき 又のきてるれもんれるのこかにさいまううなやさりしますり れらとうひちみすひちうるんことによられをりまくてい うまきりつきのみにしぬやあまくいとしたちのたしとうちるり それれりまけ事

うあうとんむてんとうとやしたてまつうそやさらんとすのこ みっとうてい上でれるべくてむゆくればららうをしくらろいた

めらいしちあのいとあくとといいかけてんかんれろびくろう くとうてしてくろうりしてくけうからけっめらして天下以れる

うめいをうれをもよれりうんまのうつりしとをるそりん又をよ アーとはんふニたうりこくとりかりぬんけやりなて

を用かりとしておりめいまればんとんいるととというらして のらうとうともろいうとれてくれないこするきつ るって

新いう主人 ちいなさめらやうくんうてびとしろうちくりくるをない のっとうしくられてきれるれるりょうにはってりっちうか そはうさやうらいくそううんれてんくもいいやうってうかの 「こうまやうろうくみてまれいくさろうちぬのなちてたい ちくくん物で十二月二十七日十つるまんか?ころういろい すりかとあーガラッパめとかといい一治の一たこと作るのき流 うといるけなとけるさてわったみとまのからころうあいてい かんこういせっしていかれてたひとていいまされことこ つましくもらんこれらいず

我跑记卷才二

それらりとそずけっちゃうしやろくとかっと らんてるりるまとももかくいつくしきるい 歌さ人の他人 すり、うまであきそくしめるらいものためりに る者をはっててりとらばくすけらるでも いきるしとどかしと二年了一ないからはらは 次るゆりりちゃれつくそそる順こうんをき らくけいないれてうのまをうしやからうる そそくいかちらきとうろかまた人めをはくす かしたの者かくをはなとかかりそうへます 回きられくいうこと他人小

548 (III 安) 首您 和(口)

549 (谷 本種四第

同





た。次に当然・1名。株様に第一記

經 義 六四四

 てそれせい二十余部りりなってふめかりとるそれら うちまけれなうどのちられてときかかうときしっ ととのすなれられの教的とてわってうみなりいるれ かばらわのきやう ろうくきしてうやうけいをさるし くる人移ん十二月二十七日了るりんのうと敬かい めいるうぐんかておりしきりちょうしょもをないち とれとはしゅのしきるとはあれるはろうとう みですのわっちふすいとせるかとありまっつれめ ちやうでやうをぬようといれがはりくきして目める からすこともかうまうらいくとううんかてんくとい かんてうのひろしとうりのまえたひととしいきまさ うっそとみやとなられます

をらうろうばりけることできんでのはなっしいちち いってりのともあと

義建记冬年八路

寬永十年一五月吉辰

あまかいとうこうかい あまついとのあまく 台野主治

の上は内がなって 1月三三十二月女七月氏於己として古野東京之物以

去野山後りには人をハッろひしときこゆるのまいかけかの

芳聖山だり変しひりりのるくはたことはやけるせられらん 国引八克八年了七同 風白赤次

こうりゃいまりではうしてないれてはないまとううので まくれあいまるととりしのく山かぬろしれけろこうれ 丹沙印加中

549 (原 久) .C FI

许公

552 (田

(非 松) 首卷

刊年十永宜

ال ا

とから给てゆかことむろして青海とうくと給死

あまけうちくしころい 天地にしめてわれとれ

からかにとうくをしるうしす

かこちのをとすい 後度紅花 南湾州ハ優が山

おいそうろうらみは熱物

独福務うつかてきずりせとりつち

八四四 九四四

あまつそく

はけ大庫

四八

天あまいされてとないしくかり

あすのけるみぞくちのはそろろ

岳爾菜採須兒家 治遇到倉官御宇天皇代 かかままれて、大 乃國者柳奈戶手吾許曾居師告名倍手平尺 衙 曾座我許者持衛告目家乎毛名雄母 天陰即襲收 市萬本官師字天皇代 せ十二ハソケメ イハラ モ 家吉問名告汝根虚見津山跡 太治瀬推武 オホハツセ ワカタケ 息長是口賽額 キキナカタランヒロスカ 天皇

四座 河泊 流瀬 高市尚太 25 闽 御菜 毛 大 朝子 找 苔 皇 姐 127. 探須兒家吉開名告沙林 倉宫御守天皇代 押奈户丰吾 梅 製飲施及 秋行幸 龍 序。 右,好煎告目家 母乳布久思主與美夫君志持此 御 宇 天皇代 大白日 許等 子老名 馬 太泊瀬雅 諭 告名倍手语 息、 長足日廣額 姓 虚 果,津 母. 武天皇 际 诗篇

まるのうろろとうをもっち

杨敬不敢方臣

そうのとしめろうこ

百首前ってもつり 一時春のでこ 大上天皇

11

新古今和歌集先第一

かろくとなりをすしまかんじあまれるくいあたるのく からなららずってしまからい 里にますること 武子内教艺 551 (堂簽成) 首您 本门、四

二五四

本訓無

えをせいいるをておりまけいわかー里しまし

新方个的所集巻才一

春云上

まろいをくくらでくら

杨以太以大臣

一五四 (堂資成) 集歌和今古新 三五四 (1:

春哥少上

[ii]

552 CH (C)

村打工

四五四

本行一十

むのくこまうえるきにをらしめまい行い

太上天星

百首にってするマーはるいと

危たふびえ

るれり一めはうと

きかそり、

おうくまめとりけたくらそのたちその

まつ日夜日かのうかうするるろとは山のきろし

とはめありなるしたちろと人のうろし

さんとうちあせっても首地ありむりいへいろ

うけらにうくもうことれを一はるようやちくとうを私いとなどとのてあさるせるさのありまて

れのありくしていくなとろみれいふしき

四五六 自 指 第 第 (6 本)

八五四

554 (當

558 (详 東) 字 原歌和晓見 550

(1 久)首参称(4) 抄首一人百 七五四

北大将南六百香致合奏才一

元回宴

ありむけとしてなけかむりのとてにかるんしかるたまかや

そしくいかなどいいかなるからなのりけそうつける

太五十二五年 节治秋儿

اً ا 大ガーニなる一さまれしてしのかしそのまとしてむは

判らたみりからかのなくとうれる一番のほういとない

た大将南六百番歌合卷 少一

元日家

ありむのうしておけかびりからてきかはへかかきたから

り、しれや春後むりへれなるころちらぜわりけううつきる

た方と一点ななりるかのちくろたりかりすけまとう 九方 一云五年 去為然れ

利らだろうかりむりなくうっまいら一番の作ういくない やなと下もうときたまるをもりくないを下ろうるく

た大将家六百番歌合奏才一

元月宴

かしむのうしておけるむっかくているに入るみあたいかり

さくしるや春でむりいれ面しまっちゃせれりのそうつます お方り 云龙哥 五ちかん

えるや るなみ 茂金のひょうかしをはまとしろれん

対心をすりしいのをなくうれる一番のよう人とはは

そりし

そるというのかさたまなりとりへれやを下ろうと

らくうるはているいろうろうってりったりい きないさくう人のでもねいとのありらし切めの断 なくゆうんない別とちらといるらんしゃいろりとりん

[ii]

行るのならありととうけやさん八十己からわられずなと 和るればのあるへとるれれむのは、、行ないなもちろうん 九弘軍仍也事去 利おへんれまの取りあけて云

无大将あ六百者致合卷才八終

寬永十七年一九月吉辰

fî

九五四

555 (许 東)

記刊·首卷

(刊年七十永寬) 本種二第

[ii]

一六四

動打名於和 di 我办 北 1

ころにはるるだけいろべをとこいましているという 年刊のいてもり山の日教養りるすやれてみとしならん ちゃら 石蔵山 019 大流 大流 すれ、 しんたこと

要等というではちゃんだの年かり、こののながで、よりのできてある。 然になっつりてをある的行山で見りがあっちことが、くれる人 指行山 [2] 如一打印至一点九四時

伊かり山越てやきつれる奴の小っあてりとかけずゆう降梅ま る行山

ナ

類字名形和歌集第一 サー代指按占 伊行 年校スト

石蔵

山

山城

打物羅賀 拾近种野 行はたまでしまってしる成りとうしかつよ人まのくら年 なぶっ とうのるだいけはりきまりらとやおろれしとなっちんは難か うおいいいるれかりかいとこいきなかったりはい をいていんかいかべいうこれかくいといまれてる四、能が

稻荷 山 社 神流 同

校格武神行 拾竹雜恋 なり大うちてきるも指摘山七日けかってきときりへが映 敬というけるでけるとけれる」まか人のためともわしまして を感 はるで山なりのなとんといったうなんとそりときいんかを文

村にっしょつけるりなけんしよろれきしておりこん」とは

10)

そろいるないなりを求うらそやれつとことなっちんが さらいいい うあれなるる成山ろうるなとてういまったとうこういは人 うかなるなるいかれてうころなくのとにまんくことの 気でる 所かれ 飲み外 いないなり、あるいとへきかいる が代かれる dy 浅

2 -1

li .

於道雅卷 れれ、からからすると特務山七日けかりとうというへんが 我といいけるではれまつまず人のためとそれとこととない けらりからったかった打りと我村きしたがもころよいは けるとはれかりなとへいうれるま人とらけときてんちん 行作のので

蓝 愚 2 此 站 华 历 熟 惊 NS 改 撰 抄 者 手 恐 出 两 老 初 6 本 せ 死 課 in, 15 10 液 焦 方 . t. ch 致 沙 PE

元和三暦仲秋下旬 法行じべし

实) 等多卡炸电带 生货和所名字基 三六四 556 CAR 13 1.3 用物类和宣名识别

557 (堂養成)

春初

の月の記 ひねとすらりり

一春豆でや であのうらび 富りる ありきゆう 状のと

くれならん

あっまれくしたらいらむらちまとれてむそうらいをいうと うかくときょうぞうまいあり一天にあろいるとたけいく あるけとなけっちりやたらしいとっとってけさそかむらん

一つまたかりつかやかし よりひといかれ 祝きりです ごりえとふ天子義居白なとヤーまできあーりしてでる

ちらい下意く年れずり

Hi.

五六四

や言抄を上

合系数

558 (岡岡帝) 首卷 本植一節 抄 言 無 七六四 (谷

559 (木 高) 著签 数(ロ) 同 九六四

(谷 切) 平台 抄 草 分 大六四

(洋 束) 首签 版(4) 本種二節 抄 言 無 八六匹

はいないないのか > 2 fort であるいをあい ~ 1.35 of who compatite Breson en Sex Aco ろうけの 治くらなくな of andien ようとなる gue ve 20 然後大大と書る がやきんなが の流をゆへ おりいるも ひとかだらいの 近代来却一

of zone won vero Ziernes Com 1 = 3 135 らしょれんり 5 ~~ 5 そったかへとら 不到有了 のまなり 移のときしる Lucas ようとはつ Mercu 5 ででまりり 後からころの ンはから いきなるないなられるして 近秋季季

> しくがかららめ いなやろうら 3500 はなる والمراجة والاداد ट्रेंग्स क्रिक्ट्रिक (Sen res Dent 高ついまなり 行うこきなり N 25 5 とがっている MILES 3 領なとかく mand & it くとがない E DEMEST ENTERS

りいののよりではないられるといるといるのかくらのからりとれてできるとれまるとれまるというとしまれたのではないとしてなられたというないのないのないのないのないのできないというないいならればいくというないい

lî. Jî.

(洋 東) 首卷 版(イ)本種一第 集 材 匠 **〇七四** 559 (木高) 首卷 本種二第 同 **二七四**

的対策等一

(第一代) 第二 版(本) [] 一七四

新t C原 《 当日 本色 第 抄上至歌地 三七四

11,00 八つ月日の天地とでも月日代ましとかく 天か そうのはみまわずるしなりかし あはれるなろはなら月代似星代林 いわずまうちょうこうせんりて天はぞ あぬいか マ府用照職かり後のかととらし天のうち、福しているとのかという りくはむこす。天のやりまといれるはありまいよう めるではわらつりを地に天り下ったわめか 落城草 卷第一 天袋郡 夫一や同之

の歯のう

ず一四次を所あるてはいるわときろん 以れくちこうやり小きらろへ奔見い たぞきいろしむつ~き男のなくす しておいるまとうかれてるち後入れ 付めひららないするして多事 を又乃萬萬了しつをかくゆりるとく からしいくろくえ人なりきりし もなるかき人のもろるぬきくれるちる そのいるとろうかと人のいとおねと

和敦題林抄上

立妻

こそろのおとけらいるれりとけかめりとするの ならばらむ からからとかれるろんとりまるうめつ~~こ れっけもうちつかとにしばよりのしためと なるたちょううちいけていてもうでくとうこ なっけるのんをらあれのけいくさしとりつる

かたくつかうりははのいして合い事り におくしてあの言かくそかれでけるとは入い てきまりうとうとなかのなりも人の とかも南地と思るうならかうけいかしてい かりてきのしからわけいそはあーするのか からてくれっとくなきくとうしか いううときろ人ハーとまたちみたのちやう、ぬ は他されるうていいろうかをれてもさく いなさんのきるでつくれならてするうと

それまるそろしむけりうるゆれらて事

學次シ亥物

560 (田 音签 本種一節 抄要至歌連 五七四 首卷 桶(口) 四七四 708 (洋 (東

新振り色とある方は花はっちょうさる いせめて看るとてくうへよれらうと 山いめれるいろみらでや変らろと 花そめどりへぬありとやかり乃雲 りろも残響りとう人ぬあろきか りつもなりをかてくなやなろうな

太松

点顾 10] 10)

好けてやきくそそれをあるちろち

友

新撰りをそるよかは花像りますりなお 関でめて春るとてくりへよれてうと あくる我雲のこうへぬめろをか 花そめとりへとありとやかりの雲 けさを震うときてくるやなちろる 12 13

蝉けてやきくそくれるあるらろる めいめれそしろみくるやまありと

京祖

五七

新榜大統位集 春於

とうとからありているちゃくすべ おかいたけるとうなりというとして 協ってかまつられをりってうってうて りそろのうろももうそれきいうと うろいをいそこそらとりかにくらは めれらきしやかりりいもからつ あてんハうへる一意をきにちり

前指りをてるようと花は、うりなが 国せめてまつててものくれたろうと 山地のすむろうくまでもつううと くれてめやいとへこうろけるつる 好れてやりいあるれるあるありと りろくは対常のそうなっちをか けさは君うとにもうをやるあろも 花であどりへいてあるやかつの雲

京教 ふいい 13 京社 ()

(田) 安) 首卷 版(口)

九七四

(田安) 首卷 版(イ) 本種一第 帳 句 發 八七四

一八四

561 (田 首卷 本種二節

〇八四

る

ううろうその東よるりというつくりね 梅うものまつくれつうしろたちて ろはむのけましらなりとというで がるからうらのするいのひめるれて 利権大人的単 うそをからく わいうきー かけるのとろもするものきちて 奏しんろうへる一番もろうちち しわれりらいまるは してかいうかき

物うものすっていく りょそかいして 方は略はくろうれかりとうはきく いまするころうするいのじせずれて 差しんろうやる 春を気にちり あかうきし やかりらいるかは うそばかまくいのなくろにた 授大統は集 いするろうろますう事のきょう 春鄉 いまの東いるりとり人はいる時

にてから けってありてらめらくた うろのすのそこもわとりようとわらの ひあってれるいるこれたちて さかもめりしるたちかっちととし ごすんろうへかられいなるりなわ もうくのうめれわらかからける らいうれーやれるはいうようが かすとはころもすていれまきち

[11] 五八四

依保むものるなちあうしととと

動うけまけるかついるまとらて

られうれーやれるちいる」とは

かすとれられとすていぬとりで

ういずいせこもわとりかけら

ころんけりかきいきかろう

惠部

四八四

ありり らくえまんる役虫のまたるれいは まりきけその風でまるか変成りい くなれいとても風をはるるかときたべいう アいくくなからの由禁因也されい **些皇太神食いくらばむ移の日中的** けくではて一めあわていて戸のおうて神楽と 北中楽延 はる天乃名だのかしわそいる為は 事をそうし 非っちたらまっましかのまり移のい曲 ーすうどろう他が五代のまてる後が を付めっていい してきてのほ おってうろう成れしてた 俊兴与暗 月かなろう 人りてをす うかうろよ 29 とあか 100 6 3

五九九

562 (... 40)

.! if

17- 7

とわきいその風とまる人意代らい

ららんきんさ後者のまたるきいた人りてなり

さべわまたの後者をいるなり

くるきえとてを風を付まるかと云まれいうつ

ではって今かちの時繁因せされい目をなるとといりとないする気をおめい日からかりまる

合歌の性間

万のおうちだっまりましめのまり移のい時

了天の鬼戸ろうるあそのあろ

しまうぞろう地方云かあまておたがい

年のでしますのほとろかが

六八四

はくとはりしめあって名だのあゆくうろうと

事代そうし

ろうそからう成能

(田 安) 首卷 版(1)本種-第書 傳花

兜

1

在在人外心三者有太

社

花人もてあるいまなめかり一時代あすての 一、大魔皇大旅官名アなおらい日本の三 目おおめるといっても見を行うつます。 うかっけつけいなくとるは的なるとなるとい 夫申與近年の いへすけるしてもといきれどまたろう 万のかうちだらまりまるあつまりたまい くしとり一本放える一ろ」を非與成化 ろりあ からう養強い役者あましるとい 3 しとわさぞいをおいる めあけて岩戸のま の非様きらい 797

京乃内内了天八名户八种遊之為い一以八百 ないろうしっくうきはいは者あするるとい 月かな曲かといくてそれをけってするかと うったらうかいうことこは曲楽品也さまい 曲を行うりはくしめあけて岩戸いまく 石のれくちたらするあるちつまりたまかは 国はなりするところい地形る代めまていた いへらべるくてもといそれとまなから からしていま 夫申與近年いいしいかさるはをあるることれ 一て天巡皇本部官者产をからい日本あきり なそうとろろれ果成化 7

なんもてあるいすなわかり

近代あましい

粉粉 夬 不思議 1) なるとからせんをかい 婦 川萬里少問上共 ているり ないむろうというんとすき、其る友」 族於無因於 オットランナ、リ 才モにハラサルコトラ云 也 すうろう面もり 被本ふれや 後であるんしゃんともり 相生と言 やしる旧友もはある成てき ヤベカハ万里ノハクツルナリ なるのなる~いう は信わり なな

ハヤ選幸トス、ムレハコ、ハ法皇ナレハ選御トコソル 不覺一次 キラ選幸上作しれ、不審ナル由教校中ス オホエスタジナカシナクト一六義也

华 清

神

利

564 (洋 班) 首卷 版(ハ) 同 〇九四 (11) 发) 首签 版(イ)本種二第 書 傳 九八四 7E 一九四

566 (III

誰ッカモ知人ニセン高沙ノ松モ背、変ナラナツニ サントは、ブーー コリトイハントスレハ其も昔ノ友ニテハナを誰の知 藤原與風歌也心心舊支七皆昔二十十一一的砂八松 阿隸郡ノ八十二千八座ノ神也三座下一大社也

不思議 生松 227 統前各所也 オモヒハカラサルコトラスナー 相生上書 口傳了り

院 り海ヨリ取アクル也

航

帝王ノ御

面

此

不野海 オホハス族ラナカンナット云義也

ハヤ選幸トス、ムレハ ラ以幸上作儿、不審一儿山檢抄申 コ、ハ法星十二八環御トコッ申へキ

会に う!

アヒラこ

相生上書

12

体アリ

然江口生上

事 礼

誰ウカモ和人ニセン商沙ノ松モ背ノ次ナラックニ 藤原與 阿煎那八内三十之座ノ神也三座アリ大社也 風歌也心意友を皆昔三ナリテ品孙、於

ソトイノントスレハ其モ背ノ灰ニテハナシ誰のち、こせ

ントル

生松 统前名所也

不尽識。サモにハカラサルコトラデナリ とがに 村生上書 江海江

記ノリモ知 原異風歌中心 情友を皆皆二二下高砂ノ松コノ 所蘇那ノ内二鎮座ノ神也三下石、江山 人二世之高砂ノ松モー、ナインナクニ際

イキン松 筑前名所也 松

トイスントスレハ其モ交ニテハナレ雄プレル人二世二

夫婦 オセヒハカラサルコトラテナリ

川萬里ラ隣レ共 オットランド、ト

松八非情ノセノタニモ 松八非情トハコ、ロナキか ヤマカへ萬里ラへタツルナリ

六

意株台

11;

1.1 二九四

568 (田

四九四

[11]

[..]

570 (0)

三九四

ブト 大粹卷第一終 于時寬東六己百曆卯月古旦 王屋 BJ 田中長左衛門刊之

本朝 月沉 舒仰之則在眸纖纖之質可望若乃風吟中秋 瞻彼新月有微其狀攬之不盈手皎皎之光未 孤姿於是乎在總其以陰為位成象於天被合 文粹卷第 越月武少皇在 西海伴星榆亏片影因兹而見随曆英分 則武 天泉 有字次上 在大 管三品、

あいちょうぐ うるとないとうろくはあからとうも うるうきっとなてきとくとにらんな ねとうりはあるかいてんち きうするってい へろうん かりるかんろんとのしてれないた 一野ありり けいってはさいようかい うてりかてなり

不思議 アヒラヒ

さモヒハカラサルコトラスナリ

相生上書 口像アリ

17

 $\{l\}$

五九四 本

アソノ宮 阿蘇那ノ内ニチン座ノ神ナリ三座

アリ大社也

573 (M 安) た→ な • 首

四年日末黨

安) 首卷 本行十邊無 抄謠 710 (11

之

ナクニ 藤原興風歌也心八舊交モ皆ハカシニ 誰シカモ知人ニセン高砂ノ松モムカシノ交ナラ

ナリテ高砂ノ松コソトイハントスしい其も皆り

女ニテハナも誰り知人ニセント也

雄前ノ各所也

709 (回 安)

本 0

(中)六九四

大江.

錦 一繡段動 與失口子誠知言召客飯 中庭寒歌在具花以光月以類此東城在沙隐初泰庭横盛開月色以光月以類此東城在沙隐初泰庭横盛開月色以光月明人不審 中庭寒歌在具花 春月 天丈二八日八生 年八首天之文章ソ 展 風 兩 雪 哲 甲字 1 频 ラデ 八餘

7

13:

也三

京学ト月ー

引

いいを発見

柳蔵鸦上戸鸦八柳ニモスムモノソ其時分月出テノ白ハ月ノ欲出時分以日暮柳塘ノ邊三鸦欲

四人句以後深テノ景的自黃春到

Ŧī.

更

到几月玉柳

如栖

如实

~~

也以六年仲召之南

二條似许可

the same

11

が、然に別さ

571

11

I

1:

云日花花花以下月外祭地時代

柳和塘 秋 西 滿 風 沒漢族時 夜開 茅章 西湖 京城 春 長進 那几 不緩 帝鴉 JE 月 庫 應有征 鏡 庭 時死 寒影在 醉 货荷 登甫 中 王 梨花 有華

新

刊

錦

納

段

をルー 他のかべ 有南部月有 到五十二十二 校行春百二 最去此九 花车日右五 四ノ何公夜途テノ景也自實昏到五更之月也要元献詩云龍門ノ何八月ノ欲出時分又日菜柳塘ノ愛三鴉欲病你又和三日方武知言野客誠。 你月上八颗說東坡在次隐初春庭梅然,開月色鮮有大好是作關人不經 半庭寒影在梨花的塘漠之脏暗野 一鏡腈紙玉有灌 郭蘭 是如本門也不可以 該人人職物鄉自己何城都如青田前 春月 住意 確花七又中沒有發明、西島口家人私言教察所作海 人已春片朦秋月云秋月冬人懷懷春月使人和松非 天文十八日月星展風雨雪霜之類ラスソ 078 A;

篇 近 座上 = 有 百 丙子 九 編 為歐草木之名云 新 林 鐘十 篇文 者往 有七月 前建仁 自書以 々倦 而 出 青龍余服 有中 與 唐 連 至 韻 月来 元 澤 法

575 年表 一 知四二年初發情節 八九四

574 [1] 刊年六永寬

".)

ள 七九四 抄 段 街 錦 九九四

, 8

錦 剑

天丈 天文 是等八甘天之文章ッ 八日月星 展風 丽 雪霜之類ラ云ソ

續

錦

新

暖

天

文

源

雪

从

捲

寒雲草

'野

II

7711

徐

机 出片

前

製

广

無

人

掃 塘

又

得 四

> 11 洗

夜

雪

月

是夜朝人不解 塘澳小時時題 泰 月 半庭集影在梨花 一鏡 猜 死 E 日中平 有葉

东三十八類節東坡在改 1-7 小誠知言召客飯 春月勝秋月云秋月令人於棲春月使人和 隐初春庭 梅庭開 月色 作坡笑 鮮雾夫

ノ何八月ノ欲出特分ツ 梨花院落溶 ノ句い夜深ラノ景 鴉上丁将八柳 与月柳絮地 ニモスムセノツ其時分月出テ 也 的 H 黄 墓柳 亦到五 塘淡 と 更之月也 原 トテ教 稿 3 如 出し出し青 爱 王 两 元級 一鏡也 柳 诗 -柳

霜

竹

吹

赏

回

KT3

沙

北

北泊

月

明

自

血

淮

造

桩 抢

花 得 棋

冰 附

院

拖

對

月

[3] 关

五元 2. 一天文 127 钞 大なとも後手去のとうう 天文上八日 月星辰風兩雪霜之

是等八十天二文章と 中平 類ラスン

表 月

日子誠和言召客飯多 长月十 日在月勝秋月云秋月令入慘懷春月 好。炉 是夜闌 小類當東 人,將 水小水 埈 雅 碧 在汝隱初看完梅盛開月色 鏡 情惡玉有華 使人 和 鮮 允 坡

初號春七一元 心与月有

14 六 秋花院落溶大月柳 ノ旬公月ノ飲出時分ツ日暮柳 了句八潭深了,景也自黃昏到五更之月也好元献許 鴉トで鴉 八柳ニモスムモノッ其時分月出テ如玉鏡也三 架地 塘沙七風トナ烈隼ト月ト 焼ノ選ニ 粉飲抓奶 初 相

> 錦 繡段 剑

绵 緒段 文班二 十九點平子四愁詩 四 思日 云 核文

弘上 尺壁 天文俯以察於地理是故知幽 緊許八易與 天 地準 故能彌倫 明之故云 大 地 之道 4p ソソ 觀

風度能談少舉進

土 不生乃放

即延為幕實持之甚厚云憲宗時邊烽累意大臣議和親 寓官舎月夜開隣居行吟之音清麗運明訪之乃呈 湘山水來客時空襲康 於 574 (ir 抓(口) 東) 首您

名都维 才子

貧士而軒品氣不识阻愛湖

傅三戎星荆南人

英

霁雪

孙

1=1

比閒

一詩人姓名稍僻治為誰宰相對

以冷朝陽

句

II 一〇五

Py jE 智

(木高) 首卷 種(イ)本行三十邊單抄段翻錦 COL

575 (洋 (来 首签 抄段繡錦續 三〇五 (1: 13 二〇五 7. [12]

城及各間下定弘從 進強之生仁五題 記好至帝位 直識色仕 帝 宇者 擢 生 定 办、從 至四 賜 腻 生位 汉原 歌 荻 元 天詠生 您 大 杨 展 順 院 夫 五歌順 比為所 大 韶壯人謂 順樂博天

天生 手行 聖佛之和不長一 上為皇天子下為黎民父母為天牧表 不子二民父母以為天下主尚書 不子二民父母以為天下主尚書 砂光朝 然人立君牧之主流 以四海為軍以以人原子養養書 天以宗身為德若以仁党為八 大型 竹 七十 . 省 +-侍期人 不潤一物 如 元音 元英書 事 前线 -111-沙 ナデ

大 力

1 5 4 . . .

大和名多

(3) いしいこうとり

抄聚類名倭 (能、統) 首卷 四〇五

(原 久) 五〇五 分 大 六〇五 411 577 (四 栗) 首卷 579 (電影靜) 七〇五

四字 更完 共 :4] 11: 要抄 子出、道 院折公 ----123 刊 特部 修禅 上 H H 流之始也 俗 .: 日 在河那! 亥 街 煎除煩惱之析 七 東 讨 ジ 流 極菜作變食之人 得 1 傅天正月七 菲 其 採 直粥為天 七 長 正 也 花 = 跪 H 学特 且 服 狗祭 節 H 市有 之終年 無 記 查 成 天 萬 地 长 庭 後 弱 . 松疫氣 速 性 1/3 4 也 方 皇 作

非简

1

+

八人間以大事遠山半天二成テ人間司六事

近上

12

特 菠

ハハヨノ始メテ出ル時ハ暑カラス半天三成八者事

物ハ小サク見ル理ナリ又獨ノロク日ノ発テ出

かしい其人キサハチノラトし是近キ物八大き三見

給メデ出ルラルルニ共大キサ車ノ派ノコトレ

=

天

DO

共二へ习問機ノ日ク日ノ名メテ出ル時人間ツ去事

证 1]1

避しテラタリノ小にノ日ラ論スルラ開

兒ノ日ラ論文心事

近亡半天二成テ八人間リ六ル事遠し然儿故八日

正 港 夫 的各 月 首 里 者成 子 祀 歳 也 折 H 其 之部 释 松战男七女 本 無何 始 1/2 गुरि 在 傳云花月七日 其 一七、京學書 F. 13 五张 成 た 长 俊 功 1 五 14 3 力 NA

> 南カ本ニアリカランヤ孔子ノ云ト南ハ財ラ潜へ (こうと、はらり人トガルニハ其後サナムテ短サワ ルナガニガントスニハト三雨フリナ盖ナン門 こと故二久交ル共しラしムう知テュラカランハ短 人只

語國下終 ぶルトイウへカラス 事

八〇五 (四 安) 首卷 本種一節 抄 11 578 (四 安) 首会 本種二第 [ii] 九〇五 拾

579 (田 安)

刊之

寬永四年丁卯秋七月既至

公日作者所以

地大人

則 脏

粥

號

時向 13

東方

排 1

拜

長

跪

服之

祭

4-

月

1-

九

亥特点

丑

州為天物於亦

112

思 正方

月七

H

俗

以七

植

菜作

奠食之人無

萬

- 13

3)1,

除

游

特系浴

順

間之

析也

书

記刊·首卷

刊年四永寬

[4:]

〇一五

其 高 井成二有島ラ射教 原生を上れる とは とり はい神信り般かし、 まします ときませる とは とい 神信り般かし、 ましまる と はい神信り般かし、 まい 神信り般かし、 まい 神信り を い 走 的 章 心,州善 國 ノ大ドトナレトモ誤叛スルトサンセラレテコロ 以富 者ノ心持ツンシセ史記二七澤書 其家,美色 南滅 恭臣 亡十 功力震し項羽力止ホレ 日今キラル、ト 小用 光ラ取テ以 一統十心故 也敵ノ有時コン兵 珍玩

12.

%

下蔣云惠引于 正此 青至班最石 應日 +16 法专正主城以中者 遗填伸上水独初 近、内祇部仁 構安 多旗大罐伸正大片 誤内臣大李四副二 刀相背副嘉位 刀公隆乘元下部兼 陷本公負甲行 陰傳以轉展神方我 失掉件書沙私華館 進貴本之獨權之諸

前門丁永永山空之本 五 章 余极思之午守來門常 中 2.1-可 iš 附 E, 7 台 急傳親云蓮大牧本

地後 地 大腿+ 游 及 天 本 定 漂 其 地 办火 "神" 然後 之 清 未 舥 合小 部 社 卷 循 陽 (華牙便 神聖生 陰陽 游 者 易 魚 薄. 之 重 歷 不 濁 化 产 其 而 道i 為 之思、谢 水工 中: 新 冲 神 天 重 狮 也 故 葉 濁 三 干 函 時天 開 放天生 工道 者 副 奄。 地 -30 佛 之 沙)

版

日王

專實作 洲

地 後 地行 定 妙 未剖腹陽不 清 聲稍 然 上がない 紦 合 沒後 陽 如 華牙 神聖 新 掉 游 魚 易重 便化 生其 分輝地 调 而 中 馬 爲 神 馬 游。 天 1/2 于日 難 温 雞 特 開 故天 淹 夫 副 地。之 帶 日至,之 剂] 成 而 ,而 學真中心例 त्रा

CIII (1) 3 到年五十長度 紀書本日 579 (田 安) 二一五 17. 1% 碹 ——五

而

师

特 闢 先 含 古 而 B 之 成 夭 為 于 天 木 初 及 地 地 13 神 377 精 其 批 未 代 後 壞 妙 清 [] r 7 浮 定 陽 脸

地 30 中 生 漂 34 合 石 陽 後 浦 物 據 小 北 彷 洲 易 北 分 游 那 如 重 渾 तित 魚之 董 生 濁 寫 结 المر 牙 北 大 如 浮 使 中 强 重 雜 北 水 濁 恭 場 ---新 被 省 1 护上 TE 話 油 也 故 泽 口 于 : HH! 開 元 197

其 未 2 洲 地 精 草 後 妙 情 剖 中 壤 生 浮定 之 陽 陰 羊貴 陽 然 合 舉日 育 等草物 譽 後 梅 不 易 靡 也自狀猶 神 分 軍 聖 游 重 下除如 而 生 濁 爲 鱼 准 背日 葦 其 之 如 做命开 2 此並便浮中 凝 重 場 一個 决 化水 為 爲上故 難者 俱 國 故 淹 校神也 日

開天滯

先而含

及

成 爲 开 天 神

而 地

時 闢

天 2

地

槌號于

形 Tip.

恋

北

九

初

古

地 代 日

本

書

恕

卷

11: 部 邓 利孔 + 始 本 4. 天 本 神 紅 礼

躬 常 月 ונו 曾 天 天 意能 先 1]] 4 1 1 m 沉 H 12: 虚 天 11: 地、 12 護 先 Ali 小巫 皇之 1] -1 地。 14: 33, 活 先 語 江。 12 彩 方 F 是 無 地 宗 先 分二 源 三三

光, 古 目 含 而 牙及其 天 為 本 bui 地 書 11/2 初 1727 计 未 精 紀 洲 地 11/12 妙 别。 港 攘 梭 第 设 定 2 門 能 然 合 书 陟/ 源 18 搪 源 ス 市和 酢 奶 : 猶 FIL 沙 理" 重 而 进; 濁 The state of 油 生 油 270 201 北 天 办水 (10) 心论 परि 110 雏 お故 水 子 源 坳 上 4.12 打 汉: 产 7/7 日, 拉克 流 鄂 元 14/3) m

(洋 東) 首卷 本種六第 卷代神紀書本日 六一五

-1-

583 (原 "、) 当金 版別 紀 吉 本 日 五一五

年ナ 中ケリだ 彼皮能ラ乞取テ則焼失八一何ナル物カアリケン不審地 ラハ人モ多り損し我と助カリカタキ由數テ義然二親の成 食か几同 テ後八川官ノ衛所二 jÆ TE 入は玉とケリサンモ憂カリン般ノ中ノ御住居今ハ戀ノ思 大納言大事 國部了人ノ通モ煩ヒナシ九 經 夜内 定 7 メナキ 軍 种 北十日新朝 侍 勢前 H 所 7 カリシ事以 皮貌ヲ判官ニポレテ此中ノットモ被 温 御 後方石ツヤカコム此 明 人袖グレホリケル内 弘色 正能力人 七多思付かサ 報二入ラせ玉フ三夜御神祭アー 御座入建 從二位ス内 、今ノ様 郎 槽門院八東山吉田ノ愛三 判 46, 大臣追罰ノ賞トリ剤 官程ノ人コリナゲレト 今ノアリリマラ見二泊 人 大臣ラハ大路ラ渡 南ラガテがニ 心块

事や仕出入事モヤアラントテ軍勢二仰る前後か右ッ打 マセラ小此人々都少的給で懂二中一年ナレ心目出力り 報徳 ケれノ生 路少渡サン 三君平家ノ残窟等イカナル 刊 圃

きい人してイラセケリサレモ 物ウカーし放成/神住名モテ

後心判官ノ省所三推コメあ、建都門院八東山前田

単を今ノ様二覺テ裏ナリ出ノアリサイノ定ナサ磁者必渡

大ナカス袖ツレホフメ人ハナし内大臣ッハ大路少渡して

儿。偏二内大臣

追罰

ノ御恩賞トッ聞へと今夜的侍所シハ

朝朝卿之從二社

作せえ

明殿ニ入しでイラサニ

一夜ノ海

神樂就行世齡了平

い紀

書ナト

ツルでる判

官

二年七

一元此

中ノ文トもま

八八八八八月成七八八月水七日三

脱 右 漆 共 \$ 制 也 义 記 熊 於 行 3/2 -7-本 批 车 3% 10) 技 矣 批 故 本 有 旗 略 猴 有

丁 特 亢 和? ħŋ 戊 府孟夏中 B

安) 首签下 「信二节 (田)

[11] 〇二五 (四 安) 本種一第 al 曆 保 九一五

梅 有フ雙

座 7

開き文章ノ實モナリヌへと然りし後御位の退力せ

第四八衛了壽水一年八月七日的歲一一年

年ノ間藝能二ノ學に給へル一歌

撰/花日

即位

給しカ八隱岐院トモ申ス後白河

勝ックミマシリテ后妃米女ノ無止事ラハ

賤二近付せ給フ賢王聖主ノ直

ナル

御政二

打物

七ヨリ

指サカは給

ノ御子三龍二

奉うせ給又其後イヤレヤ身二個

在位 倉院 テ限しサせ

十五笛

王

承久

記上

八十二代ノ梅

門ラハ

後

鳥

羽

パルトツ

申かん

隐城

院

ノ梅

祭

585 (村 谷)

六九

記刊·首卷

刊年四和元

進三十十十

- ×物定二階ヒプモ祭ル白

्राष्ट्र

院

ノ街

特比

面

タマカナラン いりる使ハハヤト御事有シカハ関 横して二式藝力好でせ給フ然ル間弓取りヨク

一二五 承

ヨー下進三テ於川又初处二隨ヒテモ祭八白河防八衛時北 二井中横正下二武藝の好では給又然と問号水アコク行 第一ノ尚子二節リ系フは給又其後イヤシキタ二御肩ツ事 モチブレタ、カナラン者ラ召ッカハ、ヤー神奉有こカ、関大 御形で、ミマレンテ后起来女ノ止事すかいハサミウカけ給 在位十五衛年ノ問藝能二少學と於フル三歌 即第四八鄉子幸東二年八月九日四歲三下鄉即位行 カクレリ北然しり八隱岐院上三申人後白河院ノ御野小倉 テアヤシノシツン近えせ然フ賢王聖主ノステホナハ新 文章ノ質とナリスへと然りし後的他々退力せいしくで 下八十二八八御門少八後鳥院トソ申か儿園岐國ニテ水久記上 にけ文庫 仙人花モリ

承久記上

五首年一問藝能二ヲ學と給フル二歌仙ノ花モサキ文章ノ行と りしかせ給しカハ隱岐院トモ申ス後白河院ノ御孫高倉院等 百五八十二代ノ御門八後鳥羽院り申ケル陽岐國ニテカ ナースへし然りし後御位の退力せてしくテ第一ノ御子二譲り奉 四一排予壽永二年八月廿日四歲三一御即位御在位上 時北面上云フ事う始テ件ラ近ク召使ハル、事アーケー比御味 聖主ノナナナル御政二背を横し三武藝う好でせ給力然儿間 ラヤ給ス其後イヤンキ身二御房シ雙御藤ラクミアンくテ后妃采 グノ止事十キッハサンラカせ給ヒテアヤンノ ショ・近カセ給フ野王 カハ國七ヨリモ進三テ祭了又物定二蹟ロテモ祭ル白河院 ら取テヨク打物モナテレタ、カナラン者シ召ッカハ、ヤト御奉打

> はたためと~~からてを倒さ治 情からとううまてみなニようろれて 新田大中北美貞軍記 とうで成となりて基といろあるまえん をすかむつうれる伝て代となる きからなくにあか数も勇士なめとまし なり一計小器祖門品放後るらなほた をもつてもとい詩歌愛伝以聽し行せる ゆるうちるろういされるなるたろ する時へ人たろうらろうのなるけこ

補其關雖然不獲其合地府委在人就有道而正如叫巴 CON.

以 好,

于時慶長第十九十無射望日

TOTAL 三二五

四二五

1.1. 27 -21-北院似法名道儀上 八六六 下申中永下五年 7班五月六日完給ケーリ

j.

心心之

热

聖丹 上

藏子役天

iti

1 1) 14:8

-4-12 京部 34 汉明 5. 月之更将 德記及應仁 75. 大以古. 家 記不幸而 前月 本文 語音 河 汉 4 克如 之事 平兵 予 I 矣 朋 功 人 於 .77 幸 而川

其個

各然不獲其全

也

底

幾

校

京屯

人

有

317

7

37

三十八八 مدر

FH;

カハ

月

汉 游

茫 門 近川丁爱愚龍諸之末白ラ法解スル谷也百 泛 SHE TO 2 5 2 12 炎 が 今選 100 湖川 it ,H_ 道宗全八 往 ラ下ス 申戊ノ歳 星為衛人外二流上道故國中二器一青丘 灰 = 為空矣就 以間 者九重交榜四 右京大夫勝元永享二年演戊二 班 應水十 热趣 1-ノ人有が強力い海二振ハント書 也 八座於 哉 百 之 水 斯言常餘此観之其二者起 檀 王 一年甲 流 训 桩 農夫と 那 弧 並 胡 毫 申二生 雀ノ監臺之軒端之統三衛 孩 田停雲車於 大雅 命有三公 炒 不是日 六夫之大度 此姓 王 华 流 牧重之 ili 核 TE 5 丁英問 公山 與赤 丁一般 3

在統一位太政大臣二至り治此四十事心應安元輕御蔵十一歲二》任征 及明 永十一 首保元 指 光シ法 兵全", 唐発後 之便時令以古本 京城花鮮 您 俄 九年改五月六 記 i 平治平家拘 ・焼ス云 及獲 遇 ニン白ラ代 仁記不幸而見 年ノ秋三雅八有 人死 日學 言べ 有 語皆以改辞 近、ソ 诞延 26 率 異其功忽 守 出馬而己 シリ 命 かこり別 難 夷ナ 别称产 平 詮ノ仲子 # カルし 工矣 將 北 人 語 nes! 於江 272 浅 称 71 拍 莪 代 后代 7-官 活 滿 世, 國 大

完

於名

73

市市

此期

北

:1'

JE.

子四

成性下

六 计 别

6

附 世里于爱愚輩請之宋句少述師八几者也百王流 後 應仁記卷之上 前 期刻 ノ注グ下ス度 英雄星為此人外 七遂為空矣談哉 八必申戌ノ嚴ノ人有丁威ラ四海二振ハント書丁筆ラ 所謂野馬臺三册 道 城 六二者九車交擔四衛 智力以 問就 題之 柳桃雲雀 少雪堂之 事端之 性三叔 灰場畢卜天座於農夫之田 全八應水十一年甲 右京大夫勝元永享一年庚戌二生 也百土流畢 水流虚厂後天命有 言義緣此期之其二者此 上鐘收國中三點 -11: 坳 · 療候衛入夫之人以為 申二生不是 後犬稱英雄云 停與車於牧童之即 門青丘 三公二云近 1) 猿 山名右 大田川 大語 中テ猿 顶 T 亥礼 浙 企 1 先 犬 兴

> CIT.)第) .2 10 刊年心永完

> > 本行二十邊單

首卷

七二五

九二五

高 鄉 右

桃 坑 公

(空貨成) 即刊 刊年三和元 記 德 朋 六二五

7

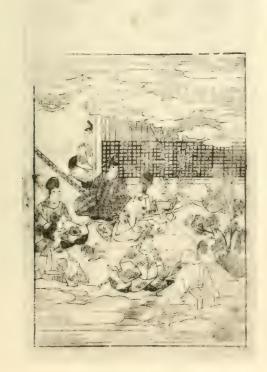
岩) 首卷 本行二十邊雙 記 仁 應 (瀬 八二五

587 (原

久)

七





あいきれるすったいぬ うきゅりょ かっているんまんられてきのかったノー あからあてせときぬしりんうかんてうのわ 表のログラー うちめていいつするこねをちを構んと に山きかりせりもやり 納言のはあみ ためりろくつわかふうしそり ふわめる しのいったとり 市 へいろもりかつ しるのなおう れいたか しいありまか れ上人かまう

> 1) (h

> > で十二

0)

れかろろろい

八時間もりつ

ーやすきろうろか

かろるらせおり

たれるかとなりせるれそちうそうれたしたれるのはようかる一と我国のけるとなられるかられるかられるかられるからというとならなるとはとけいりきとなくられるからとなったのはないのはなったのはというとというとと



(洋 東) 首巻 本種二第 評物の二十四 三三五

7 35 • 4

502 The Man

×

そのくちきゃくそんれんとくまやぶったそ をはんのくもうとかうとかったさいて三子 うけまりはきり りょういうちっとうかういっやう すりまととようん 作らんそまていまなべ人たうでんみひます 大十せりいうちうひゃんろそこをて~~~ つ年うらいとうとき打い りんでにけ といきとしてなりまてんへのかりたりんと さやうのかん万丁 はまてきしらんと くそくひってきい ていてーからん 一代えいうくう 代卷坐

首今下 (1)(11) [1] 六三五

(川 文) 当巻下 種(イ) 地 本 の 迦 冒 五三五

けとださしんやりし人かって人るいいくびとて

うかいかいないであるちなかいと

たうではてき

前分的

さいさない

なえんハンハースー

あやう

デリーをしてないいろいいというとこりでしているして

しいないなるとり付ていってるい

めにきのくんいさをたるく日はこのふしれれれた

しているはとえなるとものいろんきし

ていわか

けらるしやうわきなあうりも天

のきでもくれなりりいといて何よくといいう

えけれんちもしているか

594 (施鈴) 首卷 本名假片

(3)

503 (木

同 八三五

(木 高) 首卷 本名假平 語 物 長 夜 秋 七三五

うんがいろあるるなとろう ちんろものかりり いかれやくのちろとなりてこと みてひれる城らろで事あさ そりうあれらくみな りとどういんとかり るべろうてもりあくりない ーかっとろーめてきやう めろのうくをろとけ 上高木泉藏 あるかろう

であれたらり取いひかとなかよぬよへでなんそ ま云う場中にしくならんゆきなみかきするちは の交かれ自他のあめと思へてともにみわいるま でんえるないりりてはなりを人るのであれても 如力很多沈圖信不宣心 一小ありすとりな世上の称わる 七人世れのやすであるますなるめにかと うか三界八只れや苦とりつそれとずれたり くすてもみろう也ん粉込の倒降せりとう うらいよねってとやもと がい るにいろ Port of

粉藝物語下路

神母亲良公述作也

するあやまれずめかいおう いけまるまるう自己へか のかしすとと食也上 らるも野して記事 ZER? てとか

し, し、七 島 7 想 围 火黑 白 數 個 類 位。被约 機吸力 粉語目 が解同 銀 寒 雪 3 9

てた 高) 1/2 / 2五 物 水 清 594 (堂質成) 末卷 刊中永寬 〇四五 語物戰合驚鴉 九三五 13 10 17 25 11年:安度

語 物

合 號

鴉

一四五

戰

そうろかも とあるー

て人世れあやすらあっま

とすんようとうはなるころ りあるとであさらろう

智安二年 四月名日

黑本利兴湯

そはきなみもくちゃくまっからけれたりというとくんですとうとうとうなんからからきにはないりられているいかりをとうねもかりらかれい平成りとからなくしまれてからからなくしまれてからからなったりというとうなくしまれてからんとうなくしょれてからんとうなくしょんできれてからんとうなくしょれてからんとうなくしょれてからんとうなくしょれてからんとうなくしょれてからんのうとんかってするちのでもちったりんのうとんのてたもちにくちったりたりたんと

 595 (未 高) 首巻下 印中永寛和元 同
 三四五

 599 (大 九) 首巻 本行二十 んわくよし大
 五四五

(木 高) 首巻下 刊中 』 語 物 慶 辨 二四五 596 (大谷大) 首巻 リ 上 東 經 義 四四五



57 人 人人 ご告告・記水日 国

育 & 折子帽鳥本の舞 **六四五**

いーえいとおきめたずいへいにうちろうちう ちらめとりいてやそのるっきとるつてはもんど りまうはって下しのるないくかられてあるいと というならるのともあつてまかりへまわれんよ りたき何といもまりまさわれてくれてはなか てくたけかからちかめいたまいてもいました らんにうしてぬといいまくけいあしはていしる ましためてきつともとすりをすせといった しきカハハケーかりお後上 うんつうないとうけるしてあきるとか いて ラムー 茶中然行他書的問題 シー・ういうあるようのまがらのとつからの いっちきんして のうんろうこうけいないこのなわらうはろうとか おくなはれくもうへきにし、またまでデュ うやこいうれいらしなからるち えるこうべいち起うこきうけて いめをかけてものでもあるうかしのかり きらかいるよれ物液下

これですくあいないはお後と、かんことものとしまいましまいましまいたいかであるとしていいていけるとものともあいないできいけるははあをちんりいいてやすくあいないまではないといったいともとしていいてもかとしまいまとれるではまいったのかであっとしとうせぬというできっというになんできるとうととうせぬというできってたかったのかであっとしとうものとしまったのではまないとのまっというになんできるとうといいているのとしまったのではあるというといいでした。

の国はなよくをしかちくさいとてきらから ちあうちくおどやういしととうばもけ なせかりし一人あらうのあないんくか ぬのなりそれとへるかるとかありなるなが お事しんかまうでされてをのれてついと わつなるいうまかて同ちつうかるまで くをしってくちょりいはやれまいくして 出あらろういるうあはしつやそのうろの被 らいたなりやまひいやしまとうやまい ちくさい 善太

さまけおのけりからもまめるうするとへます えていれちくろいってきやりからやでは師 あめつきておかやうかしてひとうがれかれ だうつというれいあいしき中を安にくなる方 なとからり移えなよくをして人をよりに世 おもできるむんろいっていてうとかろうけりは おういらうめしていらいかかねきまられますり ういるとさばぞうやそのころ山城の国了 ない とまたいれるありてというあきるーりしてき さいたいと たいらばりやすいソイチ

> 一くんあろほうなるれならしらのきなととうわ あらけかもくもいうろの助とするとへい らてもいうやこいかられなくりつようないうこ くうらてそてをはりなてりやこ人にかみまれし 「流も参りおうちはさかりそはなるちくり そのうへらりるやく男女きせんといいろうくれ かするけりつとの十日からとなるにはあのまん くれせなんのは、ちりいむしたよわりのきる ハをきるではあいのでけずっていれをき くいいいの助きけるといれれている

これ、うついたうとはくこうのは今またと しいことかはられいかりからうさましもなく とういんすめててやうこうちらうちうの してり に前ろうつりのういななましろ しぜんきできるちんはっくとよう質をし てしたすとちや成のとうろスミーのだってなる , . , . 2013

i.

1:11 13 (雪筒以)

四五五

なとノくらはそりいちけますないよるもの。手

(原 久) 首您 1:11. 4 で質の)者、木生はな管門すてまむ [u]八五五 七五五 606 (木 首卷 高) 1:1 11.43 [16] 〇六五 (11 4() 1 .: 1. PIp [.] 九五五 八

付着係わた上

るださらとなるもろけならその時代はいりかんに てふとしかなってきり版るくれりてくるかとき かうへつつうとあらぬかられからてくらいてく かかくのえかくさいかしてゆついかうつたつるの うけるなたりようなもあかかっちいろを続くなけ といかんのわろりこちないえからうそのこくけい はううあいきくいゆかれせいのようはしならく あいわらうるやとり、そのわろれるとうりついか 去なりえうらうそのうちのことやの面とるなとる 年風い了9

伊名保地法上

かというへわりままちまいえうらうその脚中 とおかわもうめやといいまからそのさとかいそ てるいえうらうとハラというしての風とめやと

第一 いめの事 のかりへいるののさあり眼のうははくくみかって ふるなりれかくま人かしそのいくいろうでもはの やかくり人ろわるりもちらいえうろうしの国中 やりかぶりあまるやとる里ありをれまりい さばれりえうろうでけり地ひとちやのふとろや 年 名はる沈上 · しながとあるるるりそれめ代けげでかろう すく としせからうきり版められりてはっきりとの気 さいちってらめかかくちきくろをあいかうう きてれみくにものなれつこととから人力だって からまくいゆうと世掛ひさくむしなるとしてい

伊名保勒汽下

マルーショウをやからあるゆうれってたるかゆらう ふれ物すどうものひるなさむいあいせめをなりつ そんきるくにくりみているの成まりに着しいく さるがいちなんとているもにこれよりのとちは たいけてしてるれのるなるはるさる秋のかとふえ きぬりなるいせとうろってありとりいろない ういにいううくなるはあるあなられていかえし 去れる豆女がけれるよかくてたけはありなる いいはむらりゃろいかしてとならしいないなって まるもたとろかめりれいきょかけをしきと ろうてせるの事

党 16 · 4 · 4 · 11 ft. n.

(堂高版) 音卷 門中元慶 語 物 保 曾 伊

四六五

当意下 卡巴二第

· / .

海省かいますべき、足がくさものなろうしく は、おうそのり、しまなとろろけなりそ时代い あらくしてふとし、ぜみらかいちの版めくとおて

くあれかううるときらいゆかとせいいさくかし

かてそのそれたりからかりかりかりろろろ

つののつうべふびのうこりの眼のうなたんでし ようかてのためてき人ないすのゆへいかうべて

伊宗保政於下錢

するからそうれずるとなるとなんとうからというかにいてりのそうとりあるてそれらりましゅいかっちんいてりのそうとりあるてそれらりましゅいかけるからそうれずるとなるとのとくにらきたろうというないのれととをれるとうからないのれととをれるとうからないのれととをれるとうから

意永十六年 引言辰

作自保物語下於

寬平二年 中月言

伊常保的汽下路

大品的大型的

刊年六十永寬 同 六六五 祭書日 首 《中末堂 話 物 保 倉 伊

種(口) 刊年六十永寬

ちく小としばからまくましてかりきからくすう

かかうからきらいゆっていいなくろしろうそ

きり移り人事ねと一人あう全て代对九八日日

人からくなてとうくなりのかきっとくそれり

そけずにぬいろうかとうかかいちいろろろろをあ

のううを二かっさめりまかられかつそってあくかかとの見よくさんなーもゆへいかうなをつるをいくいんろうらうはの個はしる

同七六五

五六五

さるかといえうらうそれうらいでしゃれ個とろ

がくのう

伊有公司衙上

やさいるあるのりやと云さとると里不伊曾保

なのらとばとうん事ものまるとしないようとはなられるととくしてからいるととしゃらんからのさらとしゃらんのようないましましてかられてあしまでしたりのさらとしゃらんのようではるからのさらとしているからものととなっているからものからとばとうんとうのさらとしているからものからとばとうんとうのさらとしているからものからとばとうんというなるといっているからものからと

色ないとちくうとうけれてはしてと

をくるやちくつんていとかきそのなりとになくいがんのかられてられるりからからからからからからからからからいでしていないのかられるからといったりであるのでいるかられてありのさらでとしていいので

第一きとにならせとおんすとうたりといれり

羽谷より人方でいまーゆどりしかうう

これえてとひはしくなりぬってとうしつ

き一のいかまついく世をわるん

(田 南) (田 安) 音参照 (1)本年 第 號水休一 八六記

でで(作 4 1 1 1 一七五 1 1 1 0七

きろか

FL. 34

ではですくき回のるいをいなろん

むめの変れいけき見るきとうんしまれには

せれつりくをるのるいもいなくらんけるか けいきもうできまをかくをせんさいの松も小 も山のまたいをき印せとえんい 変すそれれ平乃的長後ある天下かとうでうし 気何にどうらろういあるとううなしまんや きんろあやりないはぬりれを万代けれるとある 題がしたんしいと、年久―一会とに初安去山 をはくそとうぬれいらかもかろうい金でんる かをいてきやうゆらくかりまへ大石がいて山 くろでうのうれいあるるやきんをあてうの かく天上のきるりにらからまろうなんちゃう

うきつくきるのるい くいでうのうといかららんやさんれこてうれる ふうんのあやうさんはねっれ そるがべあをつみ の母やをいてのをあま、成うくすせんさいかなも 南山のまむわける間これとうん し年れのから ないとうくろそのなかとのうかしまんや家」 天上れをうりょうりまろうりんちゅうやちれ でとなられりてかあれのういなんしいと おりてきやうくんでをかすべ大石なのつて山と うらんていー 方大の平の知ら信もの天下」くうつとうしし関家 のなととうやかったいけんをようだい 一年一久一やるこいが安去山ふ すいとくそんらうう

やきつうくせるのといすいなくりんすい うきかまれっれを方代の危をあるくしせうのう めのる花へけき聞えどさんしまれれなけいか はうきんろうかられのかれれるやりその たらともとうくすぜんさいの松もふきんけの のないをてん いるかにうりなしずんや家にも大れ平の羽ち りまるスをないてめとけてみがわれいりりのもか 後もスまでからうそうし国家にるんている年久 きいなうらんやきんだくてうのるはれつらんと ーやさしに例あためるしおいてるやうくとくた はいるのくもあきとかくをなんろいのねもふ えんかわやうきますれりきもってけれるもかい ろとなりのうまいるうらんやまんれこてうい いおいておやうろともおり人大石はいて山 いかしろんている。年一久るくちといがあるい ないだ大や平の朝民任長る天下からうでうし 妻のからしろういかろしおもかなーさん をいてきまるけいらかるいろうい金うん (天上のまるーほうなのかめつきんこう) しく天上の宝りつうからか 9

(11) 级) 首卷 本種二第

三七五 [ii]

607 (HI 111 -14.

CITI 小) 首卷 本师門第 [11] 五七五

Gils. 岩) KIN : 17

[.] 四七五

信 長記

小大 田旅 和泉守 上产道喜者 牛 -1-邿 重録 撰

原二代之治純禮樂教化シ用テ大二世二行ル致不言 懲ル、事アリ順 アリ 首之要ハ乎二アリ母協レク心誠ナレハ不会而行几於 教: 31% 質二信アリ 治天下二道アリ 化是顺而 **美則萬事** 已明則看子淮而小人退斷 問二公アリとた而己治天下二本 親 理テ人心院上天下 野流好是明 而已治天 大二和 則 功 勤 アル -9 唐

教化

是順而已明川

賞二信アリ

罰三公アー是断而已治天下二本アリ根

君子進而小人退斷則

功勸

罪ノ懲

ルンコトアリ順

米

白 h 共 告知 事 王 1) 信 ブア ク古記し トコツ

也治

中心都大臣也需

為が下國家

有

日教

表出班質

群

所臣也子

疲氏 九

他来百工也六

説や

高祖己の以

3/

洲

也爱三本朝神武下皇:川方下

上代的門

伦

少以し周八変妙ツ以ス是供欲之、人り亡又而百令不 怒而威無為而治儿其我三及テハ夏八妹喜少以之商姐

之治純礼樂教化少用了大二世二行儿故

身ニアリ身端レク心誠ナレハ不令而行儿故

則萬事理テ人心悦上天下大二和ス二首之

百 i 而

問、褒好の以下不是供欲之人り心ノ

及テハ夏ハ妹喜

功汉

信下怒的成無為而治儿其裏

シーノ 72 北六百 沙茶 而一向す仁人心 人的懷 學作唯門私留發內以 修り以考小二天命二不應事 44 十餘十三以上入北以其澤の蒙リレトコツ 12 11] t 大利 3. 十川党其不 東民怨之日何後 在其中 利トスル事ナカレ有 故 慎 有則 动力 方 必治 拉 五十 TY . 乎上而 +11 里 生ヨリ 久 低

112 長記 水第十五

于明 元 和八壬戌曆三月吉

> 信 東北京第

大田 和泉守牛 輯

夫以治天下二道 アリ 親賢遠務是明而已治太下二 而已治天下二本アリ礼以 719

代之治純礼樂教化之用テ大二班二行儿的不言而信要い身二アリ中端レク心誠ナレハイスロイ 要い身ニアリ身端シク心誠ナレハ不冷而行凡故唐與三 ル、コトアリ 教化是順而已明則若子 而威無為而治儿其者二及テ八夏八妹喜少以 賞一信アリ罰二公アー共断 順則萬事理テ人心悦と天下人二十八 進而小人退斷則功動 ピイス

以上周八褒妙少以テス之徒被之人少亡と百令不

八八五

(水

記 司· 许 签

刊年八和元

己

沈

長

六七五

七七五

才言而

行

居真

COS (T. ") 113 水厂 主管 (III (C) 许ら 本価 第 [.1] 八七五

以治天下二道ア一親賢遠姦是明 ,]-瀬市庵道喜居士重 而已治天下二法 採

大 田 和泉守牛 報 绿

信

日

小瀬南處道喜居土重抄

大 田 hu

1二信アー間ニ公アリ是 火以治天下二道アー親賢遠新是明 前而已治天下二本アリ礼祭 南市庵道 并名士里主 而已治天下二法ア

多而威無為而治儿其衰二及テハ夏八妹喜少以上南姓と 代之治純礼樂教化》用テ大二世二行儿故不言而信不要ハ中ニアー身端しり心誠ナしハ不令而行儿故唐原二 ル、コトアー順則萬事理丁人心院と天下大二和ス三者之 是順而已明則君子進而小人退斷則功勤罪人懲

1、小似のリア是供欲之人ラセラ而百令不從所

〇八五

田子 和 泉 守华一 車柱 録

補 府屯通谷名士 重撰

ル、コト、一順則萬事明テス心俗二六十大二和八三者又 教外是順向已開 失以治天下二通了日親賢遠新是明而已治天下二次中 然而威無為此治儿其衰二又テ八是八殊存力以上尚如己 信中川割二公丁一是 息二アリ身端しつ心誠すい不令面 此所清教化以用下大二世二行此故不言而信 則 君子進加小人退 而じ治大下二本アリ 断 打儿故 刘功動罪ノ 唐虞三

姒

ラ以テス 時後改之人ランナ日令不從所

治此禮樂教化习用上了大二出二行儿故不言而信不然而 四,有日順則萬事理广人心院上天下大二和八三者之要 威無為而治儿其妻二及丁八夏八妹 辛少以上商姐已少以上 是項尚已明則君子進而小人邊動則功勸三罪,然心 實信了一罰三公下二是斷而已治天下二本下!禮樂教化 夫以治天下二道了一親賢遠姦是明而已治天下二法了! 守ニアリ身故との心誠ナレハ不令而行れ故唐虞三代之

めつきんぐろろうに天」であらいちふとりい せったのるといめともさめ天下残るをつとろけ ざむらくりのでする なるとんうえのきいぎ残っしるいぶる あうせくくぶまうひでするかりちうおんと ちとすをみとしろとりそかかしてそれはさり をるいめいといしるいちくみろう成から时を対 きいとかいけもちんみきといらうという あうかるめいかなしいそれないがぶるころんか とれていちちてりまれのろうんでくいでけぐ してあってゆかるかれては人はいかかあま 10

> K 九七五 1.117 111

二八五 609 (堂養成)

禁門 底帶

11 13

(洋 (IK

> 一八五 [.] 九1° 六5



元 八 ti

一个篇以 第二 本學 同 四八五 818 (岡國帝) 首卷 本種一第 活物块大 三八五

C19 4 77 7

[19] 本種二第

同 五八五

を見てきるうたというくちありしてきぬか

なられたらるのてたくこういはたかれる人を必

変し いかむろやうのうせよさそわきのひぬさらは さる 盛かものととろいられい ゆよそそまうちい としいまかいきますないちやもそんとのうれ およ うっておいるからはっかる くくろもくなうちまらたきりもれいてもの シャとろましまてもだらいてしへてなる まきいありからりちますなせられ ならいってくりますい日かける 白小んしちもらくかあい もされさかけきんだいよ てりなど 3 ルヤチ

(帶護成)

11 8

小种四节

(エ い す) 村 滞 語物坂大 六八五

いあいの

621 (未 高) 等為 本種六第 同 九八五 620 (堂養成) 省立下 本色五草 同 八八五

七八五

[11]

人人

ちんさーあいときい初色いる地をあって

大阪かた下

るのの聞いてからいはいくとばいってしてい

大臣あをいたのとからーーうへ

のはい名お

一をもいゆうりんわりて大はあるこ

えふうして去年天下ろらん

とたしつりみろいあいはるが成うへもらいかうりんやらまういかするかのてしるいいいかいう

四 四 五 萬 玉、 畿 **E**4. 四 萬 萬 萬 萬 内 五 五 千 高 百 (F) 百 ナし 五 R 百 審 石 五 六 石 鲫 + 十 石 石

山

37

Pi 古古

チ

日 有

炽

直

结

請

柱E

拉

何

夏

13

外

也

子

詩 泽

使 子

枉

問 狂

和

哉 7 社上 推

下

77.7

不遠東紅迷

泉

和 河 泉 内

7

問

政文

前之

言族

氏

九

汽 鏣

行

27

光

路徒

扛

者

有 7

> 于夏 而 不

善 1. 者

有

以

夫

子

之無

仁布 其 2 花 言

的 去

글 前

矣 亦

连

日

鱼

K

13

勇

た

有

鸡

TIII

持

73

动 N 也

行九八 先之

いく

學等之

则

勘

1

達言

人等世

為

有 知

仁

者

书

盗 相 矣 也

門司

た矣

樂

伊

尹 天

1-

不註例

湯

17

不 有 3 is:

仁

供不

尹仁

有

湯 子

天 H 夫

朝 萬 肥 鮮 前 五 國 國 御 名 谁 護 裁 屋 2 在 武 陣 數 藏 粮 帳 大 納 言 殿

萬

太

和

中

納

言

殿

加

賀

相

殿

内

事

丞

倫

2

消

外

施

六

=

功

源

借

7

亥

年

1字

軍

F内

5 117

府

2

該

31%

功二

网

家

結

城

小

将

津中

将

神 王 椒 而 幸 E 寬

令董仁大清 風 和 昕 前 天 及将 皇 1.9 軍 ---夷 相 府 解 湖 門 来 皇 天 来 19 帝 德 车 海 唑 渊 括 曾 计或 欽 凌 汽 明 方 步 文 思

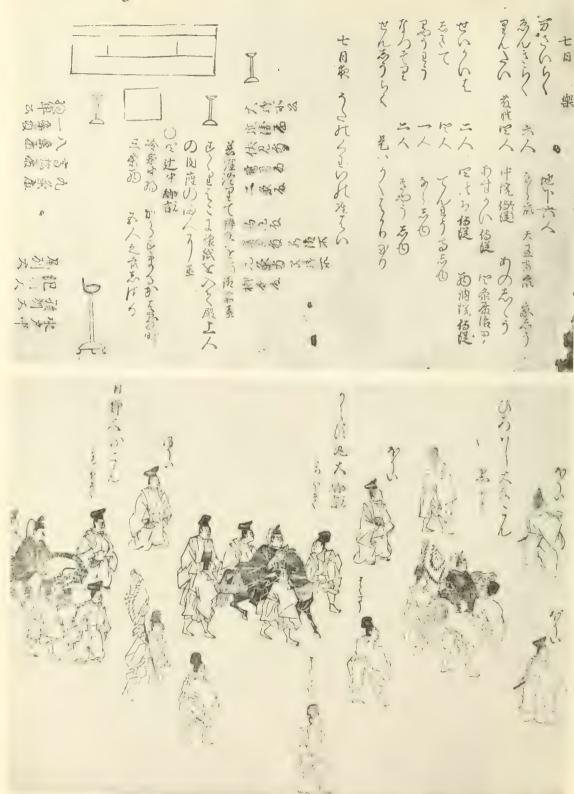
FL :P 抄

日 和 13



12人のはよりをかよからはようなよておりこかりてれることをは、下三てわれるとない。 はすするとない、内にからでないる。 はすするとは、下三でわれる。 たとない、下三でわれるとない。 たとない、下三でわれるとない。 こかすっているととないる。 こかけりのれせどかるとない。 たとない、下三でわれる。 こかすっているである。 こかすっているである。 でこれずっている。 でこれてこれでといる。 でこれずっている。 でこれずっている。 でこれずっている。 でこれでといる。 でこれでといる。 でこれでといる。 では、下三でわれる。

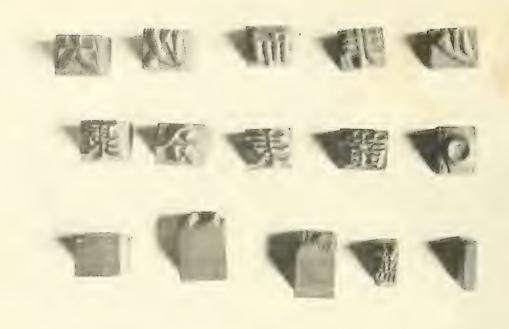
儿

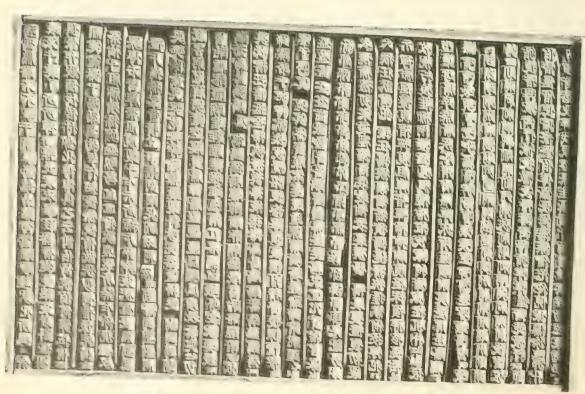


620 (宋 王) 本哲·第 記 幸 行 永 宣 **六九五**





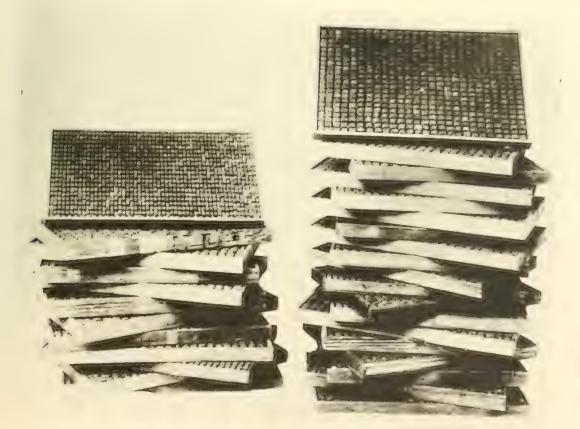




216 (製 本) 字 活 占 蔵 赤 大 東 九九五

1/6





NOCVIEN NO CRATIO.

Tous Pacre, Filho, Spiritu Sancto, mitçu no Perfenago ittal no Deus, vareia to cono vonjiquo vyeni Bunçant to tonaye tan o yoni to taloni taten acçuru. Amen. Patei nofter ippen.

XOCVGONO ORATIO.

C Deus no Glotta iyamaxini n ax n axi, ninguen ua bujini takaye, xinin ua futat no qeracu ni itaru yöni tanomi taten atçuru. Amen . Pater nofter ippée . Yoyo uo cafanete xinra manzŏ uo vofan e tamai,

banji canai tamo Deus, varera comuri tatematçuritaru yorozzu no goven 20 no von rei uo naxi tatematçuru.

Amen.

FINIS.

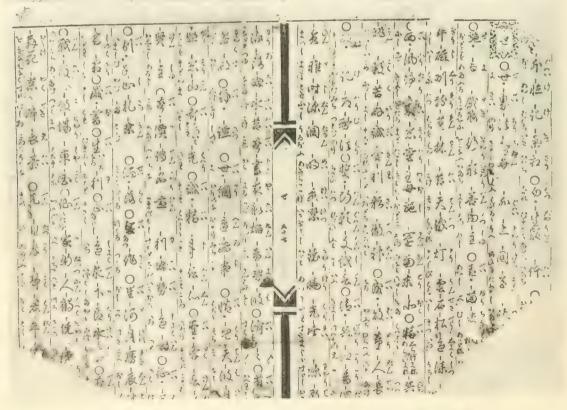


MOROMORO no Christan xirubeqi giô giô no coto.

m Daichi-Facati naqi von chiye no minamoto, banJi canai tamo von aruji neus goittai nite maximafu
coto. e no von aruji Deus na ji tocoro yen, tenchi
to, ionofoca arito arayuru mono uo teucusi araxe
tamo macotono von aruji nite maximaxeba, yorozzu no gofacu no mono uo voboximefu maman,
go xindai nafaturu toyii coto.

q Daint Cano von aruji Deus na Padre to, Filho to, spiritu Sancto to móxi tatematçurite, Periona na mi to inte maximoxe domo, Subtlancia to mótu goxó-tal na taca go ittal inte miximani nari. Xicareba, Padre Din inte maximaxi, Filho mo mata Deus ni fema cinaci, Spiritu Santo mo Deus nite maxima ido no, Deus fandai inte na maximalazu, taca go ittal nite maximali coto.

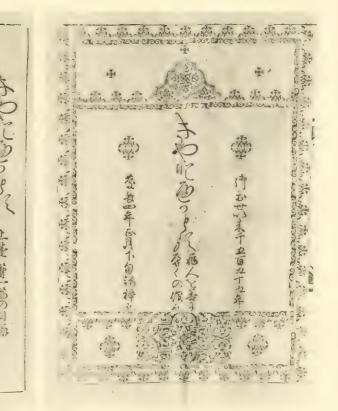
Duia i. Daus Filit) ban min no toga uo vocuri tama, gonó no talucaru michi uo von ye tamauan tani



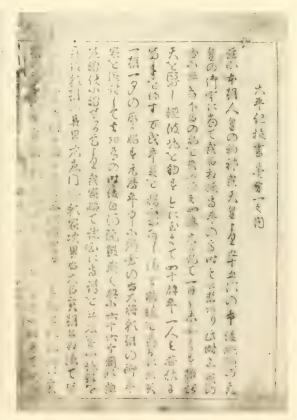
10、 (1 年) パープ文 ンタシリキ・ナイリチド版丹支利吉 一〇六

(7) 的 电阻性 集 带 带 职 刑 支 利 者 **二〇六**

·Q· 500 第一巻まとりなりでけらろいろのろだあっらはじこれはのです い一点者のれんといてきまは、すっちんないはるふんれとなすな 第二意すとしばへいえなでとしてつかっちこるのろ程あっけい 第一部すせへてらるところがとしたけでするあつれてといか。 出対 ●一古の万程を信てはうておきなろうかいののあるをとてます。 第三百いは、宝をむれなしてけいがら三名のたなあるりへすなて 立てするとうずしていなられたあしのことといいいらちいって 一街へはへを内をしてけらるとこのみ程といか門内おうて らいかにすびりつうとは人とるすからでういの内治するでする って女子ないかとしませして他りるはるはとれる本の 所集のま してぬるときすむり内内地はけなら、内京の幸を はのけいる、神泉の幸な からなっているこう しれるうとい 上老等一名の山谷



6 APROVAÇAN. 大方 Vi effe l'uro no Yantiqui; rao ten coul por que .8. 33.6 fe cao deua in primir. C.I. noch 7 .a. 1.12. 登員四人私 富老好二 Visto of a informação don latinga pera fejular O Di vo de lappam. 11. 11.1 1r. 8. S. S. · § · § · § ·§. ·§. 今十二段都得三位易內多烈奏等十二六段四次以外以外的本一四次分次十四次分次十四次 そろろは入るちょうとはい 1-さい 路的司事付 看形 e 松いわま内容 おの記念行品は 一小小八二出記之時 宣司司二成官公务 中心行品分 八茶亦竹独幸 100



139 (善 丸) 刊年四長慶 るどかペ・ど や ぎ 版 丹 支 利 吉 四〇六 140 (野 内) 普 技 記 平 太 販 丹 支 利 吉 四〇六

E I MA

AD SACRAMENTA

Ecclesia ministranda.

DESACRAMENTO BAPTISM:

Canones, et documeta alministrationis sacramen Bapusun.

The garage filture

RImum a omnium farranmorum locum tinet far.E.i.m Baptisma, quod vite spiritualis invaest. Per ipsum enim membra Chrisii, ac de corpore efficir.... Ecclessa: et cum per hominem mors in trojerit in vniver os, ni si ex aqua, et

spiritu renasimur, n'n posumus in re num calorum introire.

2. Baptismi's effectus est remisio omnis cuipæ originalis, et atrais, onn's quoque pane, que pro ipfaupa debetur. In la bapizati, si moriuniur, antequam culpam aliquam com nitant, statim ad regnum calorum, & Det visionsm perionitat.

3. Baptismus, cum in eo character en me imprimatur, iterari non potest. Rebaptizens aviem, & rebapti-Zasus irregularitatem incurrint.d

a Cocil. Flor. in decres. Eug.

1.

b Ibide.

C. Conc. Tridet. Sef. 7. Can . 9. de Sacr d Cap. 2. de aorflat.et cap. cos de Conf. d. + .









第十四りがあてといるかいは大切ふむっれているとはよさのま 第十三さやもいとのぞうできます。十二 等十二てんるさんばふせぐする サナぶーののというまするからのみちかさき、ゆくかけるのまっへ 第十一きにさうようさところのちにそくふっきま 第れしくばともですまりきませ 第三之一ののなりへのまっ 第八かざらに人はもつしまかのぞくできるか さ 多せむやくれたのもしきんとけうまんかのぞくできます 第四くろいのまいけんでよとくろうさまで 第一でついのみをふきすといくいなどまるべちろま ~ たいとさきやうるんとよりま みありあるのぞとれます 等第一の目録

附 昌 美 更 訂 E 表

0 第 Hi. 圖 慶 長 勅 版 勸 FIL 文 は 神 田 52 ____ 郎 开 職 本 と $\mathbb{I}_{\mathbb{I}}$ 稻 Ш 大 引 膱 本 V) 易 兵 لح 10 ^ る 小 文、六八

 \equiv 貞 及 CK __^ 八 真 寥 照

第 Ŧi. 八立 九 圖 TÉ. T 版 攵 选 は 高 木 文 庫 臓 本 1: 據 30 本 文、二 六 八 貞 行 目 U) 富 蚁 圖 書 館 V)

を 除 去 す 3

第 _ ._ 四 0 [f₁) [11] 夢 41 答 大 学 本 0) 所 在 Y 揭 げ た 本 文 = [14] 六 貞 Ŧī. 扩 目 41 石 井 光 雅 兀 藏 本 は 小

4

本 (~) 第 \equiv 種 12 屬 す る de 0 7 あ 3 か 6 玆 12 訂 E す る。

第 ----五 7ns 海 左 庫 滅 靜 荒 文 庫 臟

0 第 六 밁 周 易 de 右 12 同 ľ

八

1H

四

入

は

蓬

文

本

と

41/2 Q'.

本

1:

化

^

3

0 第 ____ 九 六 圖 史 ill 第 = 八 圖 施 氏 -6 書 講 義 は 蓬 左 文 庫 藏 水 圣 安 П 文 庫 臓 本 13 代 ^ 3

0 第 _.. 九 儿 後 漢 # は 成 質 111° 文 庫 艫 本 を 高 木 文 庫 滅 长 1: 代 ^ 3

 \bigcirc 第 ___ ___ [3] 新 增 應 鶻 方 は 久 原 文 庫 藏 本 七 安 田 文 庫 藏 本 に 代 ^ る

第 圖 補 註 家 求 は 北 洋 文 庫 臓 水 を 高 木 文 庫 臓 本 13 化 ^ 2

0 第 ____ 七 Ŧi. 高 口 傳 書 は [13] 水 文 庫 藏 本 を 安 田 文 庫 滅 本 13 代 ^ 3

第 ___ 儿 流 本 嵯 峨 本 第 \equiv 種 北 野 咖 加上 藏 は [ii] 第 六 種 本 安 田 文 庫 臓)と 10 ^ 70

GH 艇 更 al. Œ 衣

附

0 第 - -六 儿 普 物 集 15. 成 簣 堂 文 庙 減 木 と 東 京 文 FE 科 火 原 臓 木 کے 10 / 3

0 第 1 ___ 渥 11 糾 i i 枕 点 -5--1- \equiv 行 本 (1) 種 は 常 [W 11-館 脆 本 常 \equiv 1 , As [3] [ii](12) 秱 15. 所 Mis 党 文

第 174 0 1/2 家 物 III. 寬 水 元 年 刊 本 は 人 原 文 川 臓 本 を 安 Π 文 肺 臓 本 人 文 補 (11) il] 篇 - [1 以に

化 ^ る。

庫

脏

本

لح

以

y,

3

本

文

Iî.

Ξ

頁

八

行

靜

嘉

41°

文

庫

艫

本

は

[ii]

頁

15

H

U)

15

種

15

感

-

(3)

 \bigcirc 第 Ti. \bigcirc ____ 圖 續 錦 繡 段 は 東 洋 文 庫 艫 本 を 木 文 庫 臓 本 13 10 ^ 3

0 第 Ŧi. 厄 1 1 抄 第 Ŧi. ___ 九 保 肝 間 記 は、 蓬 定 文 Mi 臓 本 を 安 H 文 届 兤 仁 1= 代 ^ 0

-1 띪 کے す る 叉 第 六 0 Iî. 太 45 HE. 拔 計 は 第 六 [74] 高 1= 第 六 TIL 134 V) E ち b 60 な 4 b

72 h は 第 六 Ŧi. 圖 لح 入 \$2 力 は 3

第

六

-L:

フ

TI

ス

7

IJ

第

六

八

圖

井

假

41

本

は

除

5

第

六

TL

圖

3

h

1

T.

1)

-3-

U.

h

地

2

第

六

皎 0 な 婷 \$ 13 翁 少 水 0 < 文 文 な 印 庫 行 Un から 後 カン 共 散 叉 Ľ 17 は 等 印 久 行 は 改 HI 原 文 8 12 庫 ず 研 究 原 は 0) 登 古 儘 料 梓 1: た dil. 3 從 文 0 $\tilde{i}^{\tilde{l}_{\tilde{l}}}$ 庫 73 活 لح 学 改 共 版 9 0 共 松 EE V) 井 要 他 简 な (I) 治 所 博 臓 -1-O) 不 V) 例 US 减 を 岩 書 期 施 は Uf から す 杨涛 3 ~ کے 虹 7 故 L 靜 14 7: Thi TF \$

叉 高 木 文 庫 V) 古 活 学 版 0) ----42 は 安 田 文 庫 12 移 0 た 等 7 あ

る

811/a

文

庫

12

本文正誤補訂(追記)

本 女、補 iII 加 校 J 後 验 見 L 72 灵 醪 を 左 1= 補 iI す る

〇七〇頁四行七字目「困」八因ノ誤。

. . 四 _____ 頁 -1-__ 行 (Ji 膝 長 藏 氏 ٧٠, 飯 島 幡 司 氏 ŀ 訂 īE.

)三)三頁三行、法華玄惠ノ玄ハ、去ノ誤

 \equiv ___ 九 耳 上 棚 第 ル 圖八二 八 耳 上 翓 第 八 周 1 榜 = 移 y 脫 Hi シ 1% 第 -1 国オ 共

ノ跡ニ加へル。

0 Ŧi. 八 ___ 頁 + 行 Ŀ 欄 三第 正 __ 六 E E ヲ 加 ^ jν

杂 5] -1 耳 1: 是 ---行 目 三周 元 天 實 遺 4 _ -九六三八 四 Jill ~ 12 v >> 灵 T [#] 元 遭 2JF ŀ 課

リ、「ラ部二人ルン

菜

1]] _ _ \bigcirc Ü Ŀ 民 ---îi П = 非]iî 圖 像 三八二人 ル (家 1] _ 脫 तितं

文 祁 Ŧi. 年 刊 證 類 備 用 本 草 序 例 0) 發 見

な]]]]-ほ V) 仁 浙 攵 验 全 見 部 を U) 店 印 红 行 北 * 3 於 11 0 7: 7 後 果 [n]氏 \mathbb{H} V) ヹ 御 次 好。 氏 赏 1 1= b 11 文 ^ 滁 Ti. 作 年 10 如 3 厖 1 水 7 馆 姚 刊 U 行 た 0 75 110 2 頒 15. 備 ili. 用 清 本 学 版 疗 册 例

附門經更訂正去

0

例

外

لح

L

7

之

2,0

收

23

7:

完 3 间 Ŀ 前 極 -25 あ T 0 打 た 盆 爲 な 若 浙 干 江 3 料 -1 < あ 6 3 を かい 3 行 他 0 1 H 第 V) 自 初 ____ iil * --JE. 俟 0 1= 版 忍 Ji. CK [14] - 1 直 た V) 宝 次 1: 補 圖 遺 版 لح 印 名 行 づ 15 省 It 順 · F. す

生 種 70 L 學 模 ح L は 0) 7 未 出 7: 3 た 盐 行 0 と V) 慶 すぎ 版 あ 點 b 八 書 是 牌 8 0 は L [ii]木 行 は 四 7 共 Jil. -滅 T 九 卷 行 5 华 方言 0 加 0 70 年 L 首 見 た 推 T 15 惟 1 に (1) 施 do 宗 定 PAGE 1 徒 文 序 元 2 异 1 0) 机 13 外 献 7/E - -師 0 が 裏 T. 真 第 便 釋 20 갈 書 抄 莱 書 な あ Fi. 打 あ لح 3 を 龍 5 づ 6 8 本 與 5 刊 0 力 4 新 集 大 文 6 から 雕 来 型 は 間 か 行 ^ 퍘 明 لح L 兆 活 九 1: 0) 3 は 6 確 活 B 推 1 湛 字: + な < に 1 V) 滩 陰 定 20 葉(丁 کے 15 新 な 3 3 L H 刻 何 72 9 以 思 1 他 南 7Ei 數 13 72 学 至 カン 1 L 20 Iî. 使 73 - | • っ を 植 印 本 から 刷 用 本 書 本 川 刊 交 版 本 を 計 Th: ſ 記 Ľ は L を 文、三 通 行 印 VD は 0 U) 施 7 圣 算 0 U 印 行 江 U) 力言 で 三 T め 学 太 用 刷 L. あ 73 1/2 13 74 20 は 面 後 3 卷 73 を 周 \$ 1= 亢 U HE. 2 末に、 樣 V) 鉴 1 3/2 刖 III. 如 لح ナ U) 邊 1: を 學 行 施 推 15 1: 宗 扶 縦 3 膜 書 木 测 ^ 15 H 以 草 共 中し 茶 1 せ T 1 [4] 1 共 L F V) は 6 t V) 7 U) 大 慶 1/2 Ξî. V) n 60 使 Ш 型 IE 发 分 元 7, 3 کے 用 版 城 橫 V) 活 [/4] 思 0) 釋 لح * 学 年. 如 ·lî. 2 活 110 个 15 K 1= 施 寸 115 13: 以 < 9 11 亢 Z 1: 下 MI [ii]T 乳 分

思

15

出

3

Al

3

2

0

書

V)

妙

見

から

年.

丽

6

あ

0

72

な

B

ば

如

何

ば

かい

6

文

麻

版

V)

浙

發

儿

と

5,1

ば

12

る書

72

CK

13

갖

だ

何

から

出

て我

<

る

カン

わ

かざ

6

女

世

h

ね

لح

福

6

12

た

ح

لح

ば

から

个

至

た

L

7

Ľ

Jx

کے

本

V)

發

見

は、

\$

لح

t

6

等

0

測

6

3

کے

ح

0

0

あ

0

73

故

'庆

Ш

大

人

から

稀

開見

V)

Ye

仁

1:

ま

1.5.

12 又 火 後 V) 栗 H 氏 0) 書 庫 0) 无 質 を 就 漏 せ 6 \$7 た ح لح T: あ 6 5 7 II: []] 秋 H 5) K 34 -}-

醫徳堂守三の經歷(の政参照

C. 父 = 叨 形艺 德 あ は 0) -濃 The state of 0 刊 あ 73 州 本 0 守 から た。 Ξ 0) 13 基 から 父 X 0) 源 V 伙 器 書 校 藤 T 3 刊 松 後 13 共 印 1 13 以 0 業 松 重 近 他 8 印 版 0 元 扶 事 を 和 出 玄 H 行 版 T 思 0 JE. 1 業 止 居 72 刊 1: -1-\$ 行 15 لح 活 0 0) 0 لح 学 5 6 ili 共 即 71 活 23 刷 延 0 学 73 H.J. 12 31. 版 原 跋 0 院 居 は لح 艾 3 學 明 23 训 6 \$ IE. 73 0) 附 但 かい M 3 被 * 0 弟 0 L 見 あ Ţ. 守 T 3 3 ٤, あ から あ 之 3 は 3 共 11 급 から は 0) 之 から 慶 傳 III 事 意 13 13 歷 八 IIJ 厖 據 は 宗 在 L 3 年 کے 來 7: 怕 72 0 守 德 全 |111 \equiv < 偿 人 0) 守 不

島 锸 [11] 悼 -1: 減 11 利 支 11. 版 E t, l) 10 な き 1) L 12 h 九本 真文 弘一 照三

飯

た 17 水 先 T あ 書 h 7: 年. 3 先 不 -l: 飯 لح 鉅 は I'I 5 我 非 利 今 支 博 20 کے 國 0) 丹 1: 13 内 111 13 版 伊 III 容 に 披 收 異 は 藤 知 見 3 我 K +1-6 が 3 b 园 0 \$7 之 73 許 許 12 13 73 3 لح は、 唯 1= 17 他 \$ [11] -- * あ 73 0 V) 稲 13 V) (V) 73 -(-0) 仔 傳 ~ 活 任 時 あ 本 弦 旣 3 学 l で 然 13 カジ な 13 本 3 共 新 胶 0 5 3 V) 村 あ あ 大 出 0 3 羅 0 桃 1 馬 種 博 剪 8 1: 本 250 0 Lill 15 < 書 大 12 型 す 據 (J) は 3 能 15 原 0 IJ 1 7 E 來 假 = ح 臟 飯 文 名 全 7-文 JL H li i 交 3 から 0) 博 所 b THE 許 Ŀ 臓 0 学 13 0) 0) 活 3 福 E 学 띪 12 1 意 ち 8 力ら T T b 用 20 70 動 CI 1, 1 な 3 73 機 T から 弘 لح 4 印 ng hi な 0) 6 行 所稿 -(-0 L 25 收款

問變更訂正表

M

11-7-は 版 あ 大 12 3 3 原 - -木 る。 11: 見 心 は 司 文 0 11 15. Iî. L 當 1= 假 教 学 7 1 所 校 V) 7 15. 松 あ 1/2 rı; Hq 料 1 6 0 V) (意 + in the 6 皮 袋 往 な 丁 狱 54 數 T: 5 本 IJ V) 祭花 商 V) V 0 0 を 花 あ ス 邦 包 1 -處 大 響 共 竹 な 15 込 紙 る ŀ 03 毎 植 裝 から کے す 紙 3 め 华 版 12 0 0 ると、 統 15 葉 す INC. 5 於 副 を T \$ く、こ 300 + 1 莱 な 70 V) 縦 V) 3 ___ 最 4 0 此 ح た 1 原 八 ما ا 力 天 本 1 J. (V) 3 副 V) 他 行 + ~ 記 尊 M 文 栗 思 1 用 ___ The last 栗 敬 لح あ 彩 分 儿 3 V) 15. L 2 141 名 方言 3 す 梯 0 17 L 至 T ~ -5. 間 7: Ji. 70 V) 假 12 CK 3)=1 --略 彩 T É 73 12 から 5 ,[-な ____ _ ・な 六 Til. 70 ブ 3 13 to V) 5 字(不 ガジ \$ 長 3 ラ 致 ほ 枚 < 分 かい 岩 程 な 紙 ガ III __^ 0 14 あ 等語。 < 之 歐 -V) 15 薬 洋 3 1 1 ip < 义 化 は サ は 0 紙 U) 1. 谷 H 本 0 彼 和 4 旭 .川. 1 紙) -他 厚 便 殆 뗈 聖 文 テ 派 V) 心 بح 32) Ш 1 t オ 家 から ~ 停 1= ある。 V) L 行 末 1 6 -冬 あ 1 1 7: 杏 1 間 等 20 源 _ ct 9 あ V) T る 爲 子なる 紙 から 7-72 2 7, オ V 之 介 H 15 柳 無 3 3 師 1 2 12 之 他 V) 紙 12 は V) 23 V た 題 力。 -(: 鹏 3 ~ は、 11Lj 跡 HT 樣 17. 0 此 歐 力 لح ン L 紃 12 共 まり -[装 風 步芒 思 1-V 見 U) 3 ^ 75 1 13 E V) U) 1) 南 3 之 他 11. 1:35 災 T 4 11: 11 V) 0 4 或 11 _E. 73 帧 4 V) 名 (3) 15. 17" .17 1.15 20 3 FL 15. V) 3) 7) .} 12 3 = H 733 植 文 V) 5 ŀ L 改 13 -15 73 33 15 73 附 V) 学 1

為

~

あ

ß

5

濁

쌝

附

活

学

で、二

学

並

續

0)

活

学

圣

4

混

用

L

T

30

3

4

illi

0

3

11

約

六

,

Fi.

分

-

L

7 煙

减

を

來

L

T

3

る

F

0

6

あ

b

5

کے

思

کم

あ

Ö

即

刷

面

を

紫

ず

3

13

細

5

学

7

太

60

1

لح

が

plix

別

3

17

3

方言

腳

U

分

は、

沂

刻

太

r J

分

は

度

17

使

Ш

附圖所收書目五十音別索引

十六夜日記 安樂集 間の本 伊勢物語聞書(竹聞抄) 並 (1) 鴉鴛合戰物語 (7) 伊曾保物語 伊勢物語関疑抄 秋夜長物語 阿爾陀經秘直談鈔 休水鏡 鑑 [1] 所 収 書 [] Hî. - [--Tra E 3 别 索 51 二本二七 100011五 北北一二五 (ア、イ、ウ、エ、オの 八 圣 宝黑

雲林神殼 うらみの 韻 所 群 鏡 玉 वीत वीत うつぼ物 宇治拾遺 本 抄 物語 介語

(**オ**)鹽山和泥合水集

☆ 巫

三

(I)

-{;

部

<u>Ti.</u>

品 宝

阳 简 所 收 書 B Æ. -1-音 531] 茶 l_j^I (カ*キ*クの 部

花傳書 花鳥風月 王澤不渴抄 大坂物語 **(1)**

科註妙法蓮華經 開心鈔 聯點至書 晦花先生語錄 類 要

|元:|六0

行事鈔

V)

物

H

乃 王

四四四

视世流遙本

昨日は今日の ぎやどへかどる

俱公口人(**力**) 含事傳書 論報書 頻源 疏

群書治要 君臣岡像 紹子人傳繪記 nij

鶴林玉露

寬永行幸記

格致除論鈔

解紛記

開元天寶遺

1

三九。四〇

錦繡段抄 錦繡段 排 数 融 新 野 北 丘 石 行

護律義

八

玉龙龙灵灵龙

古今十九史略通考古今祖會舉要 源氏物語 元亨釋書 古筆拾葉抄 五家正宗費 こんてむつすむん地 (3) 源平盛衰記 源信枕雙紙 源氏物語紹巴抄 慶長九年平假名活 戲言養氣集 (ケ) 月輪觀秘釋 華嚴五教章 附 所 宇曆日 收 片 П Ŧî. -17. 别 崇 ij. 101-1111-1111 三七五0六0 (ケ"コ"サ \equiv 翌 朵 宅 古五七 四五 0 部 孝經大義
江湖風月集略註 沙石集 皇朝事 孔子家語 後漢書 胡曾詩註 古文孝經 (#) 左大將六百番歌合 サカラメント 御成敗式目抄(貞永式日抄) 华 古文真實抄 古女眞寶(前集) 古文尚書 傳(春秋經傳集解) 園 經 事實類苑 (後集)

九

Filt 所 北 書 [] 17 33] 索 1][9 0 部

残儀兵的 百谷詩集註

(シ)

族大全

十八史略

周周

20

三體詩素隱抄

五三天 五九九 西芝至英面只

五.

語等表自動(表自集) 語等表自動(表自集)

十四經發揮 七九史略通 系樂物語 授決集 守護 迦 國界章 0 本地 15

 \cap

10000000000000000000000000000000000000		黎先生文集	材集	學集說	
	六七	八七	五五五	七九	
隨葉集	(3	z)	應劫祀	新增醫方大成發提	

部康節先生心易梅花數 問康節先生心易梅花數 淨瑠璃物語 填觀政要 祥刑要覽 派久記 貞永式目抄

(御成败式日抄)

象戲馬法

證類備用本草序例

職原抄 職原私抄

新學行要抄

新撰大銃波集 新古今和歌集

附

["] 所 收 書 П Ŧî. 1. Tr. 别 索 51

剪燈新話句解

剪燈除活

部

(也)

住吉物語

施氏七書講義 世該問答

清少納言枕草子政要抄 千字文(古注) 說文解字篆韻譜

仙傳抄(花傳抄)

(仙傳書)

先代舊事本紀 前關白秀吉公御檢地帳之目錄

三七三六

重 元0

所 收 書 H ∃î. 1. TÊ. 別 索 15 (ソ、ダ、チ、ツ 0

耀林類聚

莊子鷹齋日義(句解南華真律)曾我物語 素問 入式運氣論 則

續錦繡段 莊子抄

云云

益 头

泰定養生論

太平記抄

太平記賢愚抄

太平記抄音義

竹取物語

ぢんてき問

朝鮮國御進發之人數帳 中庸抄

勅撰名所和歌抄出 長恨歌傅

四三

四二二十二 查·益

意类

五七九十四

壸 云

(")

太大大大大大大大大(タ) 本大大大大大大大大大大大 平日 報 報 世 は と 抄 學 間 銀 集 論 んん

徒然草

徒然草(壽命院)抄

天台四教儀集註天台四教儀集解 東坂先生詩東垣先生十書 難經 推 抱 中 臣 破 本 義 (F) (テ) **(+)** 棠陰比事 ドチリイナ・キリシタン 一九五十九七

(**ハ**) 信 長 記 (1) 年 代 紀 略 (ネ)

新田左中將義貞軍記日本書紀神代卷 日本書紀

百官略 (書れ禮事) 百官略 (書れ禮事)

(テ、ト、ナ、ニ、ネ、ノ、ハ、ヒの部)

附 所 北 T. Π π -1. ař. 别 索 51

<u>-</u>---

三八 八 Ji.

書
1-0
H
1.1
H
71.
,
- -
TE
E 3
531]
1313
2.6-2
索
213
44.4
引
21
·
(7
7
9
7
(7,0
(7,4
(7,7,
(7,0,
(フ*へ、す
(フ*へ、か
(フ・ヘ・ホ
(フ*ヘ・ホ・
(フ・ヘ・ホ・マ
(フ、へ、ホ、マ
(フ*ヘ・ホ・マ
(フ、ヘ、ホ、マ
(フ、へ、か、マ の
(フ・ヘ・ホ・マ の
(フ*へ、か、マ の
(フ・ヘ・ホ・マ の
(フ、へ、ホ、マの)
(フ、へ、ホ、マの 帯
(フ、へ、ホ、マの部)
(フ、へ、か、マの部)
(フ、へ、ホ、マの部)
(フ、へ、ホ、マの夢)
(フ、へ、ホ、マの夢)
(フ、へ、ホ、マの夢)

佛祖歷代通載 百聯抄解 百喻經 百人一首 (7) 表白集(諸尊義自鈔) 百人一首宗祗抄 平假名活字曆日 104 <u>Ti.</u> 九 本朝女籍 法華玄義序 法華玄義序 本朝古今銘盡 法革經傳記 實物集 方丈記 補註蒙求 **篮籍內傳金鳥玉鬼集** 法華經文字聲韻

上头 五九

不家物語

京·1号·三四·三

平治物語

辨慶物語

過照發揮性靈集

保元物語

分葉抄

萬 翰 増 枕 舞 薬 東 書 鏡 子 本

(7)

三十三六 些实

第二年三六 100-171

[/1]

音訓篇集

[H] 所 1/2 P Π £ -1ir. 别 菜 ឭ (ミ、ム、メ、モ、ヤ、エ、ヨ、ノ

古完

三五元

九五。

文 蒙 蒙 求 迷 求

 A
 (コ) 大 大 八 八 (ヤ)

 薬 農
 (コ) 大 大 八 八 (ヤ)

 薬 薬 記
 (エ) 大 八 八 (ヤ)

 薬 薬 部
 (エ) 大 八 八 (ヤ)

 薬 薬 部
 (エ) 大 八 八 (ヤ)

 薬 薬 部
 (エ) カ (カ)

 薬 素 語
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ) カ (カ)
 (エ) カ (カ)

 ※ (エ)

Ti.

,,

実 戸 九六九

四九

論語 語語 数 老子經 **(** 老子屬齋口義

列子屬齋口義 連歌至實抄

(IL) (V) 類字名所和歌集

占

(7)

龍 六 (リ) 龕 手 鑑

五点 갖 스

豐

四-三0-七1-七二

和玉篇和歌題林抄 和名集並異名製劑記 倭名類聚鈔 倭漢皇統編年合運圖

Īi.

六六



